高等学校の新学習指導要領解説書における「新聞」関連記述（抜粋）

この資料は、新学習指導要領（平成３０年３月告示）解説（同年７月）から、「新聞」「報道」「論説」「ニュース」などの記述を抜き出したものです。「新聞」以外の語句については、新聞との関連性を勘案して抽出しています。

【総　則】

第４章　教育課程の実施と学習評価

第１節　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

３　コンピュータ等や教材・教具の活用（第１章総則第３款１(3)）

(3) 第２款の２の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため，各学校において，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え，これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また，各種の統計資料や新聞，視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。

生徒に第１章第２款２(1)に示す情報活用能力の育成を図るためには，各学校において，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段及びこれらを日常的・効果的に活用するために必要な環境を整えるとともに，各教科等においてこれらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが重要である。また，教師がこれらの情報手段に加えて，各種の統計資料や**新聞**，視聴覚教材や教育機器などの教材・教具を適切に活用することが重要である。（略）

各教科等の指導に当たっては，教師がこれらの情報手段のほか，各種の統計資料や**新聞**，デジタル教科書やデジタル教材、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ることも重要である。各教科等における指導が，生徒の主体的・対話的で深い学びへとつながっていくようにするためには，必要な資料の選択が重要であり，とりわけ信頼性が高い情報や整理されている情報，正確な読み取りが必要な情報などを授業に活用していくことが必要であることから，今回の改訂において，各種の統計資料と**新聞**を特に例示している。これらの教材・教具を有効，適切に活用するためには，教師は機器の操作等に習熟するだけではなく，それぞれの教材・教具の特性を理解し，指導の効果を高める方法について絶えず研究することが求められる。（略）

６　学校図書館，地域の公共施設の利活用（第１章総則第３款１(6)）

(6) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに，生徒の自主的，自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また，地域の図書館や博物館，美術館，劇場，音楽堂等の施設の活用を積極的に図り，資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

（略）また，これからの学校図書館には，読書活動の推進のために利活用されることに加え，調べ学習や**新聞**を活用した学習など，各教科等の様々な授業で活用されることにより，学校における言語活動や探究活動の場となり，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されている。（略）

こういった学校図書館の利活用を進めるに当たって，学校図書館における図書館資料の充実と，学校図書館の運営等に当たる司書教諭及び学校司書の配置の充実やその資質・能力の向上の双方を図ることが大切である。図書館資料については，図書資料のほか，雑誌，**新聞**，視聴覚資料，電子資料（各種記録媒体に記録・保存された資料，ネットワーク情報資源（ネットワークを介して得られる情報コンテンツ）等）等の図書以外の資料が含まれており，これらの資料について，生徒の発達の段階等を踏まえ，教育課程の展開に寄与するとともに，生徒の健全な教養の育成に資する資料構成と十分な資料規模を備えるよう努めることが大切である。また，司書教諭及び学校司書については，学校図書館がその機能を十分に発揮できるよう，学校図書館の館長としての役割も担う校長のリーダーシップの下，各者がそれぞれの立場で求められている役割を果たした上で，互いに連携・協力し，組織的に取り組むよう努めることが大切である。（略）

【国語科】

第１章　総説

第４節　国語科の内容

２　〔知識及び技能〕の内容

(3) 我が国の言語文化に関する事項

〇読書

読書の意義や効用などに関する事項である。

読書は，国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである。自ら進んで読書をし，読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために，国語科の学習が読書活動に結び付くよう発達の段階に応じて系統的に指導することが求められる。

なお，読書とは，本を読むことに加え，**新聞**，雑誌を読んだり，何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいる。（略）

第２章　国語科の各科目

第１節　現代の国語

３　内容

〔思考力，判断力，表現力等〕

Ａ　話すこと・聞くこと

〇話題の設定，情報の収集，内容の検討

ア　目的や場に応じて，実社会の中から適切な話題を決め，様々な観点から情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討すること。

目的や場に応じて，適切な話題を決め，様々な観点から情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討することを示している。

「現代の国語」では，中学校との接続を考慮し，話題を設定する範囲を実社会の中からとしている。（略）

実社会の中から適切な話題を決めるとは，実社会の事象や話題（社会的な話題，国際的な話題，文化的な話題，地域に関する話題など）について，テレビや**新聞**，インターネットなどの様々な媒体を通じて伝えられることに加えて，必要に応じて予備的な調査を行ったり専門的な研究の成果を踏まえたりして，目的や場にふさわしい話題を選択することである。

様々な観点から情報を収集，整理するためには，話題となる事柄自体が多様な側面を持つこと，立場や文化的背景の相違などから様々なものの見方や考え方が存在することなどを理解する必要がある。その上で，資料に当たったり関係者にインタビューをしたりなどして幅広く調べ，目的に応じて整理することを求めている。対象とする文章の形態や文章の内容や分野の幅を広げるとともに，図書館の目録を検索したりウェブページを検索したりするなど本や文章を手に入れる方法や場についても適切に選択する必要がある。なお，ウェブサイトの情報には，その信頼性や妥当性に十分留意する必要がある。（略）

〇表現，共有（話すこと）

ウ　話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど，相手の理解が得られるように表現を工夫すること。

中学校第２学年のウ，第３学年のウを踏まえ，相手の理解が得られるように表現を工夫することを示している。

実社会では多様な聴衆を対象とし，的確に伝えるとともに速やかに用件をやりとりすることが考えられる。その際，相手の理解が得られない部分を的確に捉え，臨機応変に表現を工夫する必要がある。そのためには，話し言葉の特徴を踏まえて話したり，場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりすることなどが重要である。（略）

場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いるためには，目的を踏まえるとともに，実際に話す状況に照らしながら，それらの効果を考える必要がある。ここでの資料とは，話題に応じて，本だけでなく**新聞**，パンフレットやチラシ，ポスター，公示・通達・契約書などの文書など，その種類は多岐にわたる。また，図表やグラフなどについても，既成のものを引用するだけでなく,必要に応じて,元の資料と照らしてその信頼性を確認したり，情報を整理，分析し，新たに作成したものを用いたりすることなどが考えられる。資料を用いる際には，その内容の重要度を明確にし，話す内容との関係を十分考慮しながら適切に用いることが重要である。（略）

B　書くこと

〇構成の検討，考えの形成，記述

ウ　自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫すること。

中学校第３学年のイ及びウを受けて，自分の考えや事柄が的確に伝わるよう，根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに，文章の種類や，文体，語句などの表現の仕方を工夫することを示している。

自分の考えや事柄が的確に伝わるとは，書き手が伝えたい考えや事柄が,間違いなくかつ過不足なく読み手に受け止められることである。

根拠の示し方には，文章で示すか図表やグラフを用いて示すかといった，示す方法に関することと，自分の実体験（１次情報）に基づくか，聞き書きなど他者の体験の引用（２次情報）によるか，**新聞**等で得られた情報（３次情報）を利用するかといった情報の種類に関わることの両方が含まれている。想定する読み手や伝えたい情報の種類などを検討した上で，最もふさわしい方法を選択する必要がある。

また，説明の仕方には，例えば，出来事や事実などを説明する場合には，全体を俯瞰した後に細部を説明する仕方や，部分の説明を積み重ねて全容を説明する仕方などが，意見や考えを説明する場合には，箇条書きなどキーワード等を示して手順を説明する仕方や，主張と論拠のみを簡潔に示して説明する仕方，主張と論拠に併せて多くの具体例を示し詳細に説明する仕方などがある。

これらを，自分の考えや伝えたい事柄に合わせて組み合わせ，読み手に間違いなくかつ過不足なく伝わるように記述していくことが求められている。

ここでの文章の種類とは，論理的な文章（説明，**論説**，評論など），実用的な文章（記録，報告，**報道**，手紙など）といった，事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説，物語，詩，短歌，俳句などの文学作品を除いた，いわゆる非文学）の文章の種類を指す。これを踏まえた，書くことの指導における言語表現の種類としては，説明，記録，報告，意見，主張のための文章，通信や伝達を目的とした文章などがある。（略）

〇言語活動例

ア　論理的な文章や実用的な文章を読み，本文や資料を引用しながら，自分の意見や考えを論述する活動。

論理的な文章や実用的な文章の本文や資料を引用しながら，自分の意見や考えを論述する活動を示している。

ここでの論理的な文章とは，現代の社会生活に必要とされる，説明文，**論説**文や解説文，評論文，意見文や批評文などのことである。一方，実用的な文章とは，一般的には，実社会において，具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり，**新聞**や広報誌など**報道**や広報の文章，案内，紹介，連絡，依頼などの文章や手紙のほか，会

議や裁判などの記録，報告書，説明書，企画書，提案書などの実務的な文章，法令文，キャッチフレーズ，宣伝の文章などがある。また，インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも，実務的な文章の一種と考えることができる。論理的な文章も実用的な文章も，事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説，物語，詩，短歌，俳句などの文学作品を除いた，いわゆる非文学）の文章である。

書く目的や意図に応じてこれらの文章を読み，必要な情報を収集して，その本文や関連する他の資料を適切に引用しながら，自分の意見や考えを論述する活動である。

なお，本文や資料を引用するのは，自分の意見や考えを論述する目的に照らして必要であるためであり，「Ｃ読むこと」ではなく，あくまでも「Ｂ書くこと」の言語活動であることに留意する。引用には，その情報を根拠として示すことによって自分の意見や考えを補強して説得力を高めたり，論点を提示したりする役割などがある。引用した部分と自分の意見や考えとを明確に書き分けること，資料には必ず出典を明記することなど，論述する際の基本的なルールについて留意する必要がある。

イ　読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり，書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動。

読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり，書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする活動を示している。

手順書とは，一般に，業務や作業を適切に行うための方法や基準を解説した文書のことであり，取扱説明書（マニュアル）もその一つである。紹介文とは，読み手が知らないことや知りたいと想定されることを伝える文章のことである。人や物の紹介には，推薦書，本の紹介，部活動の紹介，製品のカタログ，**広告**，宣伝などがあり，その範囲は幅広い。

言語活動としては，例えば，図書の貸し出しの手順を示す掲示物やマニュアル，さらには図書館そのものの利用規程を書いたり，地域の魅力について簡潔に紹介したりする活動が考えられる。いずれも，読み手が必要とする情報を的確に捉えたり想定したりすることが重要である。（略）

Ｃ　読むこと

〇構造と内容の把握

ア　文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握すること。

中学校第３学年のアを受けて，文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握することを示している。

文章の種類とは，ここでは現代の社会生活に必要とされる論理的な文章や実用的な文章を指す。論理的な文章とは，現代の社会生活に必要とされる，説明文，**論説**文や解説文，評論文，意見文や批評文などのことである。一方，実用的な文章とは，一般的には，具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり，**新聞**や広報誌など**報**

道や広報の文章，案内，紹介，連絡，依頼などの文章や手紙のほか，会議や裁判などの記録，報告書，説明書，企画書，提案書などの実務的な文章，法令文，キャッチフレーズ，宣伝の文章などがある。また，インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも，実務的な文章の一種と考えることができる。論理的な文章も実用的な文章も，事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説，物語，詩，短歌，俳句などの文学作品を除いた，いわゆる非文学）の文章である。

文章の種類を踏まえるとは，これらの文章は，書かれる目的や表現方法，書式などが異なるため，それぞれの文章の特徴を捉えた上で読むことの対象とするということである。

内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉えるとは，その文章が書き手の主張を支えるために，材料としてどのようなものを選び，それをどのように組み立て，どのような筋道で考えなどを述べているのかを，文章の叙述を基に的確に捉えることである。

要旨とは，文章の内容の中心的な事柄や書き手の考えの中心となる事柄のことである。

また，要点とは，一続きの文章のみではなく，主として箇条書きや図表などを含む実用的な文章の場合に，内容の中心となる事柄を指す。（略）

〇精査・解釈，考えの形成，共有

イ　目的に応じて，文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら，内容や書き手の意図を解釈したり，文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに，自分の考えを深めること。

中学校第３学年のイ，ウ及びエを受けて，目的に応じて，文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら，内容や書き手の意図を解釈したり，文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに，自分の考えを深めることを示している。

現代の社会生活で必要な**論理的な文章**や**実用的な文章**は，具体的な目的や働きといった明確な役割を担っている。この点は，社会的に高い評価を受け，文化的な価値を蓄積してきた評論や小説等とは異なっている。具体的な社会生活の場面の中でこれらの文章を読む際には，何らかの目的に応じて文章の内容が解釈され，読み手の判断や行動が促されていく。これらの文章の文脈を意識した読む資質・能力の育成が，これからの時代には求められる。

文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けるとは，読む対象の多様性と複数性を踏まえた情報の関連付けを意味している。読む対象には，同じ形式で書かれた一続きの文章のほか，異なる形式で書かれた文章が組み合わされているものがある。中には，概念図や模式図，地図，表など様々な種類の図表を伴う文章もある。文章と図表などの断片的な情報がどのように相互に関連しているかを確認するなどして，より的確に内容を捉えるとともに，その結果，どのような効果が生まれているのかを考える必要がある。

書き手の意図を解釈するとは，例えば，個々の段落の働きを確かめたり，段落相互の関係を読み取ったりすることで，文章に表れている書き手の思考の流れに目を向け，書き手

の考えの強調点を読み取り，なぜこの文章を書いたのか，なぜこのように書いたのかということにまで迫ることである。

現代の社会生活で読まれる**論理的な文章**や**実用的な文章**における書き手の意図を解釈する場合，書き手は単一の個人である場合もあれば，組織や機関といった集団である場合もあることに留意する必要がある。

文章の構成や論理の展開などについて評価する場合，読み手の目的に照らして，文章の組立て方や筋の流れが効果的か，また意図を分かりやすく伝えているかなどの観点から，文章の構成や論理の展開についての適否や善し悪しを判断するとともに，どのような特徴があるかについても具体的に指摘できるようにすることが必要である。こうした文章に関する評価は，情報を鵜呑みにせず多角的に検討する，批判的に読むための基本となる。

批判的に読むとは，文章に書かれていることをそのまま受け入れるのではなく，文章を対象化して，吟味したり検討したりしながら読むことである。また，読み手の目的や必要に応じて,文章の中の情報を取り出したり,別の文章や情報と関連付けて解釈したりして，考えを深めることにつなげていくことも批判的に読むことの内実である。（略）

〇言語活動例

ア　論理的な文章や実用的な文章を読み，その内容や形式について，引用や要約などをしながら論述したり批評したりする活動。

論理的な文章や実用的な文章を読み，その内容や形式について，引用や要約などをしながら論述したり批評したりする活動を示している。

ここでの論理的な文章とは,現代の社会生活に必要とされる,説明文,**論説**文や解説文，評論文，意見文や批評文などのことである。一方，実用的な文章とは，一般的には，実社会において，具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり，**報道**や広報の文章，案内，紹介，連絡，依頼などの文章や手紙のほか，会議や裁判などの記録，報告書，説明書，企画書，提案書などの実務的な文章，法令文，キャッチフレーズ，宣伝の文章などがある。また，インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも，実務的な文章の一種と考えることができる。論理的な文章も実用的な文章も，事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説，物語，詩，短歌，俳句などの文学作品を除いた，いわゆる非文学）の文章である。

これらの文章を読んで，その内容や形式について論述したり批評したりする活動を行う際に，必要に応じて，引用や要約などをすることで，文章の構造と内容を的確に把握したり，解釈を深めたりすることができる。論述や批評をすることによって，把握した構造や内容のどこを重視しているか，表現の仕方の特長や課題など形式についての考えを明らかにすることができる。例えば，安全とは何かを論じた複数の**論説**文を読み比べて書き手の考えや論じ方の違いを明らかにし，どちらが適切かについて本文を引用しながら論述する活動などが考えられる。

イ　異なる形式で書かれた複数の文章や，図表等を伴う文章を読み，理解したことや解釈

したことをまとめて発表したり，他の形式の文章に書き換えたりする活動。

異なる形式で書かれた複数の文章や，図表等を伴う文章を読み，理解したことや解釈したことをまとめて発表したり，他の形式の文章に書き換えたりする活動を示している。

例えば，条例文とその趣旨を分かりやすく解説した文章など，異なる形式で書かれた複数の文章を比較しながら読んだり，図表等を伴う文章を相互に関連付けながら読んだりして，解釈したことを聴衆に向けてまとめて発表したり，わかりやすく**新聞**などに書き換えたりする活動が考えられる。比較したり，関連付けたりする際には，相違点や対立点だけでなく，共通点や類似点などにも目を向けさせることで，推論のための基盤が整う。

例えば，自治体の条例をめぐる複数の意見文（**複数の新聞の社説及び記事**と，信頼できるインターネット上のコメント）等を読んで，議論の対立点を捉えるとともに，それぞれの論拠の妥当性を検討して，条例のどこをどのように修正すべきかを考えるといった活動が考えられる。

４　内容の取扱い

(4) 教材については，次の事項に留意するものとする。
ア　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の教材は，現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章とすること。

論理的な文章とは，説明文，**論説**文や解説文，評論文，意見文や批評文などのことである。現代の社会生活に必要とされる論理的な文章とは，これらのうち，これまで読み継がれてきた文化的な価値の高い文章ではなく，主として，現代の社会生活に関するテーマを取り上げていたり，現代の社会生活に必要な論理の展開が工夫されていたりするものなどを指している。

一方，実用的な文章とは，一般的には，実社会において，具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり，**新聞**や広報誌など**報道**や広報の文章，案内，紹介，連絡，依頼などの文章や手紙のほか，会議や裁判などの記録，報告書，説明書，企画書，提案書などの実務的な文章，法令文，キャッチフレーズ，宣伝の文章などがある。また，インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも，実務的な文章の一種と考えることができる。

現代の社会生活における実用的な文章には，図表や写真などを伴う文章が多いことから，指導のねらいに応じて，これらを教材として適宜取り上げることが必要である。図表や写真などを含むものとは，異なる形式で書かれた文章が組み合わされているものや，概念図や様式図，地図，表，グラフなどの様々な種類の図表や写真を伴う文章などが挙げられる。これらの関係は，断片的な情報が互いに内容を補完し合っている場合，文章が図表などの解説になっている場合などがある。なお，取り上げる場合には，表やグラフの読み取りが学習の中心となるなど，他教科等において行うべき指導とならないよう留意する必要がある。

論理的な文章も実用的な文章も，事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説，物語，詩，短歌，俳句などの文学作品を除いた，いわゆる非文学）の文章である。

読むことの教材については，単に文章や作品といった意味にとどめて読み取りに重点を置きすぎることなく，生徒自らが見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう，具体的な学習の手立てや方向性も併せて示したものとして考えていくことが大切である。

第２節　言語文化

３　内容

〔知識及び技能〕

(2) 我が国の言語文化に関する事項

〇読書

カ　我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。

中学校第３学年のオを受けて，我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めることを示している。

我が国の言語文化への理解とは，上代から近現代までの連続した時間の中で言語と文化の関わりについて，多様な視点で考えたり新たな認識を深めたりすることを指している。そのためには実体験だけでなく，読書を通して新しい知識を得たり，自分の考えを広げたり深めたりすることが必要となる。

具体的には，同一のテーマについて描かれた複数の作品を読み比べ，それぞれの作品の歴史的・文化的背景の違いを考えながら，人間，社会，自然などについて考えたり，当時の人々のものの見方，感じ方，考え方を味わったりすることなどが考えられる。古典を読む場合には，原文で味わうことも大切であるが，現代語訳を読んで作品の世界を身近に感じることに重点を置く読み方も重要となる。さらに，古典を翻案した近現代の物語や小説などを読むことによって，古典の世界を身近に感じることができるだけでなく，伝統的な言語文化が享受された一つの在り方に触れることができる。

また，物語や小説だけでなく，韻文や脚本，随筆，文化を論じた近現代の評論など幅広い分野の作品を視野に入れることも大切である。図書館などで図書に触れることに加え，**新聞**やインターネットなどの図書の紹介欄にも積極的に目を通し，読書に対する自分の興味・関心の幅を広げながら，多くの図書を読んでいくような読み方も大切である。

〔思考力，判断力，表現力等〕

Ｂ　読むこと

〇構造と内容の把握

ア 文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開などについて叙述を基に的確に捉えること。

中学校第３学年のアを受けて， 文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開などについて

叙述を基に的確に捉えることを示している。

文章の種類には，文語文と口語文，韻文体と散文体，和文体の文章と漢文体の文章と翻訳文体の文章などの文体による整理や，実用的な文章，論理的な文章，文学的な文章など書き手の目的や意図，虚構性の有無などによる整理などがある。これらの文章はそれぞれ特徴をもち，文章の用途に応じて適宜用いられる。文章の種類を踏まえるとは，対象となる文章が，これらのどれに属し，どのような特徴を持っているかを把握しておくことを意味する。

内容や構成,展開などとは文章を読む際に把握すべき事柄について示している。「言語文化」では，近代以降の評論や**論説**などの論理的な文章については，我が国の伝統と文化に関するものを活用することを示している。書き手は，我が国の伝統と文化について，何を述べようとしているのか，何を読み手に伝えようとしているのか，そのためにどのような筋道で文章を書き進めているのかなどを念頭に置き，話題の展開を推測しながら，思い込みや誤解がないように，叙述を注意深くかつ丁寧に捉えることが求められる。それによって，読み手の中に書き手のものの見方や考え方とその筋道がはっきりと浮かび上がることが重要である。文学的な文章の場合，内容には，作品や文章に明示されており的確に把握できる人物や心情，情景の描写などが含まれるが，ここでは，叙述を基に的確に捉えられるものを対象としている。特に，心情の把握については，文章に明示されている叙述により，読み手が読み取るべきものを間違いなくかつ過不足なく捉えることが重要である。読み手は,あくまでも叙述に即して,出来事や場面の推移などを把握することが求められる。また，登場する人物が他の人物や出来事などとどのような関係を形成しているのか，それがどう変化しているのかを，人物や情景の描写などを根拠として捉えることが，精査・解釈の前提となる。

４　内容の取扱い

(4) 教材については，次の事項に留意するものとする。

ア　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ｂ読むこと」の教材は，古典及び近代以降の文章とし，日本漢文，近代以降の文語文や漢詩文などを含めるとともに，我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう，我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げること。また，必要に応じて，伝承や伝統芸能などに関する音声や画像の資料を用いることができること。

〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ｂ読むこと」の教材は，古典及び近代以降の文章としていることを示している。なお，古典とは，古典としての古文と漢文を指している。

〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ｂ読むこと」の教材は，内容の取扱いの(1)のイ及びウに示した配慮事項を踏まえ，古典と近代以降の文章の両方にわたって選定する必要がある。その際，古典としての古文には，和歌，俳諧，物語，随筆，日記，説話，浮世草子，能，狂言など，漢文には，思想，史伝，詩文など，そして，近代以降の文章には，詩歌，

小説，随筆，戯曲，説明，**論説**，評論，記録，報告，**報道**，手紙など，多種多様なものがあることに留意する必要がある。（略）

第３節　論理国語

３　内容

〔思考力，判断力，表現力等〕

Ａ　書くこと

〇言語活動例

ウ　社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考にして，自分の考えを短い論文にまとめ，批評し合う活動。

社会的な話題について書かれた資料を集めて読み，条件を付加したり，立場を変えたりして，論文を書き，批評し合う言語活動を示している。

論説文とは，ある事柄についての書き手の分析を踏まえた解説と主張が含まれた論理的な文章のことである。その関連資料とは，分析や主張の根拠となった図表などを含む情報や，同じ話題についての異なる立場で書かれた文章などの様々な資料のことである。

論文とは，要旨，目的，方法，結果，考察，結論のような論証の手続きを備えた文章のことである。短い論文を書く場合は，あらかじめ重要な論点を絞って書く指導が必要である。

ここでの批評し合うとは，短い論文に記された自分の考えが，適切な根拠に基づいて述べられているか，文章の構成や論理の展開が適切かどうかを多様な観点から互いに吟味し合い，主張が明確に伝わっているか確認し合うことである。例えば，予想される反論について検証したり，良い論文についての条件を考え，互いの論文の良い点，改善点を確認し合ったりすることなどが考えられる。批評し合うことは，根拠や論拠を吟味し，客観的な表現になっているか，段落の構造に矛盾がないか等に注意を払い，慎重に語句を選び一文一文を注意して書き進める姿勢を育てる。自らの文章や主張を批判的に見直して書き直す活動につなげていくことが求められる。

エ　設定した題材について多様な資料を集め，調べたことを整理して，様々な観点から自分の意見や考えを論述する活動。

設定した題材について多様な資料を集め，調べたことを整理して，様々な観点から自分の意見や考えを論述する言語活動を示している。

多様な資料を集めるとは，設定した題材に関するあらゆる資料のことを指す。題材についての異なる論点を持つ資料や，**新聞記事**，統計資料，映像など多様な媒体で表現されたものも含めて，情報を収集，整理して，それらの真偽を確かめ，論述するために活用できるようにまとめることが重要である。

様々な観点から自分の意見や考えを論述するためには，多様な資料を集め，調べたことを整理する中で，自分の考えを組み立てた過程を振り返り，複数の視点から再検討するこ

とが必要となる。論述する活動には，論文を書くだけでなく，意見文や論説文などの文章も含まれる。社会的な話題について関連する資料を読み，様々な観点からそれらの概要をまとめるとともに，それらに関連した自分の意見などを明確にして論文にまとめるなどの活動が考えられる。

B　読むこと

〇構造と内容の把握

ア　文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などを的確に捉え，論点を明確にしながら要旨を把握すること。

「現代の国語」の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の(1)の「ア　文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握すること。」を受けて，特に論点を明確にしながら要旨を把握することを示している。

文章の種類を踏まえるとは，ここでは，文章の内容や構成などを捉えたり要旨を把握したりする際に，その前提として，評論や説明，**論説**，学術論文などの文章の種類によって，書かれる目的と対象，表現方法などが異なることを踏まえることを指している。

内容や構成，論理の展開などを的確に捉えるとは，その文章が書き手の主張を支えるために，材料としてどのようなものを選び，それをどのように組み立て，どのような筋道で考えなどを述べているのかなどを的確に捉えることである。

論点とは議論の中心となる問題点や議論の要点のことである。論証を目的とする文章には，一つまたは複数の論点がある。論点を明確にしながらとは，例えば，学術論文など，一つ一つの段落が典型的な構造をもっている文章を読む手立てとして，各段落の中心となる文に着目して読むことなど，適切な手立てを用いて文章の中心となる部分を明らかにしながら理解することである。

また，ある文章の中にどのような論点があるのか，複数の論点の中で何が中心として述べられているのか，などを常に考えながら読むことも重要である。

その上で，書き手による構成や展開の仕方をたどりながら，書き手のものの見方や考えの進め方を捉えることで，書き表そうとした中心的な内容を誤りなく把握することが大切である。例えば，**論説**や評論などでは，文章の中心となる主要な論点と，具体例，説明，補足，反証など主張を支える従属的な論点とがある。要旨を把握する際には，主要な論点と従属的な論点とを判別し，その関係を押さえた上で，主要な論点を的確に読み取ることが重要である。

イ　文章の種類を踏まえて，資料との関係を把握し，内容や構成を的確に捉えること。

中学校第２学年の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の「ウ　文章と図表などを結び付け，その関係を踏まえて内容を解釈すること。」及び「現代の国語」の〔思考力，判断力，表現力等〕の「C読むこと」の(1)の「ア　文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握すること。」を受けて，

様々な文章の種類を踏まえて，資料との関係を把握し，内容や構成を的確に捉えることを示している。

文章の種類を踏まえるとは，例えば，提案書や契約書，法令文など，それぞれの文章の種類に固有の特徴を踏まえることである。ここでの文章の種類とは，特に図や表を含む複数の資料とともに記された，**論理的な文章**や**実用的な文章**といった，事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説，物語，詩，短歌，俳句などの文学作品を除いた，いわゆる非文学）の文章を想定している。

資料との関係を把握するとは，主張とそれを支える資料が，書き手の主張に対してどのような役割を果たしているかを把握することである。例えば，**論理的な文章**において主張を支える根拠となるデータが示されていたり，**実用的な文章**において内容を簡潔に示した図が示されていたりする場合においては，文章が書かれた目的と文章，資料の関係を合わせて把握することが必要である。なお，ここでの資料とは，統計などの情報を整理した図表，写真，地図などのデータとしての情報や，関連する法令，主張を検討するうえで参考となる文献など，文章の主張を支える多様な情報を含めたものである。

内容や構成を的確に捉えるとは，資料も含めた文章の内容や構成について，書き手の意図を踏まえて的確に捉えることである。その際，文章が誰を対象として，どのような主張をするために書かれているか，主張を支えるために資料がどのように効果的に用いられているか，などを考えることが必要である。

〇精査・解釈【②】

エ　文章の構成や論理の展開，表現の仕方について，書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。

主に「現代の国語」の〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ｃ読むこと」の(1)のイと，「言語文化」の〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ｂ読むこと」の(1)のウを受けて，文章の構成や論理の展開，表現の仕方について，書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することを示している。

文章の構成や論理の展開，表現の仕方について，書き手の意図との関係を捉える際には，文章から明らかに捉えることのできる意図だけでなく，文脈から想定される意図も考えることが必要である。この文章で書き手は何を伝えようとしているのかということを誤りなく把握するためには，文章に表れている書き手の思考の進め方に着目し，書き手の考えや強調点を読み取ることが大切である。例えば，学術論文などの**論理的な文章**で示される書き手の意図と，ある事例の報告書などの**実用的な文章**で示される書き手の意図とでは，文章から捉えることのできる書き手の意図の明晰さについては，異なることに留意する必要がある。なお，書き手の意図には，文章の内容に表れている書き手の考えのみならず，なぜこの文章を書いたのか，なぜこのように書いたのかということも含まれる。

その上で，書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価するとは，文章の種類を踏まえて，その対象とする読み手に対して，例えば，書き手の意図を相手や目

的を考えた構成か，資料の示し方が分かりやすいかなど，明確に伝える適切な構成や展開になっているか評価することや，文章の表現を検討して，書き手がどのように伝えようとしているか，その意図を推測し評価することなどをいう。

〇考えの形成，共有【②】

キ　設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に，必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。

主体的に学習に取り組む態度を育成するためには，与えられた課題について学習を進めるだけでなく，それまでの学習経験や身に付けた能力などを生かしながら，課題を自ら設定し探究していく学習が大切である。文章を読んだ後の生徒の興味・関心のもち方は多様であり，設定する課題も，内容，表現の両面にわたる。

題材には，人文科学系，社会科学系，自然科学系等の別を問わず，例えば，新書や**新聞の社説**などで取り上げられる様々な分野の学術的な学習の基礎的な課題に対して，論点が明確になるようなものを設定する必要がある。

関連する複数の文章や資料を基にとは，題材を考察するための手立てである。学校図書館，地域の図書館，インターネットなどで参考となる資料を調べたり，現地に出かけて取材したりするなど，様々な方法によって設定した題材に関する情報を収集，整理し，それについて分析，考察を行って分かったことや考えたことをまとめるなどの学習を取り入れることである。

必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりするとは，例えば，学術的な学習の基礎について，資料を読んで得た様々な知識や思想を通して，自分の思想を新たな視点で捉え直して，より深めたり発展させたりすることである。

〇言語活動例

ア　論理的な文章や実用的な文章を読み，その内容や形式について，批評したり討論したりする活動。

現代の社会生活で必要とされる**論理的な文章**（**論説**文や解説文，社会生活に関する意見文や批評文等）や**実用的な文章**（法令文・記録文・報告文，宣伝文等）といった，事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説，物語，詩，短歌，俳句などの文学作品を除いた，いわゆる非文学）の文章を，目的を持って読み，文章の中心的な内容を引用したり要約したりしながら，批評したり討論したりする活動を示している。

批評するとは，文章の内容や形式など，対象とするものの特性や価値などについて，論じ，評価することである。討論するとは，文章の内容や形式など，対象とするものの特性や価値などについて，それぞれの立場からの考えを述べ合うなどして，考えの相違点や共通点を基に論じ合うことである。

批評したり討論したりする活動には，**論理的な文章**や**実用的な文章**など文章の種類を踏まえて，その文章が書かれた目的や対象を明確にしながら，要旨を把握し，あらかじめ内容や形式に対する自分の考えを持つことが必要である。

内容や形式については，書き手の考えの妥当性や適切性の判断，賛否の立場を明確にすることや，論点が妥当かどうか検証すること，論理の形式や展開を検証することや，資料との関連の適合性を判断することなどが必要となる。

その上で批評したり討論したりするとは，内容や形式について，吟味の結果を評価として述べたり,評価として述べられたことを，互いに共有して，その適否や妥当性を検討して自分の考えを深めたりする活動である。

イ　社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を読み，それらの内容を基に，自分の考えを論述したり討論したりする活動。

論説文やその関連資料とは，ある事柄についての書き手の分析を踏まえた解説と主張が含まれた論理的な文章や，分析や主張の根拠となった図表などを含む情報や，同じ話題についての異なる立場で書かれた文章などの様々な資料のことである。

自分の考えを論述するとは，論文を書く活動のほか，意見文や**論説**文などの文章を書く活動も想定できる。様々な観点から自分の意見や考えを論述するためには，多様な資料を集め，調べたことを整理する中で，自分の考えを組み立てた過程を振り返り，再検討することが必要となる。

また討論する活動とは，評価として述べられたことを，互いに共有して，その適否や妥当性を検討して深める活動である。

これらの指導に当たっては，社会的な話題について書かれた**論説**文やその関連資料を読んだ内容を基に，自分の考えを構築する場面を適切に設定することが重要である。

ウ　学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文を読み，自分の考えを論述したり発表したりする活動。

学術的な学習の基礎に関する事柄について書かれた短い論文とは，例えば，専門的な学習の入門者向けに書かれた概説書や新書の文章，また論文の要旨などを指す。指導に当たっては，これらの文章を読んだ内容を基に，自分の考えについて新たな視点から検証して再構築する場面を適切に設定することが重要である。

自分の考えを論述したり発表したりするとは，論文を書くほか，意見文，**論説**文などの文章を書いたり,ポスターセッションやプレゼンテーションなどの発表の方法を用いたりすることができる。その際には，自分の考えを書いたり,発表したりするだけでなく，読み手や聞き手に対してどのように伝わったか，改めて検討する場面を設定すると効果的である。これらの活動を通して，学術的な文章に対しての理解を深めることを意図している。

エ　同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章を読み比べ，それらを比較して論じたり批評したりする活動。

同じ事柄について異なる論点をもつ複数の文章とは，例えば，ある事柄について賛否が分かれる文章や，同じ書き手の考え方の変遷が分かる文章，対立する視点を持つ文章などを指し，近代以降の論理的な文章や現代の社会生活に必要とされる**実用的な文章**のほか，翻訳の文章や古典における論理的な文章なども含んでいる。

これらの文章を，読み比べて比較することで，それぞれの文章が持つ論点の共通点や相違点を整理して論じることができる。その上で，論じたり批評したりする際には，対象となる事柄について，そのものの特性や価値などについて，異なる論点を持つ複数の文章を読み比べることによって得た情報を踏まえて，根拠をもって論じたり評価したりすることが効果的である。

４　内容の取扱い

(3) 教材については，次の事項に留意するものとする。
ア　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ｂ読むこと」の教材は，近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章とすること。また，必要に応じて，翻訳の文章や古典における論理的な文章などを用いることができること。

内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ｂ読むこと」の教材は，近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章とすることを示している。

近代以降の論理的な文章とは，明治時代以降に書かれた，説明文，**論説**文や解説文，評論文，意見文や批評文，学術論文などの論理的な文章のことである。

一方，実用的な文章とは，一般的には，実社会において，具体的な何かの目的やねらいを達するために書かれた文章のことであり，**報道**や広報の文章，案内，紹介，連絡，依頼などの文章や手紙のほか，会議や裁判などの記録，報告書，説明書，企画書，提案書などの実務的な文章，法令文，キャッチフレーズ，宣伝の文章などがある。また，インターネット上の様々な文章や電子メールの多くも，実務的な文章の一種と考えることができる。これらのうち，ここでは，成立して時間が経過し文化的価値が高まったものではなく，現代の社会生活に必要とされるものを取り上げることを示している。

論理的な文章も実用的な文章も，事実に基づき虚構性を排したノンフィクション（小説，物語，詩，短歌，俳句などの文学作品を除いた，いわゆる非文学）の文章である。論理的な文章や実用的な文章については，その目的が言語表現としてどのように実現されているか，その言語表現が社会生活などにおける目的の達成のために実際にどのように機能することが期待されているか，などの視点に立って読んでいくことが求められている。（略）

第４節　文学国語

３　内容

〔思考力，判断力，表現力等〕

Ｂ　読むこと

〇言語活動例

ア　作品の内容や形式について，書評を書いたり，自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。

文学的な文章を読んで，内容や形式などについて解釈したり考察したりしたことを表現

する言語活動を示している。

書評とは，書物の内容を批評・紹介した文章のことであり，作品の紹介とともに内容に関する評価について書かれている必要がある。**新聞**や文芸雑誌における書評では新刊の書物や文章に関するものが一般的であるが，ここでは発表された時期にかかわらず，すべての文学的な文章を対象とする。

書評を書いたり，自分の解釈や見解を基に議論したりするに当たっては，作品の構成，展開などを捉えること，書かれている内容を捉えること，書かれている内容から書き手のものの見方，感じ方，考え方を捉えること，構成や展開の工夫が作品の内容とどのように関連しているのかについて捉えることが大切である。なお，見解とは，作品の解釈を踏まえて形成された，作品についての自分の意見や考えを指している。

書評を書いたり，議論したりするという具体的な言語活動の場面を設定することで，生徒は明確な目的をもって主体的に作品と向き合うことが期待できる。なお，考えを書いたり述べたりする場合は，事実と考えを明確に分けることや，適切な論拠に基づくことなどに注意する必要がある。

第５節　国語表現

３　内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〇文や文章

エ　実用的な文章などの種類や特徴，構成や展開の仕方などについて理解を深めること。

中学校第３学年の〔知識及び技能〕の(1)の「ウ　話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。」，「現代の国語」の〔知識及び技能〕の(1)の「オ　文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。」を受けて，実用的な文章などの種類や特徴，構成や展開の仕方などについて理解を深めることを示している。

実用的な文章とは，一般的には，具体的に何かの目的やねらいを達するために書かれた文章である。**報道**や広報の文章，案内，紹介，連絡，依頼などの文章や手紙のほか，会議や裁判などの記録，報告書，説明書，企画書，提案書，契約書などの実務的な文章，法律の条文，キャッチフレーズ，宣伝の文章などがある。こうした文章は，必要な情報を漏れなく書くことを基本としつつ，相手や目的に応じて伝えるべき事柄を取捨選択したり再構成したりして簡潔に分かりやすく書くことが重要である。

また，実用的な文章には社会通念となっている一定の様式があり，それらを使いこなせるようになることが求められる。（略）

指導に当たっては，自分の考えや思いを的確に伝えるとともに，こうした様式について理解を深め，使うことに留意する必要がある。

構成や展開の仕方については，統括する内容を文章のどこに位置付けるかによって，「頭

括型」,「尾括型」,「双括型」などに分けられることが多いが，この他，時間的・空間的順序に沿って展開する「追歩式」，印象的な描写を一脈の筋に沿って列叙していく「散叙式」などもある。このような構成や展開の仕方を形式的に真似るだけの学習にならないように，文章構成の型が成立した理由や背景，効果などについて理解することにも留意する必要がある。（略）

〔思考力，判断力，表現力等〕

Ａ　話すこと・聞くこと

〇話題の設定，情報の収集，内容の検討

ア　目的や場に応じて，実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め，他者との多様な交流を想定しながら情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討すること。

「現代の国語」の〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ａ話すこと・聞くこと」の(1)の「ア目的や場に応じて，実社会の中から適切な話題を決め，様々な観点から情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討すること。」を受けて，話題を設定する範囲を実社会の問題や自分に関わる事柄の中からとするとともに，他者との多様な交流を想定することに重点を置いている。

目的や場に応じてとは，何のために，誰に向かって，どのような条件で話したり聞いたり話し合ったりするのかを具体的に考え，それらにふさわしいかを判断することである。ここでの場とは，話すことが実際に行われる個々の様々な状況を指す。

実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決めるとは，テレビや**新聞**，インターネットなどの様々な媒体を通じて伝えられる実社会の事象や社会的な問題，さらには個人的な体験や自分自身に関することの中から，何について話したり聞いたり話し合ったりするのかという事柄や対象を決めることである。例えば,将来どのような仕事がしたいのか，どのような生き方をしたいのかなど，進路選択に関する事柄や，自分の生き方を見つめ直すきっかけとなった他者とのエピソードなどが考えられる。なお，話題を決めるに当たっては，実社会の問題と自分に関わる事柄を関連させながら考えていくことも重要である。

他者との多様な交流を想定しながら情報を収集，整理して，伝え合う内容を検討するとは，自分とは異なる多様な意見や考え方があることを前提にした上で，互いの思いや考えをはっきりと言葉にして伝え合い，相互理解を図るために，目的や場や相手にふさわしい情報を収集，整理し，伝え合う内容を検討することである。（略）

〇構造と内容の把握，精査・解釈，考えの形成，共有（聞くこと）

オ　論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き，話の内容や構成，論理の展開，表現の仕方を評価するとともに，聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすること。

「現代の国語」の〔思考力，判断力，表現力等〕の「Ａ話すこと・聞くこと」の(1)のエを受けて，論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き，話の内容や構成，論理の展

開，表現の仕方を評価するとともに，聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすることを示している。（略）

聞き取った情報を吟味するとは，聞き取った情報が正確なものであるか，適切な根拠に支えられたものであるか，自分にとって必要な情報であるかなど，様々な視点から情報を精査し，取捨選択することである。例えば，テレビや**新聞**，インターネットなどの様々な媒体を通じて伝えられる情報は，発信者にとって利用しやすい形や内容に整理されていることが多いが，その情報がどのような立場から切り取られ，どのように組み立てられているかを慎重に吟味する必要がある。

相手の話を聞くに当たっては，共感的に受け入れるだけでなく，批判的に聞く姿勢も求められる。また，言葉の意味を表面的に理解するだけでなく，発音の仕方や言葉遣い，表情などから，話の奥に隠された相手の気持ちを察することも必要となってくる。聞き取った話を比較，評価することを通して，多様な考えを理解したり自分の考えを見直したり，新しい考えを生み出したりして，自分の考えを広げたり深めたりすることが重要である。

〇言語活動例

ウ　異なる世代の人や初対面の人にインタビューをしたり，報道や記録の映像などを見たり聞いたりしたことをまとめて，発表する活動。

異なる世代の人や初対面の人にインタビューをしたり，**報道**や記録の映像などを見たり聞いたりしたことをまとめて，発表する言語活動を示している。

異なる世代の人や初対面の人の中には，異なる価値観や意見を持っていたり立場が異なったりする人もいることが考えられるが，そうした人から話を聞くことは，聞き手の視野を広げることにつながるだけでなく，生き方，在り方を深く考えさせる機会となる重要な活動である。

インタビューとは，目的を持って特定の相手に質問し，必要な情報を聞き取ることである。その形式には，一問一答式のインタビューや，おおまかな質問事項を決め，答えによって相手からさらに言葉を引き出していくインタビューなどがある。インタビューするに当たっては，その目的を明確にし，どのような形式のインタビューとするかを考えたり，メモの取り方，どのように質問したら求める答えを引き出しやすいのか等を考えたりする学習を取り入れることが重要である。

報道や記録の映像とは，例えば，**新聞**やテレビ，インターネットなどを媒体にして伝えられる文字や映像の情報のことである。

報道や記録の映像などを見たり聞いたりするに当たっては，情報の信頼性に注意しながら，伝えられる情報がどのような意図のもとに編集されたものであるか，その背景を含めて読み取るなど，テレビや**新聞**，インターネットなどの様々な媒体を通じて伝えられる情報を掘り下げ，まとめる学習が必要である。

見たり聞いたりしたことをまとめて，発表する際は，聞き取ったり見たり聞いたりした情報を，無批判に受け入れたり用いたりすることなく，重要度や信頼度などによって適切

に取捨選択することが求められる。また，伝えられる情報の何に視点を置いて話を聞くのか，さらに聞き取った内容をまとめ何を伝えたいのかによって，聞き取る情報が変わっていくことに留意する必要がある。

B　書くこと

〇題材の設定，情報の収集，内容の検討

ア　目的や意図に応じて，実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め，情報の組合せなどを工夫して，伝えたいことを明確にすること。

「現代の国語」の〔思考力，判断力，表現力等〕の「B書くこと」の(1)の「ア 目的や意図に応じて,実社会の中から適切な題材を決め,集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して,伝えたいことを明確にすること」を受けて,「題材の設定」の範囲を実社会の問題や自分に関わる事柄の中からとして，実社会の問題に一層強い関心を持ち続けるとともに，社会と自分との関わりを強く意識し,問題の本質について深く考察することへと発展させている。また，集めた情報の妥当性や信頼性を吟味した上で，さらに情報の組合せなどを工夫することによって，自分の思いや考えを伝える材料として活用したり，伝えたいことをいっそう明確にしたりすることへと発展させている。

実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決めるとは，広くは世界で生起する政治・経済上の出来事や，科学，文化，芸術，スポーツについての知識や話題，狭くは身の回りで起きる様々な諸問題の中から，考察するに値する題材を決めることである。

題材を探すに当たっては，**新聞**，テレビ，インターネットなどの**マス・メディア**を通じて伝えられる事象や問題だけでなく，まだ顕在化していない諸問題や，予想される未来社会の諸課題などについても関心をもち，自分に関わる事柄としてとらえ直すことが必要である。

自分に関わる事柄としては，個人的な体験や自分自身に関すること，例えば，将来どのような仕事がしたいのか，どのような生き方をしたいのかなど，進路選択や，日常的な人間関係についての事柄も考えられる。

実社会では，多様な立場から異なった意見や情報が数多く提供される状態になっている。こうした時代にあって，自分の思いや考えを確実に読み手に伝えていくには，日頃から，実社会の問題に関心を持ち続けるとともに，それらを自分に関わる問題として受けとめ，自分なりの明確な考えを持つようにしておくことが重要である。

情報の組合せなどを工夫するとは，設定した題材について，集めた情報の妥当性や信頼性を吟味するとともに，内容や種類の異なる複数の情報を適切に選択し，組織したり統合したりして，活用していくことである。

主題を支える具体例として各種の情報を用いる際には，自らの体験だけでなく，文献調査や聞き取り調査やインターネット等を通じて収集した情報を組み合わせて用いるようにするとよい。収集し分析した情報を基に，その使い方について吟味しながら，伝えたい内

容を検討していくことによって,自分の主張や意見が客観的な裏付けを伴ったものになる。

必要な情報を適切に選択し組織したり統合したりする際に重要なのは，何のために読んでもらうのかという目的意識と，誰に読んでもらうのかという相手意識である。読み手と目的が明確になれば，伝えたい内容（主題）も焦点化してくる上に，主題を支える具体例も，読み手にふさわしいものが選べるようになる。

また，目的や読み手に応じて，情報を選択したり組織したりする基準が変わるということにも留意する必要がある。（略）

情報化社会は今後，さらに進んでいくものと予想される。そうした社会の状況に対応し，情報を受信する立場と発信する立場の両面から，目的や読み手に応じて，情報を組み合わせて整理する方法を理解することが重要である。

〇言語活動例

オ　設定した題材について多様な資料を集め，調べたことを整理したり話し合ったりして，自分や集団の意見を提案書などにまとめる活動。

設定した題材について多様な資料を集め，調べたことを整理したり話し合ったりして，自分や集団の意見を提案書などにまとめる言語活動を示している。

設定した題材について多様な資料を集める具体的な場面としては，学校図書館や地域の図書館などで本や辞典，図鑑などを読んで情報を収集したり，日々の**報道**やインターネットなどを活用したりすることが考えられる。情報科担当教員や司書教諭などとも連携して，インターネットを利用したり，学校図書館や地域の図書館などで必要な情報の収集，選択を行ったりする必要がある。

調べたことを整理したり話し合ったりする具体的な場面としては，編集会議などが考えられる。調べた情報の信頼性や妥当性を確かめるとともに，その情報の重要性や情報と情報の関係を検討しながら，意見をまとめていく必要がある。

自分や集団の意見を提案書などにまとめる際には，客観性や正確性が求められる報告や説明をすることにとどまらず，必要性や実現可能性を予測して，新しい企画を立ち上げ，その趣旨や実行方法などを具体的に述べることが求められる。

カ　異なる世代の人や初対面の人にインタビューをするなどして聞いたことを，報告書などにまとめる活動。

異なる世代の人や初対面の人にインタビューをするなどして聞いたことを，報告書などにまとめる言語活動を示している。

異なる世代の人や初対面の人にインタビューをする具体的な場面としては，地域の職業人や達人などに取材して，仕事の内容や生きがいなどについて詳しく聞き出すことなどが考えられる。この学習は，個別的な経験や事実の中にある普遍的な意味をつかむ力を育てることにもつながるものである。そして，この学習をさらに意義深いものにするために重要なことは，聞き出したことを文章化し，報告書などにまとめることである。

報告書などにまとめる際の具体的な様式としては，取材の経過も含めてルポルタージュ

風にまとめる場合，取材相手の業績や人柄を紹介するためのプロフィール**記事**風にまとめる場合，問いかけと答えのやりとりを再現するように対談風にまとめる場合，語り手の独り語り風にまとめる場合などが考えられる。

インタビュー内容を書き言葉に改める場合には，聞いたことを整理し直して小見出しを付けるなど，文章の構成や展開について工夫することが必要である。また，語り手の口調を残したり，語っている時のしぐさなどをト書き風に補足説明したりするなど，記述や表現について工夫することも必要となる。話し言葉を書き言葉に改める過程を経験することは，言葉の特徴や使い方について改めて考え直す機会として生かせるものである。

第６節　古典探究

３　内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

〇文や文章

イ　古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。

中学校第３学年の〔知識及び技能〕の(1)の「ウ　話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。」を受けて，古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることを示している。

作品や文章の種類には，文学的な作品や文章（物語，小説，詩歌など），論理的な作品や文章（評論，**論説**など），実用的な作品や文章（記録，手紙など）などがある。特に伝統的な言語文化の精華である古典の作品や文章の種類は豊富であり，例えば，古文には，和歌，俳諧，作り物語，歌物語，歴史物語，随筆，日記，説話，詩歌などに関する評論，仮名草子，浮世草子，能，狂言，人形浄瑠璃，歌舞伎など，また，漢文には，思想，史伝，辞賦，古体詩，近体詩，寓話，説話，論，説，記，小説など，多種多様な形態がある。

その特徴とは，作品や文章の種類がそれぞれ備えている音韻やリズム（五七調，七五調，五言，七言など），構成や展開の仕方などをいう。例えば，歌物語には，和歌にまつわる物語，章段による構成，会話と地の文，統一的な主人公の有無などの特徴があり，冒頭に「今はむかし」，「むかし」など共通する語句が見られるものもある。

古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることは，古典の作品や文章に対する理解を深めるだけでなく，構成や展開の仕方などを的確に捉えることや，古典に特有な表現に注意して内容を的確に捉えること，書き手の考えや目的，意図を捉えて内容を解釈すること，表現の特色について理解することにも役立つ。また，表現様式の時代や地域による変化，書き手特有の表現上の特色を把握することにもつながる。その特徴についての理解を深めることで，伝統的な言語文化の理解も一層深まってゆく。

なお，指導に当たっては，既存の知識を理解させるだけではなく，生徒の気付きを重視して，古典への興味や関心を広げたり深めたりすることが大切である。

【地理歴史科】

第２章　地理歴史科の各科目

第１節　地理総合

２　内容とその取扱い

Ｃ　持続可能な地域づくりと私たち

(1) 自然環境と防災

(1) 自然環境と防災

人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に，地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに，自然災害の規模や頻度，地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解すること。

(ｲ) 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について，その情報を収集し，読み取り，まとめる地理的技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 地域性を踏まえた防災について，自然及び社会的条件との関わり，地域の共通点や差異，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

内容の取扱い

ウ　内容のＣについては，次のとおり取り扱うものとすること。

(ｱ) (1)については，次のとおり取り扱うこと。

日本は変化に富んだ地形や気候をもち，様々な自然災害が多発することから，早くから自然災害への対応に努めてきたことなどを，具体例を通して取り扱うこと。その際，地形図やハザードマップなどの主題図の読図など，日常生活と結び付いた地理的技能を身に付けるとともに，防災意識を高めるよう工夫すること。

「我が国をはじめ世界で見られる自然災害」及び「生徒の生活圏で見られる自然災害」については，それぞれ地震災害や津波災害，風水害，火山災害などの中から，適切な事例を取り上げること。

（略）この中項目は，人間と自然環境との相互依存関係や地域などに関わる視点に着目して，地域性を踏まえた防災を多面的・多角的に考察し，表現する力を育成するととも

に，自然環境の特色と防災との関わりや，地域性を踏まえた防災の重要性などを理解し，そのために必要な技能を身に付けられるようにすることが求められている。（略）

次に，この中項目における学習活動の展開例を示す。これらは，あくまでも例示であり，各学校において，例示と異なる主題や問い，取り上げ方で指導を行うことができる。

学習指導の展開例 <「生活圏の防災」を扱った事例>

例えば，「私たちのまちは，自然災害に対してどのような備えが必要なのだろうか」といった問いを立てて，ハザードマップなどの資料を基に地域の自然環境について考察したり，地域の自然及び社会的条件に合った防災の在り方について話し合ったりする学習活動が考えられる。このような学習活動を通して，生活圏で想定される自然災害についての認識を深め，日常における防災意識を高めたり，緊急の場合の適切な行動について具体的に考えたりするとともに，自分たちの生活を自然との関わりから考えようとする態度を身に付けることが大切である。

① ハザードマップの読図，仮説の設定

学校が所在する市町村が発行するハザードマップから，想定される主な災害と危険性の高い地域を読み取り，これまでの自然環境と災害に関する学習を基に，「なぜその場所は危険性が高いと評価されているのだろうか」といった問いを立てて追究する。その際，「その場所で河川の氾濫が予想されているのは，氾濫しやすい地形的な特徴があるからではないか」，「その場所で地震による被害が大きいと予想されているのは，開発の歴史と関わりがあるのではないか」などといった，その場所の危険性が高いと評価される理由について仮説を設定する。

② 様々な資料を使った仮説の検証

新旧地形図やインターネット等で閲覧可能な土地条件図や治水地形分類図，図書館等で入手可能な過去の災害に関する資料や**新聞記事**などの収集，現地での観察や野外調査などを基に，仮説の検証を行うことで，防災に関わる地域の地理的環境の特徴について理解を深める。例えば，地形図に示された等高線から土地の高低や山地・台地・低地などのおおまかな地形，河川の位置や水流の方向を読み取ったり，治水地形分類図などから扇状地や自然堤防，砂丘，旧河道などの地形区分や干拓地，盛土地・埋立地，切土地などの地形の改変を確認したり，過去の災害についてまとめた資料から災害の発生場所や規模，復旧までの経緯，その後取られた対策などについてまとめたりするといった学習活動が考えられる。その際，現地で観察や野外調査を行う場合には，その地域で防災のために行われている工夫について確認したり，大雨や台風などの際に考えられる河川の増水や道路の冠水，倒木などについて想像したりすることで，災害発生時に現地がどうなるのか，どのように行動すればいいのかを想定することなども大切である。

また，仮説の検証に当たっては，観察や野外調査，文献調査の結果を踏まえて，十分な議論が行われる必要がある。そこでは仮説を裏付ける結果のみを取り上げることなく，様々な側面から調査結果を吟味し，調査結果と齟齬を生じるようであれば，必要に応じて仮説自体を批判的に吟味することも大切である。そのような場合，再度，①の手順に戻って仮説を設定し直し，再調査を行うことも考えられる。

③ 調査結果の整理と対策についての意見交換

複数の地図から読み取った情報を関連付けて，地域の特徴をまとめる地理的技能を生かし，洪水や地震，土砂災害など，複数のハザードマップを基に，予想される災害の特徴によって地域区分した地図を新たに作成する。例えば，洪水の際に浸水被害を受けやすい低地，地震の際に家屋の倒壊などが想定される住宅密集地，豪雨の際に土砂災害が予想される傾斜地などといった区分が考えられる。次に，「区分したそれぞれの地域では，自然災害に対してどのような備えが必要なのだろうか」といった問いを立てて追究する。市町村役場，避難場所，消防署，病院などの防災にとって重要な施設の位置，集落の分布や規模，道路網や橋の位置などに留意して，区分したそれぞれの地域の自然及び社会的条件に合わせた避難計画や防災のための施策の在り方について考察する学習活動が考えられる。その際，既述のように，災害発生時に現地がどうなるか，どのように行動すればいいのかなどについて具体的に考えたり，予想される災害の頻度や規模を考慮して，取るべき対策について議論したりすることが考えられる。

また，集落の移転など大規模な工事等を伴う事業について，費用と効果，地域住民の願いと全体の利益，代替策の有無などの観点から，グループごとにまとめて意見を発表したり議論したりするなどの学習活動を行うことで，防災に関する事業の意義について理解を深めるなどの学習活動も考えられる。

(2) 生活圏の調査と地域の展望

(2) 生活圏の調査と地域の展望

空間的相互依存作用や地域などに着目して，課題を探究する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 生活圏の調査を基に，地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 生活圏の地理的な課題について，生活圏内や生活圏外との結び付き，地域の成り立ちや変容，持続可能な地域づくりなどに着目して，主題を設定し，課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

内容の取扱い

(ｲ) (2)については，次のとおり取り扱うこと。

「生活圏の調査」については，その指導に当たって，これまでの学習成果を活用しながら，生徒の特性や学校所在地の事情などを考慮して，地域調査を実施し，生徒が適切にその方法を身に付けるよう工夫すること。

（略）この中項目は，空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して，生活圏の地理的な課題を多面的・多角的に考察し，表現する力を育成するとともに，地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などを理解できるようにすることが求められている。（略）

次に，この中項目における学習活動の展開例を示す。これらは，あくまでも例示であり，各学校において，例示と異なる主題や問い，取り上げ方で指導を行うことができる。

学習指導の展開例 <「空き家問題」を扱った事例>

1　課題の設定

これまでの「地理総合」の学習内容と，小・中学校社会科の「地域調査」の経験を踏まえて調査する課題を決める。その際，調査してみたい地域の課題について，自分自身の日常生活や通学途上から見いだしたり，**新聞**やインターネットの記事の中から選びだしたりして，自分たちの地域で何が解決すべき課題なのかをグループに分かれて話し合うなどの工夫も考えられる。またその際，なぜその課題を選択するのかという調査の趣旨を明確にすることも大切である。ここでは「なぜ，空き家が多くなっているのだろうか。どうすれば，空き家問題が解決できるのだろうか」という課題を生徒が設定したこととする。

2　課題の探究

地域調査においては，事前の準備となる事前調査（デスクワーク）と課題を検証する現地調査（フィールドワーク）を行う必要がある。

①　事前調査(デスクワーク)

事前準備となるデスクワークは，取り組もうとする課題に関連して，地域の概要とともに対象となる課題や課題に関わる諸事象を含む調査の全体像を大観することが必要である。そのために，図書室にある書籍，**新聞**やインターネット，あるいは地方史(県史や市町村史など)から入手した資料を基に情報収集を行う。

②　仮説の設定と調査計画の作成

収集した情報を整理してＧＩＳを使って地図化するなどの分析をして，そこから課題意識に基づいた仮説を立てる（仮説の設定)。例えば，「農村だけではなく都市でも空き家が発生しているのはなぜだろうか」という課題を設定し，大都市でも都心などに新しく高層の集合住宅が建てられていることで，都市内部での転居者が増大していることから空き家が増えたのではないかといった仮説を立てるなど，様々な可能性を検討することが考えられる。立てられた仮説をそれぞれよく検討，整理

した上で絞り込み，これを検証するための調査項目や調査対象，調査方法などを吟味し，班別に聞き取り調査先を割り振り，現地調査の計画を立てる。その際，今後の現地調査が，小・中学校社会科で行った地域調査学習をより深めるスパイラルな学習となるように配慮する。例えば，これまで体験した地域調査学習の経験を振り返り，現地調査の計画を作成することも効果的で，何を調査してくるのか，調査対象地域をどこにするのか，調査に当たり何を用意するのかなどを十分に話し合うことが大切である。また，この段階で立てられた空き家の発生要因の見通しに対して，その解決策についても可能な範囲で想定しておくことも大切である。

③ 現地調査(フィールドワーク)

実際の現地調査に当たっては，事前に立てた調査計画に基づき，無理なく実施することが大切である。当日の天気や交通の状況などを加味し，まずは安全に留意して余裕をもった行動に留意する必要がある。特に聞き取り調査などの場合には，事前に電話や手紙を使って相手の都合を確認するとともに，調査の目的や聞き取りしたい事項について整理して現地に赴くことが大切である。例えば，役所での聞き取り調査を担当するグループは，調査対象地域の人口や世帯に関する統計などの資料，空き家に関する行政の調査報告書や空き家の再利用への取組について，具体的に何を聞き取り，どのような資料が必要かをあらかじめ考えて現地調査に当たることなどが大切である。

④ 整理，分析（仮説の検証）

現地調査で収集した資料や聞き取りを行った内容をまとめる。その際，得た情報や資料を地図化したり，それを基にして図表を作成したりする。それと同時に資料の収集や聞き取りから分かったことを整理し，仮説の妥当性を検証しつつ，不十分な点については情報の再収集と整理，分析を追加して行い，新たな発見や理解の深化によっては，仮説の修正や新たな課題設定を行うことも考えられる。

3 発表

担当グループごとに，調査内容を発表し，さらに調査結果を受けて，調査対象地域の空き家問題を解決するための方策を全体で討論し，持続可能な社会を築くためにそれぞれの方策の評価を行い，地域を改善するための提言としてまとめる。

また，授業とは別に機会を捉えて，調査過程の説明や課題と解決に向けた提言をする機会を設けることも考えられる。例えば，取材先に謝辞とともに報告することはもちろん，文化祭での発表や，学校ホームページへの公開，地域の行事などでの発表や意見交換，あるいは住民への提言や地図展などで発表することなども考えられる。

3　指導計画の作成と指導上の配慮事項

(5) 専門家などとの連携について（内容の取扱いの(1)のオ）

オ　調査の実施や諸資料の収集に当たっては，専門家や関係諸機関などと円滑に連携・協働するなどして，社会との関わりを意識した活動を重視すること。

中央教育審議会答申においては，「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として「主権者として求められる資質・能力」を挙げ，「家庭や学校，地域，国や国際社会の課題の解決を視野に入れ，学校の政治的中立性を確保しつつ，…現実の社会的事象を取り扱っていくことが求められる。その際，専門家や関係機関の協力を得て実践的な教育活動を行うとともに，現実の複雑な課題について児童生徒が課題や様々な対立する意見等を分かりやすく解説する**新聞**や専門的な資料等を活用することが期待される」ことが示されている。また，このことに関連しては，社会，地理歴史，公民科に共通する「内容の見直し」においても，教育環境の充実のために求められる条件整備に関わる内容として，「教科の内容に関係する専門家や関係諸機関等と円滑な連携・協働を図り，社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実させること」と示されているところである。そこで，現実の社会的事象を地理的な見方・考え方を働かせて捉えようとする地理の学習においては，それらの趣旨の重要性を踏まえ，学習内容の全体にわたる配慮事項として，この「社会との関わりを意識した活動を重視する」旨を明記することとした。

第２節　地理探求

２　内容とその取扱い

Ａ　現代世界の系統地理的考察

(2) 資源，産業

(2) 資源，産業

場所や空間的相互依存作用などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象を基に，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，資源・エネルギー，食料問題の現状や要因，解決に向けた取組などについて理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象について，場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して，主題を設定し，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

内容の取扱い

(ｲ) (2)については，次のとおり取り扱うこと。

「資源・エネルギーや農業，工業などに関わる諸事象」については，技術革新など

によって新たに資源やエネルギーの利用が可能になったり，新たな産業が生まれたり成長したりすることから，社会の動向を踏まえて取り上げる事象を工夫すること。

（略）この中項目は，場所や空間的相互依存作用などに関わる視点に着目して，資源，産業に関わる諸事象を多面的・多角的に考察し，表現する力を育成するとともに，資源，産業に関わる諸事象の空間的な規則性，傾向性や，関連する地球的課題の現状や要因，解決に向けた取組などを理解できるようにすることが求められている。（略）

「内容の取扱い」などに示された留意事項については，次のとおりである。

技術革新などによって新たに資源やエネルギーの利用が可能になったり，新たな産業が生まれたり成長したりすることから，社会の動向を踏まえて取り上げる事象を工夫する（内容の取扱い）については，資源，産業に関わる広範な事象から，どのような事象を選択し，取り上げるかを示したものである。資源，産業に関わる事象は，技術革新や世界経済の動向などによって変化することから，社会の動きを踏まえて取り上げる事象を適切に選定する必要がある。また，新たな資源やエネルギー，産業は，テレビや**新聞**などの**ニュース**として取り上げられることも多いことから，生徒の興味・関心を喚起するためにも，これらの新たな動向についても注視し，適宜適切に取り扱うことも大切である。例えば，日本で再生可能エネルギーを含めた多様なエネルギー開発が進められていることを踏まえて，資源・エネルギー問題の対策を取り扱った学習において，海底資源や海洋エネルギーの開発や推進を扱ったり，また，日本の産業がより付加価値の高い知識集約型の産業に移行する動きを見せていることを踏まえて，産業発達の規則性，傾向性を取り扱った学習において，映像や音楽，アニメーションなどの制作や販売に関わるコンテンツ産業の発達を扱ったりすることなどが考えられる。

３　指導計画の作成と指導上の配慮事項

(5) 専門家などとの連携について（内容の取扱いの(1)のオ）

オ　調査の実施や諸資料の収集に当たっては，専門家や関係諸機関などと円滑に連携・協働するなどして，社会との関わりを意識した活動を重視すること。

中央教育審議会答申においては，「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として「主権者として求められる資質・能力」を挙げ，「家庭や学校，地域，国や国際社会の課題の解決を視野に入れ，学校の政治的中立性を確保しつつ，…現実の社会的事象を取り扱っていくことが求められる。その際，専門家や関係機関の協力を得て実践的な教育活動を行うとともに，現実の複雑な課題について児童生徒が課題や様々な対立する意見等を分かりやすく解説する**新聞**や専門的な資料等を活用することが期待される」ことが示されている。また，このことに関連しては，社会，地理歴史，公民科に共通する「内容の見直し」においても，教育環境の充実のために求められる条件整備に関わる内容として，「教科の内容に関係する専門家や関係諸機関等と円滑な連携・協働を図り，社会との関わりを意識し

て課題を追究したり解決したりする活動を充実させること」と示されているところである。そこで，現実に生起している社会的事象を扱うことの多い地理の学習においては，それらの趣旨の重要性を踏まえ，学習内容の全体にわたる配慮事項として，この「社会との関わりを意識した活動を重視する」旨を明記することとした。

第３節　歴史総合

２　内容とその取扱い

Ａ　歴史の扉

(1) 歴史と私たち

この中項目では，私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に，近代化，国際秩序の変化や大衆化，グローバル化などの歴史の変化と関わらせて，諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し表現することにより，私たちに関わる諸事象が，日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する学習を主なねらいとしている。（略）

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のような知識を身に付けること。 (ｱ) 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に，それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解すること。 イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。 (ｱ) 近代化，国際秩序の変化や大衆化，グローバル化などの歴史の変化と関わらせて，アで取り上げる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し，表現すること。 内容の取扱い (1)については，中学校社会科の学習を踏まえ，生徒の空間的な認識に広がりをもたせるよう指導を工夫すること。

学習に当たっては，例えば，「私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象にはどのような歴史的背景があるだろうか」などの課題（問い）を設定して，イの(ｱ)の近代化，国際秩序の変化や大衆化，グローバル化などの歴史の変化と関わらせながら，資料を活用し，私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し表現することにより，それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解ができるようにすることが大切である。

私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象とは，生徒の日常生活に関わる諸事象や地域の諸事象を意味している。例えば，生活における時間規律，身の回りの菓子や料理，地域の産業や交通，地域の祭りや行事，就職や受験，**新聞**やテレビ，遊びやスポーツなど，様々なものが考えられる。これらの生徒の身の回りの諸事象が，日本や日本周辺の地域及

び世界の歴史とつながっていることを,具体的な事例に則して理解することができるよう,工夫して指導することが必要である。

近代化，国際秩序の変化や大衆化，グローバル化などの歴史の変化と関わらせとは，中学校社会科の学習を踏まえ，私たちの生活や身近な地域の歴史と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とを結び付けながら，近現代の歴史の大きな変化と関わらせて学習することを示している。例えば，地域の人口や学校の規模の動態などを近代化と関連付けて扱ったり，地域に残る記念碑や，地域の情報伝達の手段の歴史的な変化などを国際秩序の変化や大衆化と関連付けて扱ったり，日用品の生産国の変化や外国語教育の重視などをグローバル化と関連付けて扱ったりすることなどが考えられる。私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と,日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とのつながりに気付くとともに,それらを結び付けながら近現代の歴史の大きな変化について学ぶことの意義を実感できる学習が求められる。

「生徒の空間的な認識に広がりをもたせる」（内容の取扱い）とは，生徒の学習に向かう視野に広がりを持たせるように指導を工夫することを意味している。具体的には，中学校社会科歴史的分野における学習や，私たちの生活や身近な地域になどに見られる諸事象などを起点としつつ，生徒がこの科目の目標の(1)に示された「近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え」て，空間的な広がりをもって歴史を考察できるように指導を工夫することが大切である。

指導に当たっては，生徒が年表や地図，写真や映像，統計等の様々な資料を活用することなどを通して，歴史の考察における比較することや関連付けることの意義をとらえることができるよう，工夫して指導することが求められる。（略）

(2) 歴史の特質と資料

この中項目では，日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物，文書，図像などの資料を活用し，複数の資料の関係や異同に着目して，資料から読み取った情報の意味や意義，特色などを考察し表現することにより，資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解すること，資料を取り扱う際の留意点に気付くことを主なねらいとしている。（略）

日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物，文書，図像などの資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のような知識を身に付けること。 (ｱ) 資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解すること。 イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。 (ｱ) 複数の資料の関係や異同に着目して，資料から読み取った情報の意味や意義，特色などを考察し，表現すること。

内容の取扱い

(2)については，資料から読み取る諸事象の解釈の違いが複数の叙述を生むことを理解できるよう具体的な事例を取り上げて指導すること。また，歴史の叙述には，諸資料の検証と論理性などが求められることに気付くようにすること。

学習に当たっては，イ(ｱ)の複数の資料の関係や異同に着目して，例えば，「今では見ることのできない過去の事柄が分かるのはなぜだろうか」，「資料を扱う際にはどういうことに留意する必要があるだろうか」などの課題（問い）を設定し，「歴史」が表すものには，過去の事柄そのものという意味と，過去の事柄についての叙述（歴史叙述）という意味とがあること，歴史叙述は過去の事柄に対する驚きや現在の問題に対する関心などを出発点としていること，歴史叙述のためには過去の事柄について探る手がかりとなる材料である歴史資料が必要であることなどに気付くよう，指導を工夫することが大切である。また，歴史を叙述する際には，資料の種類，特性や作成の時期，場所，主体，目的，脈絡等を踏まえた批判的な読み取りと吟味が重要である。文字資料であれば「どんな人物が，いつ，どのような背景で作成したものだろうか」，「それは作成者が直接見聞した記録か，伝聞の記録か，作者の解釈か，仮説か，感想か」など，資料のもつ意味を考察し，その上で，様々な資料から読み取った情報を論理的に結び付けて解釈する必要があることなどに気付くように指導を工夫することが大切である。

遺物，文書，図像などの資料とは，遺跡・遺構，碑文，日記，手紙，**新聞**・雑誌などの様々な文書，著述，文学・芸術作品，風刺画，ポスター，写真，映像，口述記録（オーラルヒストリー）など，過去を知る手がかりとなる様々な歴史資料を意味している。

資料に基づいて歴史が叙述されていることについては，例えば，歴史研究においてどのようなものが資料として扱われているかを調べることの他，実際に自分で歴史資料を吟味したり，複数の資料を比較したり関連付けたりすることなどを平素の学習にも位置付けて行うことが大切である。

指導に当たっては，生徒が遺物，文書，図像などの歴史資料に触れ，それらと歴史叙述との関係について考察することなどを通じて，歴史的な考察の拠り所として資料が必要であること，文字資料だけでなく様々なものを資料として活用できること，資料の批判的な読み取りと吟味が重要であることなどに気付くことができるよう，指導を工夫することが求められる。

以下は，この中項目に関する学習の例である。

例：歴史の特質と資料の学習

資料と叙述の関係については，以下のような学習が考えられる。例えば，過去の人々の日常生活について読み取れる様々な資料を取り上げ，「各時期の資料から，人々の日常生活はどのように変化したと捉えられるだろうか」などの課題(問い)を設定して，過去の異なる時期の絵画，文書，日記，**新聞**・雑誌，写真，映像等の豊富な資料を教材として，

それぞれの時期における衣食住，労働，余暇，教育などの生活の様子を読み取り，その間の変化を捉えて，文章に表現する。このような学習を通じて，資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。その際，資料の状況によっては叙述が困難である場合があることにも気付くようにする。

また，同一の事象についての視点や立場が異なる資料を取り上げ，「それぞれの資料の意図するものは何だろうか，また，なぜそのような資料が作成されたと考えられるだろうか」などの課題(問い)を設定して，同一の事象に関する複数の風刺画やポスター等の資料を基に，作成の時期や場所，作成者等を特定して，それぞれの表現の内容を比較し，当時の時代状況と結び付けることにより，それらの資料の意図や作成された目的を対比的に捉え，諸資料から読み取った情報の意味や意義，特色などを考察し表現することを通じて，同じ資料を基にした叙述であっても，資料の解釈によって複数の歴史叙述が存在することを理解するなどの学習が考えられる。

このような学習を通して，歴史の叙述には諸資料の検証と論理性などが求められることに気付くことが大切であり，それらの資料の吟味を踏まえて，資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解することが重要である。

C　国際秩序の変化や大衆化と私たち

(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い

この中項目では，中学校までの学習を踏まえて，諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し，私たちの生活や社会の在り方が，国際秩序の変化や大衆化に伴い変化したことについて考察するための問いを表現することをねらいとしている。(略)

国際関係の緊密化，アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭，植民地の独立，大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化，生活様式の変化などに関する資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような技能を身に付けること。

(ｱ) 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現すること。

内容の取扱い

(1)については，中学校までの学習並びにＡ及びＢの学習を踏まえ，学習内容への課題意識をもたせるとともに，(2)，(3)及び(4)の学習内容を見通して指導すること。

学習に当たっては，取り上げた複数の資料を組み合わせて活用し，身近な生活と関わらせて課題意識を育み，情報を読み取ったりまとめたりして資料を活用する技能を習得しつ

つ，イ(ｱ)の国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し，その過程で生徒が見いだした疑問を問いで表現することで，この中項目の冒頭に示したねらいを実現できるようにする。

問いを表現するとは，国際秩序の変化や大衆化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から，情報を読み取ったりまとめたり，複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより，生徒が興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを見いだす学習活動を意味している。歴史に対する驚きや素朴な問いが歴史学習の出発点であることを踏まえ，生徒が資料から読み取った歴史についての事象それ自体への問いを表現する中で，学習内容に対する生徒の課題意識を育むことが大切である。（略）

学習に際しては，以下に示す資料を活用して，生徒がそれらの情報を読み取ったりまとめたりしながら，人々の生活や社会の在り方が国際秩序の変化や大衆化に伴い変化したことに関わって抱いた興味・関心や疑問，追究してみたいことなどを見いだして，自分自身の問いを表現できるようにすることが必要である。（略）

大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化を取り上げた場合には，例えば，教師が，参政権の拡大や政党の発展を示す資料，労働組合や女性団体などの組織の拡大を示す資料，デモ行進やストライキなどの拡大を示す資料，国民の所得格差の縮小を示す資料，初等・中等・高等教育の拡大の様子を示す資料，女子教育の普及の様子を示す資料，**新聞**・雑誌の発行部数の増大を示す資料，ラジオの生産台数の増加や当時の放送プログラム等の資料などを提示し,当時の人々が求めたものとそれ以前の時代の人々が求めたものの違いなど，生徒が歴史的な見方・考え方を働かせて資料を読み解くことができるように指導を工夫する。生徒は，それらの情報を読み取ったりまとめたりしながら，大衆社会の特徴を考察する。（略）

(2) 第一次世界大戦と大衆社会

この中項目では，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを考察したり表現したりして，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解できるようにすること，また，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考察したり表現したりして，大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解できるようにすることをねらいとしている。（略）

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。（略）

【小項目(ｲ)】

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｲ) 大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及とマスメディアの発達などを基に，大衆社会の形成と社会運

動の広がりを理解すること。
イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
(ｲ) 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりするなどして，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し，表現すること。
内容の取扱い
(2)のアの(ｲ)については，世論の影響力が高まる中で民主主義的風潮が形成され，日本において議会政治に基づく政党内閣制が機能するようになったことに触れること。

学習に当たっては，(1)で表現した学習への問いを踏まえて生徒の学習への動機付けや見通しを促しつつ，イ(ｲ)の第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目し，小項目のねらいに則した考察を導くための主題を設定し，その主題を，例えば，「なぜ，1920 年代に大衆文化が広範囲に及んだのだろうか」などの学習上の課題（小項目全体に関わる問い）として設定する。これを踏まえ，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，多面的・多角的に考察したり表現したりすることにより，大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する学習が考えられる。（略）

教育の普及と**マスメディア**の発達については，教育が普及したことで**マスメディア**による情報を活用する層が増加し，**新聞**・雑誌，ラジオ，その他メディアが拡大したことを扱い，大衆の政治的，社会的な自覚が高まり，**マスメディア**の発達とともに政治に大きな影響を及ぼすようになったことなどについて気付くようにする。

上記の大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及と**マスメディア**の発達の学習については，小項目の主題を基にした学習上の課題（小項目全体に関わる問い）を踏まえ，小項目のねらいに則した学習を展開することが大切である。そのため，推移や展開を考察するための課題（問い）を設定し，さらに事象を比較し関連付けて考察するための課題（問い）を設定するなど，事象それぞれの学習の際に，段階的に課題（問い）を設定することが求められる。

こうした日本とその他の国や地域の動向を比較したり，関連付けたりする学習活動を通じて，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを，多面的・多角的に考察し，表現することにより，大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解することができる。（略）

D　グローバル化と私たち

(1) グローバル化への問い

この中項目では，中学校までの学習を踏まえてグローバル化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料を取り上げて，情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し，現代のグローバル化について考察するための問いを表現することをねらいとしている。（略）

冷戦と国際関係，人と資本の移動，高度情報通信，食料と人口，資源・エネルギーと地球環境，感染症，多様な人々の共存などに関する資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような技能を身に付けること。
(ｱ) 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。
イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
(ｱ) グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現すること。
内容の取扱い
(1)については，中学校までの学習並びにＡ，Ｂ及びＣの学習を踏まえ，学習内容への課題意識をもたせるとともに，(2)及び(3)の学習内容を見通して指導すること。

学習に当たっては，取り上げた複数の資料を組み合わせて活用し，身近な生活と関わらせて課題意識を育くみ，情報を読み取ったりまとめたりして資料を活用する技能を習得しつつ，イ(ｱ)のグローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し，その過程で生徒が見いだした疑問を問いで表現することで，この中項目の冒頭に示したねらいを実現できるようにする。

問いを表現するとは，グローバル化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から，情報を読み取ったりまとめたり，複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより，生徒が興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追究したいことなどを見いだす学習活動を意味している。歴史に対する驚きや素朴な問いが歴史学習の出発点であることを踏まえ，生徒が資料から読み取った歴史についての事象それ自体への問いを表現する中で，学習内容に対する生徒の課題意識を育むことが大切である。（略）

学習に際しては，以下に示す資料を活用して，生徒がそれらの情報を読み取ったりまとめたりしながら，人々の生活や社会の在り方がグローバル化に伴い変化したことに関わって抱いた興味・関心や疑問，追究してみたいことなどを見いだして，自分自身の問いを表現できるようにすることが必要である。（略）

多様な人々の共存を取り上げた場合は，例えば，教師が，差別の廃止や地位の向上について啓発するポスターや当事者による手記などの資料，マイノリティ（少数者）の社会進出に関する統計や条約，法律，男性や女性の**メディア**における取り上げられ方を示す資料などを提示し，現在に至るまでの宗教，民族，性別についての認識や表現の推移と社会の変化との関連など，生徒が歴史的な見方・考え方を働かせて資料を読み解くことができるように指導を工夫する。生徒は，それらの情報を読み取ったりまとめたりしながら，多様な人々の共存が国際社会において求められるようになったことの背景などについて考察する。

その際，冷戦と国際関係，人と資本の移動，高度情報通信，食料と人口，資源・エネルギーと地球環境，感染症，多様な人々の共存などに関する資料については，複数の資料を組み合わせて関連付けたり，一つの内容であっても視点の異なる複数の資料を比較したり

するなど，豊富な資料を教材として，生徒がそれらの情報を読み取ったりまとめたりすることにより，グローバル化に伴う生活や社会の変容についての考察を深め，自分自身の問いを表現できるようにすることが必要である。（略）

(4) 現代的な諸課題の形成と展望

この中項目は，この科目のまとめとして位置付けられている。これまでの学習を踏まえ，持続可能な社会の実現を視野に入れ，生徒が自ら主題を設定して，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，主題について多面的・多角的に考察，構想し，現代的な諸課題を理解することをねらいとしている。

内容のＡ，Ｂ及びＣ並びにＤの(1)から(3)までの学習などを基に，持続可能な社会の実現を視野に入れ，主題を設定し，諸資料を活用し探究する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 歴史的経緯を踏まえて，現代的な諸課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 事象の背景や原因，結果や影響などに着目して，日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり，現代的な諸課題を展望したりするなどして，主題について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

内容の取扱い

(4)については，この科目のまとめとして位置付けること。その際，Ｂの(4)及びＣの(4)の内容を更に深めたり，Ｂの(4)及びＣの(4)とは異なる観点を取り上げたりして，この科目の学習を振り返り適切な主題を設定すること。

学習に当たっては，これまでの学習を踏まえて，イ(ｱ)の事象の背景や原因，結果や影響などに着目し，生徒がそれぞれの興味・関心に基づいて自ら主題を設定し，その主題を，日本とその他の国や地域の動向とを比較し相互に関連付け，現代的な諸課題を展望して，多面的・多角的に考察，構想し，表現するなどして，現代的な諸課題を理解することで，この中項目の冒頭に示したねらいを実現することができるようになる。

探究する活動とは，生徒の発想や疑問をもとに生徒自らが主題を設定し，これまでに習得した歴史の概念を用いたり，社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせたりして，諸資料を活用して主体的に多面的・多角的に考察，構想し，表現する活動である。また，生徒が充実した探究活動を行うためには，教師の支援が大切である。

なお，主題の設定にあたっては，大項目Ｂ，Ｃ及びＤの(1)で生徒が表現した問いや，大項目Ｂ，Ｃ及びＤの(2)及び(3)の学習が進む中で見直した問いや新たに生まれてきた問いを振り返らせることが大切である。また，大項目Ｂ及びＣの(4)で取り上げている五つの観点から設定された主題についての学習の成果を生かしたり，それとは別の観点を設定したりすることも考えられる。

以下は，生徒が探究活動を行う際の教師の指導（支援）の例である。これらは，あくま

で参考であり，教師が，生徒の興味・関心や学校，地域の実態に留意し，様々な状況に応じた工夫をすることが大切である。

学習指導の展開例

【主題の設定と学習上の課題（問い）の表現】

○ 主題を設定する際には，これまでの「歴史総合」の学習を振り返り，主題の設定の手がかりはないかを問いかける。特に，大項目Ｂ，Ｃ及びＤの(1)で生徒が表現した「問い」やＢ及びＣの(4)で取り上げた五つの観点に基づいて設定された主題についての学習活動を生かすことも考えられる。

○ 生徒がこれまでの学習を踏まえて設定した主題を，さらに焦点化するために，学習上の課題（問い）として構成させることが大切である。その主題や学習上の課題（問い）について，教師が「あなたはなぜその主題を設定したのか」，「その主題の探究はあなたにとってどのような意味を持つのか」，「それはあなた以外の人々や社会にとって，どのような意味を持つのか」などと発問するなどして，生徒が自ら設定した主題や学習上の課題の意味や意義について考えることができるよう指導を工夫することも大切である。

○ また，**新聞**，テレビ，インターネットの**ニュース**や地域の史跡などを主題の発見に活用することも効果的である。

○ 設定した主題を踏まえて，これまでの歴史総合で学習してきたことを基に，主題に関わる予想（仮説）を立てることで，主題に対してどのような切り口で取り上げるかなどの視点が明確となり，探究の方向性を定めることができると考えられる。

【資料の収集・分析】

○ 活用する資料の選択については，これまでの学習の中で使用した資料も含め，「どのような資料が活用できそうだろうか」，「それらの資料はどこで収集できるだろうか」，「その資料は設定した主題の探究に有効であるだろうか」などと発問するなど指導を工夫することが考えられる。

【考察・構想】

○ 考察，構想に際しては，歴史的経緯を踏まえるとともに，社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて，考察・構想をするよう指導を工夫する。

○ また，扱った資料の特性を踏まえること，資料を公正に取り扱うことに配慮するよう指導することが必要である。

【まとめ・表現】

○ 考察，構想したことから得られた結論は，資料等から導きだされた根拠を踏まえたものとなるように指導を工夫する。

○ 結論を論述・レポートなどにまとめ，相互に説明したり意見を聞いたりすることにより，考察，構想をより深めるなどの学習も大切である。

○ また，ディスカッション，ディベートなど生徒同士が意見交換する場面を設定したり，学習活動のまとめとしてグループやクラスでプレゼンテーションの場面を設定したりするなどの工夫が考えられる。

【学習の振り返り】

○ 教師が「あなたはなぜその主題を設定したのか」，「その主題はあなたにとってどのような価値があるのか」，「それはあなた以外の人々にとって，どのような意味を持つ探究なのか」と改めて発問するなどして，生徒が自らの探究活動を振り返ることができるよう指導を工夫し，学んだことの意味に気付くようにすることも大切である。

○ 生徒が振り返りの中で新たな課題（問い）を考察し，次の学習に主体的につなげることができるよう指導を工夫する。

主題の設定から，資料の収集・分析，考察・構想，発表，振り返りまでの探究の過程について，生徒自らが見通しをもつことができるようにすることも必要である。また，振り返りは，必要に応じて，学習の様々な過程において行われる場合もあることに留意する。以下は，生徒の探究活動の例である。（略）

第４節　日本史探究

２　内容とその取扱い

＜「日本史探究」の学習の構成＞

⑤課題（問い）の設定と資料の取扱い

「日本史探究」では，学習全般において課題（問い）を設定し追究する学習が求められる。この学習において重要であるのは，第一に課題（問い）の設定であり，第二に課題（問い）の追究を促す資料の活用である。この科目では，(2)の歴史資料と時代の展望を学習する中項目に限らず，学習全般において資料を活用することが示されている。教師が学習のねらいを充分に把握し，ねらいに則した資料を選択し提示することが重要である。また，生徒が課題（問い）を考察したり，お互いに意見を表明したりする際も，適切な資料を基に，根拠を踏まえて考察するよう，指導を工夫することが重要である。

以下，それぞれに関する参考例を示す。

（略）

＜資料の取扱い＞

課題（問い）を設定した学習活動においては，学習全般において資料を用いて適切に活用することが重要である。そのために，資料の活用に際して，例えば，以下のような留意点が考えられる。

【資料に「問いかける」学習】

諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を段階的に身につけていくためには，例えば，文字などで記述された資料の内容と当該資料のもつ

文脈，状況，前後関係，背景を理解していくことが重要である。文字資料であれば，そこに書かれた内容から，「いつ書いたものか，どんな人物が書いたものか，どこに発表したものか」など，人物，日付，出来事などを読み取る。

さらに「それは作成者が直接見聞した記録か，伝聞の記録か，解釈や仮説か，作成者個人の感想か」，「この資料が作成された背景とはどのようなものだったのか，また，どのような意図があったと考えるか」などを教師が問い，生徒が資料のもつ意味や重要性を考えることができるように指導を工夫することが大切である。

【様々な資料の活用とその事例】

新聞・雑誌等を含む文献資料をはじめ，建造物や日常の生活用品も含めた遺跡や遺物，絵画や地図，写真等の画像，映画等の映像，それに伝承や習俗，地名，言語など，様々なものが歴史を考察する上での資料として活用できる。今日に残された資料を歴史資料として扱う際には，それぞれの資料としての有効性や限界等の基本的な特性が存在することを理解できるようにすることが大切である。その理解を踏まえ，資料から過去の出来事や景観，生活，思想，社会，伝統や文化などを推察する学習活動を通じて，歴史資料が果たす役割に気付くようにして，歴史への関心が高められるようにすることが大切である。また，「デジタル化された資料や，地域の遺構や遺物，歴史的な地形，地割や町並みの特徴などを積極的に活用」（内容の取扱い）については，以下のような活用が考えられる。

【デジタル化された資料の活用】

博物館，図書館，公文書館などでは，その収蔵品をはじめ，文化資源をデジタル化して保存を行うとともに，公開や利用を積極的に行う取組が進んでいる。これらの「デジタル化された資料」は，インターネットを利用することで，利用の可能性を拡大している。多様な歴史資料にアクセスすることで，一層の具体性をもった学習が可能となる。また資料の目録情報に加え，様々な歴史情報のデータベースが整備されてきており，それらの情報を活用し，指導計画上に適切に位置付けることが考えられる。

【地域に残る遺構や土地利用の変遷の活用】（略）

D　近現代の地域・日本と世界

(1) 近代への転換と歴史的環境

この中項目では，幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し，近代の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現することをねらいとしている。なお，大項目Dは，上記の通り，近現代を一つの大項目と設定しているが，中項目(1)の学習のねらいを踏まえ，ここでは，近代の特色について考察し，時代を通観する問いを表現する。（略）

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付

けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 対外政策の変容と開国，幕藩体制の崩壊と新政権の成立を基に，近世から近代への時代の転換を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化，政治・経済の変化と思想への影響などに着目して，近世から近代の国家･社会の変容を多面的･多角的に考察し，表現すること。

(ｲ) 時代の転換に着目して，近代の特色について多面的・多角的に考察し，時代を通観する問いを表現すること。

内容の取扱い

(2) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

イ　内容のＡ，Ｂ，Ｃ及びＤのそれぞれの(1)については，対外的な環境の変化や国内の諸状況の変化などを扱い，時代の転換を理解できるようすること。それぞれの(1)のイの(ｲ)については，アの理解に加え，中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用するなどして，対象となる時代の特色を考察するための時代を通観する問いが表現できるよう指導を工夫すること。

ク　内容のＤについては，次のとおり取り扱うものとすること。

(1)，(2)及び(3)については，日記，書簡，自伝，公文書，**新聞**，統計，写真，地図，映像や音声，生活用品の変遷などの資料や，それらを基に作成された資料などから適切なものを取り上げること。

（略）

(2) 歴史資料と近代の展望

この中項目では，資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに，読み取った情報から近代の特色についての仮説を表現することを通じて，中項目(3)に向けて，見通しをもった学習を展開できるようにすることがねらいである。なお，この大項目Ｄは近現代の歴史を対象としているが，(1)と同様に，ここでは近代の特色について考察し，仮説を表現する。（略）

諸資料を活用し，(1)で表現した時代を通観する問いを踏まえ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような技能を身に付けること。

(ｱ) 近代の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 歴史資料の特性を踏まえ，資料から読み取れる情報から，近代の特色について多

面的･多角的に考察し，仮説を表現すること。

内容の取扱い

(2) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ウ　内容のＡ，Ｂ，Ｃ及びＤのそれぞれの(2)については，政治や経済，社会，生活や文化，国際環境など，各時代の特色を生徒が読み取ることができる複数の適切な資料を活用し，それぞれの(1)で表現した問いを踏まえ，中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用するなどして，対象となる時代の特色について，生徒が仮説を立てることができるよう指導を工夫すること。その際，様々な歴史資料の特性に着目し，諸資料に基づいて歴史が叙述されていることを踏まえて多面的・多角的に考察できるよう，資料を活用する技能を高める指導を工夫すること。また，デジタル化された資料や，地域の遺構や遺物，歴史的な地形，地割や町並みの特徴などを積極的に活用し，具体的に学習できるよう工夫するとともに，歴史資料や遺構の保存・保全などの努力が図られていることに気付くようにすること。

ク　内容のＤについては，次のとおり取り扱うものとすること。

(1)，(2)及び(3)については，日記，書簡，自伝，公文書，**新聞**，統計，写真，地図，映像や音声，生活用品の変遷などの資料や，それらを基に作成された資料などから適切なものを取り上げること。

（略）

(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造

この中項目では，(1)で学んだ近世から近代への転換の理解や時代を通観する問い，(2)で表現した近代を展望する仮説を踏まえるとともに,「歴史総合」での学習の成果を活用して，近現代の地域・日本と世界の相互の関係を構造的に整理し，多様な視点から歴史に関わる諸事象について深い理解を図ることをねらいとしている。その際，大項目ＡからＣまでの前近代の学習で習得した資料を扱う技能を活用し，近代から現代にいたる国家や社会の展開について，事象の意味や意義，関係性，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的･多角的に考察し，根拠を示して表現する学習を通じて，近現代がどのような時代であったかを理解するとともに，思考力，判断力，表現力等の育成を図ることをねらいとしている。

また，この中項目(3)では，「地域社会と日本や世界の歴史的な変化との関係性に着目して具体的に考察できるよう」（内容の取扱い），(3)のイの(ｱ)から(ｴ)までに，「地域社会」に着目する視点が示されている。「歴史総合」で学んだ「近現代における歴史の大きな変化」が，具体的に地域にどのような影響を与え，変化をもたらし，あるいは課題を生じてその課題にどのように対処していったのかについての探究ができるように指導を工夫することが大切である。

学習に当たっては，資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする力を段階的に高めていくことが必要であり，様々な資料の特性に着目して複数の資料の活用を図

って，資料に対する批判的な見方を養うとともに，因果関係を考察したり解釈の多様性に気付くようにしたりすることが大切である。（略）

(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造

諸資料を活用し，(2)で表現した仮説を踏まえ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 明治維新，自由民権運動，大日本帝国憲法の制定，条約改正，日清・日露戦争，第一次世界大戦，社会運動の動向，政党政治などを基に，立憲体制への移行，国民国家の形成，アジアや欧米諸国との関係の変容を理解すること。

(ｲ) 文明開化の風潮，産業革命の展開，交通の整備と産業構造の変容，学問の発展や教育制度の拡充，社会問題の発生などを基に，産業の発展の経緯と近代の文化の特色，大衆社会の形成を理解すること。

(ｳ) 恐慌と国際関係，軍部の台頭と対外政策，戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に，第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会，国民生活の変容を理解すること。

(ｴ) 占領政策と諸改革，日本国憲法の成立，平和条約と独立の回復，戦後の経済復興，アジア諸国との関係，高度経済成長，社会・経済・情報の国際化などを基に，我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係，現代の政治や社会の枠組み，国民生活の変容を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) アジアや欧米諸国との関係，地域社会の変化，戦争が及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，近代の政治の展開と国際的地位の確立，第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済，国民の政治参加の拡大について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。

(ｲ) 欧米の思想・文化の影響，産業の発達の背景と影響，地域社会における労働や生活の変化，教育の普及とその影響などに着目して，主題を設定し，日本の工業化の進展，近代の文化の形成について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。

(ｳ) 国際社会やアジア近隣諸国との関係，政治・経済体制の変化，戦争の推移と国民生活への影響などに着目して，主題を設定し，第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。

(ｴ) 第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違，冷戦の影響，グローバル化の進展

の影響，国民の生活や地域社会の変化などに着目して，主題を設定し，戦前と戦後の国家・社会の変容，戦後政治の展開，日本経済の発展，第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。

(ｵ) 日本と世界の相互の関わり，地域社会の変化，(ｱ)から(ｴ)までの学習で見いだした画期などに着目して，事象の意味や意義，関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し，我が国の近現代を通した歴史の画期を見いだし，根拠を示して表現すること。

内容の取扱い

(2) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

エ　内容のＡ，Ｂ，Ｃ及びＤのそれぞれの(3)については，それぞれの(2)で表現した仮説を踏まえて主題を設定すること。その際，資料を活用し，事象の意味や意義，事象相互の関係性などを考察できるよう指導を工夫すること。また，根拠や論理を踏まえ，筋道を立てて説明するなどの学習から，歴史に関わる諸事象には複数の解釈が成り立つことや，歴史の変化の意味や意義の考察から，様々な画期を示すことができることに気付くようにすること。また，それらの考察の結果を，文章としてまとめたりするなどの一連の学習を通して，思考力，判断力，表現力等の育成を図ること。

ク　内容のＤについては，次のとおり取り扱うものとすること。

(1)，(2)及び(3)については，日記，書簡，自伝，公文書，**新聞**，統計，写真，地図，映像や音声，生活用品の変遷などの資料や，それらを基に作成された資料などから適切なものを取り上げること。（略）

（略）

【小項目(ｲ)】

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｲ) 文明開化の風潮，産業革命の展開，交通の整備と産業構造の変容，学問の発展や教育制度の拡充，社会問題の発生などを基に，産業の発展の経緯と近代の文化の特色，大衆社会の形成を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｲ) 欧米の思想・文化の影響，産業の発達の背景と影響，地域社会における労働や生活の変化，教育の普及とその影響などに着目して，主題を設定し，日本の工業化の進展，近代の文化の形成について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。

内容の取扱い

(3)のイの(ｱ)，(ｲ)，(ｳ)及び(ｴ)については，地域社会と日本や世界の歴史的な変化との関係性に着目して具体的に考察できるようにすること。

学習に当たっては，日本の工業化の進展，近代の文化の形成について考察するための主題を設定し，その主題を，例えば，「なぜ工業化は進展したのであろうか，またそれによって社会のありかたはどのように変わったのだろうか」，「大衆化の潮流は，地域社会にどのように影響し，人々はどのように受け止めたのだろうか」などの，学習上の課題（小項目全体に関わる問い）として提示し，小項目のねらいに則した学習を展開することが大切である。そのために，以下のそれぞれの事象の学習では段階的な課題（問い）を設定することが求められる。このような一連の学習の過程を通して，この小項目のねらいである産業の発展の経緯と近代の文化の特色，大衆社会の形成の理解に至ることが考えられる。（略）

【諸事象の解釈や画期を表現する学習】

この小項目の内容の確かな理解を図るためには，生徒が上記の意味や意義，関係性などの考察を踏まえて，考察の結果を根拠や論理をもって筋道を立てて説明したり，歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や，歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。

例えば，「あなたは，人々の暮らしに最も影響を与えた新たな思想や出来事は何だったと考えるか」，「あなたは日本で産業革命と呼ばれるような急激な変化がこの時期に生じた最大の理由は何だと考えるか」などの，諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して，当時の人々の生活や文化の変化の意義について根拠を基に判断して表現する学習や，輸出需要に応えた蚕糸業の急速な拡大や鉄道路線の急速な拡大の背景に存在する，所有権や営業の自由の保証，産業育成政策，情報伝達の速さ，製品改良や新技術の導入を図り起業できる知識をもった人の存在などについて考察し，根拠を基に何が重要であるかを判断したり，その理由を表現したりするなどの学習が考えられる。また，「あなたは教育の普及により，社会にどのような変化があったと考えるか」，「あなたは社会問題への対応を通じて，社会にどのような変化がもたらされたと考えるか」などの課題（問い）を設定して，初期の大衆社会のありようを**マスメディア**や出版，映画などの受容も含めて考察し，根拠を基に自らの考えを表現する学習や，近代社会の形成や変化の中で，産業発展とそれによる社会問題への対応とがどのような関係にあったのかを，根拠を基に考察して表現するなどの学習が考えられる。

【小項目(ｳ)】

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｳ) 恐慌と国際関係，軍部の台頭と対外政策，戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に，第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会，国民生活の変容を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｳ) 国際社会やアジア近隣諸国との関係，政治・経済体制の変化，戦争の推移と国民生活への影響などに着目して，主題を設定し，第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。

内容の取扱い

(3)のアの(ｳ)については，第二次世界大戦の学習において，この戦争が人類全体に惨禍を及ぼしたことを基に，平和で民主的な国際社会の実現に努めることが大切であることを認識できるようにすること。(3)のイの(ｱ)，(ｲ)，(ｳ)及び(ｴ)については，地域社会と日本や世界の歴史的な変化との関係性に着目して具体的に考察できるようにすること。

学習に当たっては，第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて考察するための主題を設定し，その主題を，例えば，「未曽有の戦禍をもたらした戦争はなぜ起こったのだろうか。これを避けることはできなかったのだろうか」などの，学習上の課題（小項目全体に関わる問い）として提示し，小項目のねらいに則した学習を展開することが大切である。そのために，以下のそれぞれの事象の学習では段階的な課題（問い）を設定することが求められる。このような一連の学習の過程を通して，この小項目のねらいである第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治･社会,国民生活の変容の理解に至ることが考えられる。（略）

【諸事象の解釈や画期を表現する学習】

この小項目の内容の確かな理解を図るためには，生徒が上記の意味や意義，関係性などの考察を踏まえて，考察の結果を根拠や論理をもって筋道を立てて説明したり，歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や，歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。

例えば，「あなたは，国際連盟を脱退した時期の情勢の中で，日本が国際的孤立を避けるために，どのような外交関係を結ぶことが有効であったと考えられるか」などの，諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して，日本が，国際的孤立を回避するために，アメリカ合衆国やソヴィエト連邦など国連未加入国やドイツ・イタリアとの関係を，どのように構築しようとしたかを考察したり，「あなたは，戦争が不可避となった画期について，どの出来事がそれにあたると考えるか，当時，どのような根拠に基づいてそれが選択されたと考えるか，現代において同様の事態を回避するためには何が必要なのだろうか」などの課題（問い）を設定して，世界恐慌を契機とした保護貿易主義の広がりや全体主義の台頭，中国などにおける民族運動の進展などの国際環境と国内の状況とを関連付けて考察したりして，当時の国際状況，国内状況についての考察を踏まえ，歴の中で，どのような判断が何を根拠に行われたのかについて，根拠を基に考察した結果を表現するなどの学習が考えられる。その際，当時の**新聞**などから世論の動向を読み取ったり，様々な人々の回顧録などから，当時どのような観点で議論が進められたのかなどについて考察して，現代の視点と比較しながらお互いに議論するなどの学習も考えられる。（略）

(4) 現代の日本の課題の探究

この中項目では，これまでの学習を踏まえ，持続可能な社会の実現を視野に入れ，地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し，諸資料を活用して探究する活動を通して，現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について，多面的・多角的に考察，構想して表現することをねらいとしている。（略）

(4) 現代の日本の課題の探究

次の①から③までについて，内容のＡ，Ｂ及びＣ並びにＤの(1)から(3)までの学習を踏まえ，持続可能な社会の実現を視野に入れ，地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し，諸資料を活用して探究する活動を通して，以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

① 社会や集団と個人

② 世界の中の日本

③ 伝統や文化の継承と創造

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 歴史的経緯を踏まえて，現代の日本の課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 歴史の画期，地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係，それ以前の時代からの継続や変化などに着目して，現代の日本の課題の形成に関わる歴史について，多面的・多角的に考察，構想して表現すること。

内容の取扱い

(4)については，この科目のまとめとして位置付けること。その際，生徒の生活や生活空間，地域社会との関わりを踏まえた主題を設定するとともに，歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望を構想することができるよう指導を工夫すること。

学習に当たっては，内容のＡ，Ｂ及びＣ並びにＤの(1)から(3)までの学習を踏まえて，イ(ｱ)の歴史の画期，地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係，それ以前の時代からの継続や変化などに着目して，現代の日本の課題の形成に関わる歴史について，主題を設定し，多面的・多角的に考察・構想したり表現したりすることで，この中項目の冒頭に示したねらいを達成することが大切である。

この中項目における主題を設定し，諸資料を活用して探究する学習とは，生徒がこれまでの学習を踏まえて，自ら主題を設定することを示している。

指導に当たっては，これまでの学習で養った歴史的な見方・考え方を働かせることや，生徒が持続可能な社会の実現を視野に，地域社会，生徒の生活や生活空間との関わりを踏まえた主題の設定ができるように工夫することが大切である。

現代の日本の課題の形成に関わる歴史については，歴史に関わる諸事象のうち，私たちに関わりの深い地域社会や，私たちの身の回りに存在し，その解決が求められている課題とのつながりが見いだされるものを示している。

歴史的な経緯や根拠を踏まえた展望とは，見いだされた歴史に関わる諸事象について，同時代の評価や対応，推移や変容，意味や意義に着目して，私たちの生活様式や社会の在り方，現代の国際関係や諸地域間の結びつき，伝統文化や新技術などが，過去の歴史的な画期や様々な交流を経て形成されたことを適切な資料に基づいて多面的・多角的に考察すると共に，生徒自身が主体となる社会への見通しを示すことを意味する。

学習に当たっては，次のような学習展開が考えられる。

Ⅰ　主題の設定と学習上の課題（問い）の表現

これまでの学習を踏まえ，**新聞**やテレビ，インターネット等の**ニュース**や，雑誌・書籍，実際に見聞きするなどして見いだした，現代的な課題に結びつく歴史に関わる事象について，持続可能な社会の実現を視野に入れ，地域社会や身の回りの事象と関連させて，①社会や集団と個人，②世界の中の日本，③伝統や文化の継承と創造の，いずれか一つ，もしくはこれらが複合的に関連する主題を設定し，学習上の課題（問い）として表現する。

例えば，「社会や集団と個人」を取り上げた場合には，集団における意思決定や合意形成への関心から「歴史の中で合意形成の在り方はどのように変化してきたのか，そして今後はどうあるべきだろうか」などの主題に基づく学習上の課題（問い）を表現して探究することが考えられる。

「世界の中の日本」を取り上げた場合には，地域の企業の海外進出についての**新聞記事**への関心から「世界情勢の変化は地域の産業をどのように変えてきたのか，そして今後，世界とどう関わっていくべきだろうか」など，主題に基づく課題（問い）を表現して探究することが考えられる。

「伝統や文化の継承と創造」を取り上げた場合には，地域の祭礼について調べたり，参加するなどの実体験から「社会の変化は伝統文化にどのような影響を与えてきたのか，今後伝統文化はどうなっていくのだろうか」など，設定した主題に基づく課題（問い）を表現したりして探究することが考えられる。

指導に当たっては，主題が地域社会や生徒の生活や生活空間と関連したものであり，かつ科目のまとめとして適切かといった観点に留意することが望まれる。その際，生徒が相互に主題や主題に基づく課題（問い）の妥当性について議論し，より良い主題や課題（問い）を主体的に設定できるようにするなどの活動も考えられる。

Ⅱ　仮説の設定と諸資料の活用

設定した主題を，学習上の課題（問い）に表現した後，主題に関わる歴史や現状を知るための資料を収集する。資料の収集に当たっては，これまでの学習の成果を生かし，資料の有効性や限界等の基本的特性を踏まえた上で，**新聞**や雑誌，写真，映像や遺物などを活用する。その際，博物館や資料館，図書館，公文書館，また，デジタルアーカイブなどの果たす役割に着目すると共に，フィールドワークなどの調査・見学などの学習活動を取り入れることが考えられる。その上で，収集した資料を基に，主題に関する仮説が表現される。例えば，「歴史の中で合意形成の在り方はどのように変化してきたのか，そして今後は

どうあるべきだろうか」などの主題に基づく学習上の課題（問い）を設定した場合には，中世の惣村の自治や近世の地方や町方の資料，近代の地方自治や住民自治に関する資料から，「政治や社会全体の変化が地域住民の合意形成や自治の在り方に大きな影響を与えるのではないか」などの仮説を立てることが考えられる。

例えば，「世界情勢の変化は地域の産業をどのように変えてきたのだろうか，そして今後世界とどう関わっていくべきだろうか」などの学習上の課題（問い）を設定した場合には，ある企業の海外事業所数の変遷から，「地域の産業の変化には海外の戦争や景気が関わっているのではないか」という仮説を立てることが考えられる。

例えば，「社会の変化は伝統文化にどのような影響を与えてきたのか，今後伝統文化はどうなっていくのだろうか」などの主題に基づく課題（問い）を設定した場合には，実際に祭礼に参加した体験や他の参加者からの聞き取りなどを基に，「地域の祭礼の表現や装飾は，時代の価値観を反映しているのではないか」という仮説を立てることが考えられる。

指導に当たっては，資料が主題と関連したものであり，仮説の設定のために適切かといった観点に留意し，場合によって外部の機関や地域の協力が得られるよう助言や働き掛けを行うことが望まれる。その際，生徒が相互に協力して資料を収集したり，仮説の妥当性を相互に検証したりする活動も考えられる。

Ⅲ　仮説の吟味や妥当性の考察

Ⅱで設定した仮説を検証するため，これまでの学習の成果を生かし，様々な資料を基に，歴史の画期に着目して歴史に関わる事象の推移や変化，因果関係を考察し，資料に見られる諸事象の歴史の展開における意味や意義を考察する。その際，複数の資料を活用するとともに，資料を批判的に吟味し，複数の解釈を比較することで多面的・多角的な考察が行われるように留意する。

例えば，「歴史の中で合意形成の在り方はどのように変化してきて，どうあるべきだろうか」などの主題に基づく課題（問い）を設定した場合には，地下掟や村掟，地方自治に関する法令や統計などの資料を基に，身分制の下で展開された自治と，近代の自治，さらに地方自治法制定前後で自治の在り方が変化してきたことや，近年の地域人口の変化などが地方自治にもたらす諸課題について多面的・多角的に考察し，地方自治や住民自治のあるべき姿について展望するといった学習活動が想定できる。

例えば，「世界情勢の変化は地域の産業をどのように変えてきたのか，そして今後世界とどう関わっていくべきなのだろうか」などの主題に基づく課題（問い）を設定した場合には，自治体史や企業の社史など中世や近世の基盤の上に地域の産業が成立していったことを示す文字資料や，近現代の戦争や世界恐慌，国際条約などが地域の産業へ与えた影響を示す諸統計及び産業遺跡などの資料を基に，地域の産業の成り立ちと変容について多面的・多角的に考察し，グローバル化する産業社会の中での地域の産業のあるべき姿について展望するなどの学習活動が想定できる。

例えば，「社会の変化は伝統文化にどのような影響を与えてきたのか，今後伝統文化はど

うなっていくのだろうか」などの主題に基づく課題（問い）を設定した場合には，地域の祭礼などを記録した地方や寺社などに残る文書などの文字資料や，それらを記録した写真や映像などの資料，祭礼の規模や種類の推移，近現代における寺社の統合や消滅，自治体の人口やその構成などを示す統計資料及び遺物や口承などを基に，地域の祭礼の在り方が社会の変化に応じて変容してきた様子について多面的・多角的に考察し，伝統や文化の現状について理解し，それを継承していくために課題を解決したり，新たな形で文化を発信する意義について展望したりするなどの学習活動が想定される。

指導の際には，論証に用いた資料の選び方やその解釈の仕方は適切か，取り上げた歴史に関わる事象についての学説面の理解や説明は合理的で適切か，関連する諸事象や互いに異なる諸見解などを踏まえて多面的・多角的に考察しているか，展望は，歴史的経緯を踏まえて論理的になされているかといった観点に留意することが望まれる。

Ⅳ　学習の成果の発表と対話（歴史の論述）

「考察，構想して表現する」については，探究した主題についてレポートやポスター，スライドの形でまとめるなどして，授業の中などで生徒による発表や意見交換の場面を設定することが望ましい。その際，これまでの学習を踏まえ，主題や仮説の設定が地域社会や生徒の生活や生活空間に関連したものとなっているか，資料が活用されており，その解釈は適切か，説明の内容・表現が的確かといった点などを踏まえて確かな根拠に基づいた考察になっているか，生徒が相互に評価しあうことが考えられる。また，教師や生徒相互の評価などを受けて振り返りを行い，再度考察，構想して理解を深める活動も想定される。

指導の際には，Ⅲに示した観点が適切に表現されているかに着目するとともに，発表や相互評価を経て理解が更に深まったかといった観点に留意することが考えられる。

こうした学習を通して，生徒が歴史を学ぶ意義をより深く認識しつつ，人間尊重の精神に基づく真の国際理解を深め，地域を含めた社会の有為な形成者としての主体性や，日本の果たし得る役割や，諸地域や世界各国の相互協力の必要性について認識できるようにすることが重要である。

第５節　世界史探究

２　内容とその取扱い

＜「世界史探究」の学習の構成＞

⑤課題（問い）の設定と資料の取扱い

「世界史探究」では，学習全般において課題（問い）を設定し追究する学習が求められる。この学習において重要であるのは，第一に課題（問い）の設定であり，第二に課題（問い）の追究を促す資料の活用である。以下，それぞれに関する参考例を示す。

（略）
＜資料の取扱い＞

「世界史探究」では，学習全般にわたって資料活用の重要性が示されているが，その際，資料を活用する技能を高めるために，例えば以下のような留意点が考えられる。

【資料に「問いかける」学習】

諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を段階的に身に付けていくためには，例えば，文字などで記述された資料の内容と当該資料のもつ文脈，状況，前後関係，背景を理解していくことが重要である。文字資料であれば，そこに書かれた内容から，「いつ書いたものか，どんな人物が書いたものか，どこに発表したものか」など，日付，人物，出来事などを読み取る。

さらに「作成者が直接経験した記録なのか，見聞したものなのか，作成者の解釈か，作成者個人の感想か」，「この資料が作成された背景とはどのようなものだったのか，また，どのような意図があったと考えるか」などを教師が問い，生徒が資料の持つ意味や重要性を考えることができるように指導を工夫することが大切である。

また，ある歴史的な事象の関する複数の資料を比較検討して異同を確認することなどの活動は，歴史の多様な解釈の叙述について理解することができ，生徒に疑問を生じさせることに有効である。その際，例えば，絵画と文書のように異なる種類の資料を活用することで，より深い読み取りを促すことができる。

【様々な資料の活用】

新聞・雑誌等を含む文献資料をはじめ，建造物や日常の生活用品を含めた遺跡や遺物，絵画や地図，写真等の画像，映画等の映像，それに伝承や習俗，地名，言語など，様々なものが歴史を考察する上での資料として活用することができる。今日に残された資料を歴史資料として扱う際には，それぞれの資料としての有効性や限界等の基本的な特性が存在することを理解できるようにすることが大切である。その理解を踏まえ，資料から過去の出来事や景観，生活，思想，社会，伝統や文化などを推察する学習活動を通じて，歴史資料が果たす役割に気付くようにして，歴史への関心が高められるようにすることが大切である。

【デジタル化された資料の活用】

博物館，図書館などでは，その収蔵品をはじめ，文化資源をデジタル化して保存を行うとともに，公開や利用を積極的に行う取組が進んでいる。これらのデジタル化された資料は，インターネットを利用することで，利用の可能性を拡大している。多様な歴史資料にアクセスすることで，一層の具体性をもった歴史学習が可能となる。

D　諸地域の結合・変容

(1) 諸地域の結合・変容への問い

この中項目は，諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに，諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現することをねらいとしている。（略）

人々の国際的な移動，自由貿易の広がり，**マスメディア**の発達，国際規範の変容，科学・技術の発達，文化・思想の展開などに関する資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　次のような技能を身に付けること。
(ｱ) 資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。
イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
(ｱ) 諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し，問いを表現すること。
内容の取扱い
(1)については，生徒の学習意欲を喚起する具体的な事例を取り上げ，(2)，(3)及び(4)の学習内容への課題意識やそれらの学習への見通しをもたせるよう指導を工夫すること。また，観点を踏まえることで，諸地域の結合・変容を構造的に捉えることができることに気付くようにすること。

学習に当たっては，中学校までの学習や「歴史総合」の学習の成果を活用して，資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を習得し，イ(ｱ)の諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目して，諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し，生徒が問いを表現することにより，この中項目の冒頭に示したねらいを実現することが大切である。

ここに示されている諸地域の結合・変容を読み解く観点とは，例えば，人々の国際的な移動，自由貿易の広がり，**マスメディア**の発達，国際規範の変容，科学・技術の発達，文化・思想の展開などが考えられる。人々の国際的な移動による国際関係の緊密化，自由貿易の広がりによる市場の拡大，**マスメディア**の発達による社会の変容，国際規範の変容に見られる国際秩序観の変化，科学・技術の発達がもたらした社会の変容，文化・思想の展開に見られる知的活動の特色などに照らして考察することで，諸地域の結合・変容を構造的に捉えることができることに気付くようにする。

問いを表現するとは，人々の国際的な移動，自由貿易の広がり，**マスメディア**の発達，国際規範の変容，科学・技術の発達，文化・思想の展開などに関する資料を活用し，情報を読み取ったりまとめたり，複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより，諸地域の結合・変容に関わって抱いた興味・関心や疑問，追究してみたいことなどを見いだす学習活動を意味している。歴史に対する驚きや素朴な問いが歴史学習の出発点であることを踏まえ，生徒が資料から読み取った歴史についての事象それ自体への問いを表現する中で，学習内容に対する生徒の課題意識を育むことが大切である。生徒が問いを表現する過程においては，単に驚きや素朴な問いを表現するにとどまらず，「歴史総合」で学習した「問いを表現する」学習活動を踏まえ，資料から読み取ることができる内容と既有の知識を関連付けるなどして考察し，表現した問いについて予想や仮説を考案するなどして解決の見

通しをもたせ,歴史の理解を深めるような適切な問いを新たに練り直すような学習活動を,生徒の考察状況に則して段階的に工夫することも有効である。

「(2)，(3)及び(4)の学習内容への課題意識やそれらの学習への見通しをもたせるよう指導を工夫すること」（内容の取扱い）について，この中項目は,「歴史総合」の学習内容をさらに長い時間軸の中で位置付けたり，諸地域に着目して広い視野で捉え直したりする機会として位置付けられていることを踏まえるとともに，大項目Ｄの学習全体への課題意識やそれらの学習への見通しをもたせるために置かれていることから，生徒の学習意欲を喚起する複数の資料，例えば，記念碑などの歴史的建造物やその他の遺物，公文書や手紙・日記，**新聞**・雑誌の**記事や論説**，写真や音声・映像，歴史書，芸術作品や風刺画，科学・技術に関わる文献，統計，さらにこの時代を示す年表や地図などを活用し，具体的な事例に基づく学習活動を通して観点について考察し，生徒の課題意識を高め，生徒が自分自身の問いを表現できるようにすることが求められる。続く(2)，(3)及び(4)の学習では，教師が，生徒の表現した問いを基に主題を設定したり，生徒の表現した問いと関連付けて主題を設定したり，学習過程において生徒の表現した問いに触れたりするなどの学習活動を行うことを想定して,大項目Ｄの学習全体を見通して指導計画を工夫することが必要である。

学習に際しては，以下に示す資料を活用して，生徒がそれらの情報を読み取ったりまとめたりしながら，諸地域の結合・変容に関わって抱いた興味・関心や疑問，追究してみたいことなどを見いだして,自分自身の問いを表現できるようにすることが必要である。(略)

マスメディアの発達を取り上げた場合には，教師が，ラジオや雑誌などの普及の様子を示す資料，娯楽映画・旅行・工業製品などの宣伝広告に関する資料，戦時における**報道**の様子を示す資料など複数の資料を提示し，**マスメディア**の発達による社会の変容に照らして諸地域の結合・変容を読み解く観点に関わる問いかけを行うなどして，生徒が歴史的な見方・考え方を働かせて資料を読み解くことができるように指導を工夫する。生徒は，それらの情報を読み取ったりまとめたりしながら，**マスメディア**の特徴，情報の普及・画一化が社会に与えた影響，個人と社会との関係の変容などについて考察する。(略)

その際，人々の国際的な移動，自由貿易の広がり，**マスメディア**の発達，国際規範の変容，科学・技術の発達，文化・思想の展開などの資料を複数組み合わせて関連付けたり，それらのうち一つであっても視点の異なる複数の資料を比較したりするなど，豊富な資料を基に，生徒がそれらの情報を読み取ったりまとめたりすることにより，諸地域の結合・変容を読み解く観点についての考察を深め，自分自身の問いを表現できるようにすることが必要である。

また，(1)で表現した問いを(2)以降の学習の過程において深化させたり，新たな課題（問い）を見いだしたりするなどして，生徒の歴史学習に対する関心を高め，課題意識を醸成し，生徒の新たな学びに向かう姿勢を育んでいくことが大切である。(略)

Ｅ 地球世界の課題

(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会

この中項目では，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，現代の科学技術や文化の歴史的な特色，第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを考察したり表現したりして，知識基盤社会の展開と課題を理解することをねらいとしている。（略）

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 原子力の利用や宇宙探査などの科学技術，医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理，人工知能と労働の在り方の変容，情報通信技術の発達と知識の普及などを基に，知識基盤社会の展開と課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，現代の科学技術や文化の歴史的な特色，第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

内容の取扱い

(3)については，欧米などの動向のみを取り上げることのないよう留意し，持続可能な社会の実現に向け，科学技術における知識の在り方について，人文科学や社会科学等の知識との学際的な連携が求められていることに気付くようにすること。

学習に当たっては，生徒の学習への動機付けや見通しを促しつつ，イ(ｱ)の科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目して，中項目のねらいに則した考察を導くための主題を設定する。その主題を，例えば，「20 世紀後半以降の科学技術や文化にはどのような特色があり，科学技術の高度化はどのように政治・経済・社会の変化と関わって展開してきたか」などの学習上の課題（中項目全体に関わる問い）として設定する。これを踏まえて，諸資料を比較したり関連付けたりするなどして，多面的・多角的に考察し表現することにより，知識基盤社会の展開と課題を理解する学習が考えられる。（略）

情報通信技術の発達と知識の普及については，情報手段・**マスメディア**の変遷や，インターネット・携帯電話・携帯情報端末の世界的な普及などについて扱う。また，情報化や知識のグローバル化の進展，知識の蓄積やその活用の重要性が高まったこと，知識基盤社会への転換などに伴い，知や人材をめぐる国際競争が激化したことに触れる。

上記の原子力の利用や宇宙探査などの科学技術，医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理，人工知能と労働の在り方の変容，情報通信技術の発達と知識の普及の学習については，中項目の主題を基にした学習上の課題（中項目全体に関わる問い）を踏まえ，中項目

のねらいに則した学習を展開することが大切である。そのため，推移や展開を考察するための課題（問い）を設定し，さらに事象を比較し関連付けて考察するための課題（問い）を設定するなど，事象それぞれの学習の際に，段階的に課題（問い）を設定することが求められる。

こうした諸資料を比較したり関連付けたりする学習を通じて，現代の科学技術や文化の歴史的な特色，第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現することにより，知識基盤社会の展開と課題を理解することができる。（略）

(4) 地球世界の課題の探究

この中項目では，「(1) 国際機構の形成と平和への模索」，「(2) 経済のグローバル化と格差の是正」，「(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会」で学習した事項を参考にして，持続可能な社会の実現を視野に入れ，「地球世界の課題の形成に関わる」主題について，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，多面的・多角的に考察，構想して探究し，地球世界の課題を理解することをねらいとしている。

ここでは，「世界史探究」の学習の総まとめとして，生徒がこれまでに習得した知識や技能を活用して主体的に探究し，その成果を発表したり討論したりするなどの活動を通して，歴史的経緯を踏まえた地球世界の課題を理解することをねらいとしている。そのため，「歴史総合」の学習を踏まえ，全時代の学習を通して習得した知識や技能を活用することが求められる。（略）

次の①から③までについて，内容のＡ，Ｂ，Ｃ及びＤ並びにＥの(1)から(3)までの学習を基に，持続可能な社会の実現を視野に入れ，主題を設定し，諸資料を活用し探究する活動を通して，以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

① 紛争解決や共生
② 経済格差の是正や経済発展
③ 科学技術の発展や文化の変容

ア　次のような知識を身に付けること。
　(ｱ) 歴史的経緯を踏まえて，地球世界の課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
　(ｱ) 地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

内容の取扱い

(4)については，この科目のまとめとして位置付けること。その際，この科目の学習を振り返り，よりよい社会を展望できるようにすること。また，①から③までについては，

相互につながりをもっていることに気付くようにすること。

学習に当たっては，生徒の学習への動機付けや見通しを促しつつ，イ(ｱ)の地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，①紛争解決や共生，②経済格差の是正や経済発展，③科学技術の発展や文化の変容について，社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて，諸資料に基づいて考察，構想したり表現したりすることで，よりよい社会を展望できるようにすることが大切である。

探究する活動とは，生徒の発想や疑問をもとに生徒自らが主題を設定し，これまでに習得した歴史の知識，技能を用いたり，社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせたりして，歴史的観点から諸資料を活用して主体的に多面的・多角的に考察，構想し，表現する活動である。また，生徒が充実した探究活動を行うためには，教師の支援が大切である。（略）

以下は，生徒が探究活動を行う際の教師の関わり方の例である。これらは，あくまで参考であり，教師が，生徒の興味・関心や学校，地域の実態に留意し，様々な状況に応じた工夫をすることが大切である。

＜「紛争の解決や共生」を扱った例＞

【主題の設定と学習上の課題（問い）の表現】

これまでの「世界史探究」の学習内容や「歴史総合」での学習成果を踏まえて，**新聞・ニュース**などで見聞した事象，授業で扱った事象の中から見いだした地球世界の課題について，①紛争の解決や共生，②経済格差の是正や経済発展，③科学技術の発展や文化の変容に関わる課題に関連する主題を生徒が設定する。その際，これまでの「世界史探究」の大項目Ｂ，Ｃ及びＤの(1)でそれぞれ考察した観点を踏まえた問いや，具体的な学習の過程において作り直した問いや新たに出てきた問いなどを振り返らせることが大切である。

また，「主題の設定で理由が明確で，科目のまとめとして適切か」という観点で指導する。「理由が明確」であるとは，取り上げた課題が人類や地球世界にとって重要なものであるかが明確になっていることである。「科目のまとめとして適切」であるとは，全時代の学習を通して歴史的経緯を探究でき，地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりに着目した主題となっていることである。

ここでは，生徒が「戦争防止と平和の実現に向けた取組の歴史的経緯とその展望」を主題として設定した場合，「それぞれの時代における，戦争や平和に対する人々の考え方の変化を踏まえて，これからの国際社会において，すべての人が平和を享受するためにはどのようなことに取り組むべきなのか」という学習上の課題（問い）として示すことが考えられる。

【主題の探究】

○ 見通しを立てる

「何をどこまで明らかにするのか」という計画を立てさせるとともに，資料の収集・分析，考察，構想，発表，討論，振り返りまでの探究の過程について，イメージをもたせることも必要である。また，資料の収集・分析については，「資料の選び方やその分析の仕方が適切か」という観点で指導する。「資料の選び方が適切」であるとは，複数の資料によって裏付けが取れていることや客観的な資料を用いていること，さらには資料の有効性や基本的な特性を踏まえていることである。「分析の仕方が適切」とは，事実に基づき論理的に整合のとれた分析をしていること，論証が曖昧な点についてはそれを明記することなどである。

○ 地球世界の課題の把握

本主題の歴史的経緯にかかわる予想（仮説）を設定するために，現在の国際状況を把握するための資料を収集する。ここでは，例えば，近年のノーベル平和賞の受賞者の活動内容に関する資料や国際連合の平和活動についての資料などを収集させ，現在の「平和」という概念について整理する。

○ 予想や仮説を立てる

課題の現状把握とこれまで「世界史探究」で学習してきたことを基に，主題の歴史的経緯にかかわる予想（仮説）を設定させる。例えば，「これから，すべての人が平和を享受するためには，人権問題や貧困問題の解決に努める必要があるだろう」という予想（仮説）が考えられる。

【考察・構想】

考察，構想に際しては，歴史的経緯を踏まえるとともに，関連・関係性，類似と差異，原因・結果，展開や変化（転換，画期）などに関わる視点に着目するよう助言する。本主題に対しては，例えば，それぞれの時代における戦争についての考え方，戦争の禁止についての規定といった歴史的経緯に関わる資料から，戦争の原因や結果，考え方や規定についての変化に着目して，戦争の対極にある「平和」の概念の変化について考察する。ここでは，17 世紀のウェストファリア条約によるヨーロッパの主権国家の成立，第一次世界大戦，第二次世界大戦後の国際機構の成立，冷戦の終結などを転換点として，戦争が起こった原因や戦争を防止するための対策について考察する。そこから，その時代の人々にとっての「平和」の意味を考察し，これからの社会ですべての人が平和を享受するためには，人権問題や貧困問題の解決に努める必要があるという結論を導き出す。その際，「取り上げた歴史に関わる諸事象についての学説面の理解や説明は合理的で適切か」，「関連する諸事象や互いに異なる諸見解などを踏まえ，多面的・多角的に考察しているか」という観点に留意することが考えられる。

こうした探究活動の結果，仮説のどこが正しくどこが誤っていたか，そして新たに分

かったことは何かを明らかにし，改めて自分が設定した主題についての結論をまとめる。
【まとめ・表現】
探究した主題の内容を論述・レポートなどにまとめ，相互に説明したり意見を聞いたりすることにより，考察，構想をより深めるなどの学習も大切である。また，ディスカッション，ディベートなど生徒同士が意見交換する場面を設定したり，学習活動のまとめとしてグループやクラスでプレゼンテーションの場面を設定したりするなどの工夫が考えられる。
その際，「論述が，これまでに学習した歴史の脈絡の中に適切に位置付けられ，よりよい社会の展望を視野に入れるとともに，論理的になされているか」という観点で指導する。「歴史の脈絡の中に適切に位置付けられ」ているとは，事象の要因，関連，影響などが歴史的経緯のなかで論証されていることである。「よりよい社会の展望を視野に入れる」とは，暫定的であれ現時点での自分の提言や願いが構想されていることである。「論述が論理的になされている」とは，事実にもとづいて論理に整合性があるとともに，他者の見解と自分の考察が区別して表現されていることである。
また，質疑・討論を経たのちに，その協働的な学習をふりかえることで，主題についての多面的・多角的な考察をいっそう深めさせることができる

このような主題を探究する学習を通じて，歴史を学ぶ意義をより深く理解させつつ，人間尊重の精神に基づく真の国際理解を深め，日本の果たしうる役割や世界各国の相互協力の必要性について理解させることが大切である。

第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

２　内容の取扱いに当たっての配慮事項

２ 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。
(2) 調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに，作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際，地図や年表を読んだり作成したり，現代社会の諸課題を捉え，多面的・多角的に考察，構想するに当たっては，関連する各種の統計，年鑑，白書，画像，新聞，読み物，その他の資料の出典などを確認し，その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり，観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ，発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。

「技能」を身に付けることに関しては，各科目の目標において，具体的に次のように記述している。「地理総合」，「地理探究」ではいずれも「調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」，「歴史総合」では「諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」，「日本史探究」では，「諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切か

つ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」，「世界史探究」では「諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」との記述である。

社会的事象に関する様々な情報の活用について「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」の２の(2)の配慮事項として示したのは，こうした各科目の目標を受けて，指導の全般にわたって適切な情報活用を促す学習活動を展開することを重視しているからである。

なお，今回の改訂においては，「作業的で具体的な体験を伴う学習」について，これを重視している。これは，作業的で具体的な体験を伴う自らの直接的な活動を通して社会的事象を捉え，認識を深めていくことを期待しているからである。また，言語活動の充実を一層図る観点から，「地図や年表を読んだり作成したり，現代社会の諸課題を捉え，多面的・多角的に考察，構想するに当たっては，関連する各種の統計，年鑑，白書，画像，**新聞**，読み物，その他の資料の出典などを確認し，その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり，観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ，発表したりする」と示し，表現力の育成を一層重視している。それは，過程を含めて結果を整理し報告書にまとめたり発表したりする活動は，情報の収集，選択，処理に関する技能を高めるばかりでなく，豊かな表現力を育成する上でも重要だからである。それだけに，今回の改訂の趣旨を踏まえて，技能習得のためのより一層の授業改善に努めることが大切である。

【公民科】

第１章　総説

第２節　公民科改訂の趣旨及び要点

２　公民科改訂の要点

(4) 学習指導の改善・充実等

「主体的・対話的で深い学び」については，方式化された授業の方法や技術ではなく，授業改善の考え方として捉えるべきことが議論されてきた。これまで言語活動の充実などの形で教科を超えて図られてきた学習活動の改善が，引き続き「社会的な見方・考え方」を働かせる中で，公民科ならではの「問い」として設定され，社会的事象等に関わる課題を追究したり解決したりする活動が取り入れられることによって実現することが求められる。このことに関しては，「教材や教育環境の充実」として示された，「**新聞**や公的機関が発行する資料等」や「博物館や資料館，図書館などの公共施設」の活用の推進とともに，「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」の項において具体的に示すこととしており，各科目に共通する留意事項として位置付けることとした。（略）

第２章　公民科の各科目

第１節　公共

１　科目の性格と目標

(2) 目標

「公共」の目標は，公民科の目標構成と同様に，柱書として示された目標と，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力の三つの柱に沿った，それぞれ(1)から(3)までの目標から成り立っている。そしてこれら(1)から(3)までの目標を有機的に関連付けることで，柱書として示された目標が達成されるという構造になっている。（略）

(1) 現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

目標の(1)は，「公共」の学習を通して育成される資質・能力のうち，「知識及び技能」に関わるねらいを示している。

現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するについては，単に知識を身に付けることではなく，基礎的・基本的な知識を確実に習得しながら，既得の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより，学習内容の深い理解と，個別の知識の定着を図るとともに，社会における様々な場面で活用できる，現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を獲得していくことを示している。

諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能については，大きく見れば次の三つの技能を用いる学習場面に分けて考えることができる。

第一に，倫理的主体，法的主体，政治的主体，経済的主体などとして活動するために必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能である。第二に，収集した情報を人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせて情報を適切かつ効果的に読み取る技能である。そして第三に，読み取った情報を効果的にまとめる技能である。これらの技能は，情報化が進展する中で社会的事象等について考察するときに求められる力，すなわち，関連のある資料を様々な情報手段を適切かつ効果的に活用して収集し，かつ考察に必要な情報を合理的な基準で適切に選択し分析するとともに効果的にまとめる力を意味している。現代では，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用し，大量の情報を手に入れることが可能となっており，必要な情報とそうでない情報を選別する合理的な基準を見いだす能力を学習の中で養う工夫が重要である。その際，「関連する各種の統計，年鑑，白書，**新聞**，読み物，地図その他の資料の出典などを確認し，その信頼性を踏まえつつ適切に活用」（各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い）できるようにすることが大切であり，情報の出典や発信者の立場や意図なども踏まえ，その信頼性や客観性，真偽などについて適切に吟味するよう指導を工夫することが求められる。

２　内容とその取扱い

Ｂ　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

この大項目は，自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて，現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し，大項目の「Ａ　公共の扉」で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用して，人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，他者と協働して主題を追究したり解決したりする学習活動を通して，人間としての在り方生き方についての理解を深めつつ，法，政治及び経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な知識及び技能，思考力，判断力，表現力等を身に付けることを主なねらいとしている。

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて，現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し，幸福，正義，公正などに着目して，他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 法や規範の意義及び役割，多様な契約及び消費者の権利と責任，司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解すること。

(ｲ) 政治参加と公正な世論の形成，地方自治，国家主権，領土（領海，領空を含む。），我が国の安全保障と防衛，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，よりよい社会は，憲法の下，個人が議論に参加し，意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解すること。

(ｳ) 職業選択，雇用と労働問題，財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化，市場経済の機能と限界，金融の働き，経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。

(ｴ) 現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) アの(ｱ)から(ｳ)までの事項について，法，政治及び経済などの側面を関連させ，自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現すること。

内容の取扱い

(3) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

カ　内容のＢについては，次のとおり取り扱うものとすること。

(ｱ) アの(ｱ)から(ｳ)までのそれぞれの事項は学習の順序を示すものではなく，イの(ｱ)において設定する主題については，生徒の理解のしやすさに応じ，学習意欲を喚起することができるよう創意工夫した適切な順序で指導すること。

(ｲ) 小学校及び中学校で習得した知識などを基盤に，Ａで身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，現実社会の諸課題に関わり設定した主題について，個人を起点に他者と協働して多面的・多角的に考察，構想するとともに，協働の必要な理由，協働を可能とする条件，協働を阻害する要因などについて考察を深めることができるようにすること。その際，生徒の学習意欲を高める具体的な問いを立て，協働して主題を追究したり解決したりすることを通して，自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するために必要な知識及び技能を習得できるようにするという観点から，生徒の日常の社会生活と関連付けながら具体的な事柄を取り上げること。

(ｳ) 生徒や学校，地域の実態などに応じて，アの(ｱ)から(ｳ)までのそれぞれの事項において主題を設定すること。その際，主題に関わる基本的人権の保障に関連付けて取り扱ったり，自立した主体となる個人を支える家族・家庭や地域などにあるコミュニティに着目して，世代間の協力，協働や，自助，共助及び公助などによる社会的基盤の強化などと関連付けたりするなどして，主題を追究したり解決したりできるようにすること。また，指導のねらいを明確にした上で，現実の具体的な社会的事象等を扱ったり，模擬的な活動を行ったりすること。

(ｴ) アの(ｱ)の「法や規範の意義及び役割」については，法や道徳などの社会規範がそれぞれの役割を有していることや，法の役割の限界についても扱うこと。「多様な契約及び消費者の権利と責任」については，私法に関する基本的な考え方についても扱うこと。「司法参加の意義」については，裁判員制度についても扱うこと。

(ｵ) アの(ｲ)の「政治参加と公正な世論の形成，地方自治」については関連させて取り扱い，地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の涵養に向けて，民主政治の推進における選挙の意義について指導すること。「国家主権，領土（領海，領空を含む。）」については関連させて取り扱い，我が国が，固有の領土である竹島や北方領土に関し残されている問題の平和的な手段によ

る解決に向けて努力していることや，尖閣諸島をめぐり解決すべき領有権の問題は存在していないことなどを取り上げること。「国家主権，領土（領海，領空を含む。）」及び「我が国の安全保障と防衛」については，国際法と関連させて取り扱うこと。「国際貢献」については，国際連合における持続可能な開発のための取組についても扱うこと。

(ｶ) アの(ｳ)の「職業選択」については，産業構造の変化やその中での起業についての理解を深めることができるようにすること。「雇用と労働問題」については，仕事と生活の調和という観点から労働保護立法についても扱うこと。「財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」については関連させて取り扱い，国際比較の観点から，我が国の財政の現状や少子高齢社会など，現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて扱うこと。「金融の働き」については，金融とは経済主体間の資金の融通であることの理解を基に，金融を通した経済活動の活性化についても触れること。「経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）」については，文化や宗教の多様性についても触れ，自他の文化などを尊重する相互理解と寛容の態度を養うことができるよう留意して指導すること。

(ｷ) アの(ｴ)については，(ｱ)から(ｳ)までのそれぞれの事項と関連させて取り扱い，情報に関する責任や，利便性及び安全性を多面的・多角的に考察していくことを通して，情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた公正な判断力を身に付けることができるよう指導すること。その際，防災情報の受信，発信などにも触れること。

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて，現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し，幸福，正義，公正などに着目して，他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動については，この大項目の学習の特質を示している。特に，この大項目のねらいを実現するために，他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を行うとしていることに留意することが必要である。

主題については，以下のように捉えることができる。

今回の学習指導要領改訂では，社会科，地理歴史科，公民科の教科の目標及び各科目，分野の目標の柱書部分において「課題を追究したり解決したりする活動」が規定された。ここでいう「課題」は第一義的には学習上の課題を意味しており，このことは「公共」においても変わるものではない。その上で，「公共」の大項目Ｂにおいては，現実社会の諸課題に関わる具体的な学習上の課題を「主題」として示すこととした。また，主題を追究したり解決したりする活動については，法，政治及び経済などの側面を関連させて多面的・多角的に考察することによって主題を解決すること，すなわち深い理解に向かうことを目的とした活動であり，従前の学習指導要領地理歴史科の歴史系科目で用いられてきた主題を設定して行う学習と同様の特質をもっている。その際，主題から「生徒の学習意欲を高める具体的な問いを立て，協働して主題を追究したり解決したりすること」（内容の取扱い）

が必要である。（略）

主題を追究したり解決したりする活動においては，多面的・多角的な考察を深めるという観点から，主題の内容に応じ，現実社会の事柄や課題に関わる諸資料として，例えば，各種の統計，年鑑，白書，**新聞**，読み物等の豊富な資料を教材として積極的に活用することが求められ，これらの資料から考察・構想に必要となる情報を生徒自身が適切に収集し，読み取り解釈したり，議論などを行って考えを深めたりするなどの活動を通じて，「自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付ける」ことが重要である。（略）

この大項目Ｂにおいては，現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し，これを基に生徒の学習意欲を高める具体的な問いを立て，豊富な資料の中からその解決に必要となる情報を収集し，読み取り解釈した上で，解決に向けて考察したり構想したりすることができるよう指導することとしている。例えば，以下は，ア(ｳ)に示された現実社会の事柄や課題の一つである，「財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」についての学習活動の例を示したものである。

例：「少子高齢社会における財政の在り方」を主題とし，問いを設定した学習

まず，財政赤字の現状と将来予測についての**新聞記事**と，高齢化の進行とそれに伴う人口減少により，利用者の減少が進む民間バス会社Ａの赤字路線の存続について意見が割れていることを伝えている**新聞記事**を読み，「財政赤字が常態化する中で，高齢者や通学の高校生が利用する民間の赤字バス路線を存続させるために公的資金を導入すべきか」という問いを設定する。

その上で，それぞれの生徒が，財政及び租税の意義や財政の現状について中学校までに習得した知識などを基に自分の考えをまとめた上で，問いの解決に必要な資料をリストアップするなど見通しを立てる。

次に，グループで，我が国の財政の状況の推移や少子高齢化の進行による影響，社会保障や税負担に関する我が国や他の国々の状況などの情報を，関係する省庁や地方公共団体など公的機関のウェブサイトなどから収集する。また，Ａバスの利用客数や運行本数など**新聞記事**の元となったデータ，民間の公共交通機関に関する同じような事例，このような課題を解決した事例，解決に向けて取り組んでいる事例等についての情報を集める。こうして集めた情報を読み取り，解釈した上で，いくつかの解決策を作成し，議論などを通して少子高齢化が進行する中で，財源をどのように確保し，限られた財源をどのように配分するべきかについて考察する。

この際，大項目の「Ａ 公共の扉」で身に付けた，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方など，選択・判断の手掛かりとなる考え方や，人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由・権利と責任・義務など公共的な空間における基本的原理を活用し，対話を通して，

高福祉・高負担か，低福祉・低負担かといったことをどのように考えるか，社会保障制度を持続可能なものにするためには将来の世代の受益と負担をどのように考えるか，また，Aバスの利用者やその家族，納税者，事業者，行政など様々な立場から，多面的・多角的に考察し，その上で一人一人が根拠をもって選択・判断する。

最後に，自分自身の選択・判断とその根拠や考えの変容などの振り返りを基に，「少子高齢社会における財政の在り方」について，一人一人が自分なりの考えをまとめ，それをもとに意見交換する。

(2) 主として政治に関わる事項

次に示すアの(ｲ)，(ｴ)及びイの(ｱ)は，主として政治に関わる事項である。

この事項は，政治的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて，幸福，正義，公正などに着目して，例えば，民主政治に大切なことは何か，日本国憲法では民主政治の原理はどのように取り入れられているのか，民主政治を推進するために私たちはどのような責任を果たすべきか，といった問いを設け，他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して，「よりよい社会は，憲法の下，個人が議論に参加し，意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解」できるようにすることを主なねらいとしている。（略）

政治参加と公正な世論の形成，地方自治については，以下のように捉えることができる。国民主権が民主政治の根幹であり，日本国憲法の基本的原則であること，我が国が国会を中心とする民主政治の仕組みをとっていること，また，天皇が日本国及び日本国民統合の象徴であること，日本国憲法の規定に基づき，内閣の助言と承認により国事に関する行為を行っていることの理解の基に，民主政治は多数決に基づいて行われることが基本であるが，その際には少数者の権利や意見の尊重が必要であること，国民の多様な意見を国政や地方の政治に十分に反映させるために，表現の自由の保障が重要であること，世論の形成に当たっては，政党の役割，圧力団体や住民運動の影響，**マス・コミュニケーション**やソーシャル・ネットワーキング・サービス （ＳＮＳ）の働きが大きいことを理解できるようにする。また，地方自治の本旨である団体自治，住民自治の考え方について理解を深めるとともに，地方公共団体の首長と議会の議員は，住民の代表としてそれぞれ独立に選挙されること，直接請求権など直接民主制の考え方に基づく仕組みが国政よりもより多く取り入れられていることを理解できるようにする。

その際，民主政治の下では，主権者である国民が，政治の在り方について最終的に責任をもつことになること，それゆえ，**メディア・リテラシー**など，主権者として良識ある公正な判断力等を身に付けることが民主政治にとって必要であることや，身近な生活に関わる事例を用いることにより，地方自治に対する関心を高めることが大切である。

なお，「『政治参加と公正な世論の形成，地方自治』については関連させて取り扱い，地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の涵養に向けて，民主政治の推進における選挙の意義について指導すること」（内容の取扱い）が

必要である。

その際，選挙権年齢が満 18 歳以上であることの趣旨を踏まえて，間接民主政治における参政権の行使である選挙の意義や，政治的無関心の増大がもつ危険性などについて考察し，理解できるようにすることが必要である。

政治参加と公正な世論の形成，地方自治…に関わる具体的な主題については，例えば，議会制民主主義を通して私たちの意思を反映させるにはどうしたらいいか，なぜ議会を通して意思決定を行う必要があるのか，情報化やグローバル化が進む中で公正な世論はどのように形成され得るか，なぜ人々は不正確な情報を信じたり発信したりしてしまうのか，なぜ政治に参加するのか，といった，具体的な問いを設け主題を追究したり解決したりするための題材となるものである。

その際，例えば，実際の選挙をイメージして何を基準に投票するとよいか，協働して考察し，選挙管理委員会などの専門機関の助言を得ながら，模擬選挙を実施することなどが考えられる。模擬選挙では，選挙に関わる情報などを収集し，読み取り，政策を比較した表を作成したり，大項目の「A 公共の扉」で身に付けた考え方などを活用し，自分の意見に近い具体的な政策を選択したりすることにより，投票する際の判断の手掛かりを身に付ける。また，模擬選挙を振り返り，他者と協働して立案・提案することの大切さについて理解するとともに，有権者になること，平和で民主的な国家及び社会の形成者となることについての自覚や，政治に参加することの重要性についての理解を深めたりすることに向かうことが期待される。

また，例えば，自らが居住している地域社会の課題に関して必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取って考察，構想し，模擬議会などを実施することも考えられる。その際，政策や制度として何が必要で，財源はどうするのか，費用対効果はどうか，それを実現させるにはどのような方法が考えられるかなどを話し合い，さらに，関連する世論調査の結果の分析などを行い，表現できるようにすることなどが考えられる。（略）

次に示すアの(ｴ)は，技能に関わる事項である。

この事項は，様々な情報の受信・発信主体など自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けることを主なねらいとしている。

現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けることについては，次のように捉えることができる。

アの(ｱ)から(ｳ)までのそれぞれの事項において設定する主題を扱う際には，多面的・多角的な考察を深めるという観点から，主題の内容に応じ，現実社会の事柄や課題に関わる諸資料として，例えば，各種の統計，年鑑，白書，**新聞**，読み物等の豊富な資料を教材として積極的に活用することが求められ，これらの資料から考察・構想に必要となる情報を生

徒自身が適切に収集し，読み取り，まとめる活動を通じて，「自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付ける」ことが大切である。

また，「(ｱ)から(ｳ)までのそれぞれの事項と関連させて取り扱い，情報に関する責任や，利便性及び安全性を多面的・多角的に考察していくことを通して，情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた公正な判断力を身に付けることができるよう指導すること」（内容の取扱い）が必要であり，現代の社会において，情報は様々な媒体によって作り出されていること，情報それ自体が価値をもち，社会を形成する上で重要な役割を担っていること，また自由な社会の下では情報を作り出すことや利用することが原則として自由であり，そのことが生活を豊かなものとしていること，その反面情報を適切に用いなければ社会や個人にとって多大な損害をもたらしたり，誤った選択や判断をさせてしまったりすることがあるので，情報モラルを含む情報の妥当性や信頼性を踏まえた公正な判断力を身に付けることが大切である。

第３節　政治・経済

１　科目の性格と目標

(2) 目標

「政治・経済」の目標は，公民科の目標構成と同様に，柱書として示された目標と，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」の資質・能力の三つの柱に沿った，それぞれ(1)から(3)までの目標から成り立っている。そしてこれら(1)から(3)までの目標を有機的に関連付けることで，柱書として示された目標が達成されるという構造になっている。（略）

(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに，諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

目標の(1)は，「政治・経済」の学習を通して育成される資質・能力のうち，「知識及び技能」に関わるねらいを示している。

社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するについては，政治や経済に関する事象相互の関連や本質を捉える概念的な枠組みを構成する，現代の政治，経済，国際関係などについての概念や理論などを現実社会の諸事象を通して学習させるとともに，社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりを得ることができるようにすることを意味している。（略）

諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能については，大きく見れば，課題を探究する活動などにおいて次の三つの技能を用いる学習場面に分けて考えることができる。

第一に，社会の在り方を考察，構想するために必要な情報を収集する技能である。第二に，収集した情報を社会の在り方についての見方・考え方を働かせて適切かつ効果的に読み取る技能である。そして第三に，読み取った情報を適切かつ効果的にまとめる技能である。これらの技能は，情報化が進展する中で社会的事象等について考察するときに求められる力，すなわち，関連のある資料を様々な情報手段を効果的に活用して収集し，かつ考察に必要な情報を合理的な基準で適切に選択し分析するとともに効果的にまとめる力を意味している。現代では，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用し，大量の情報を手に入れることが可能となっており，必要な情報とそうでない情報を選別する合理的な基準を見いだす能力を学習の中で養う工夫が重要である。

その際，「関連する各種の統計，年鑑，白書，**新聞**，読み物，地図その他の資料の出典などを確認し，その信頼性を踏まえつつ適切に活用」（各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い）できるようにすることが大切である。

２　内容とその取扱い

Ａ　現代日本における政治・経済の諸課題

(1) 現代日本の政治・経済

(1) 現代日本の政治・経済

個人の尊厳と基本的人権の尊重，対立，協調，効率，公正などに着目して，現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 政治と法の意義と機能，基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係，議会制民主主義，地方自治について，現実社会の諸事象を通して理解を深めること。

(ｲ) 経済活動と市場，経済主体と経済循環，国民経済の大きさと経済成長，物価と景気変動，財政の働きと仕組み及び租税などの意義，金融の働きと仕組みについて，現実社会の諸事象を通して理解を深めること。

(ｳ) 現代日本の政治・経済に関する諸資料から，課題の解決に向けて考察，構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 民主政治の本質を基に，日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し，表現すること。

(ｲ) 政党政治や選挙などの観点から，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

(ｳ) 経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し，表現すること。

(ｴ) 市場経済の機能と限界，持続可能な財政及び租税の在り方，金融を通した経済活動

の活性化について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

内容の取扱い

(2) 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

ウ　内容のＡについては，次のとおり取り扱うものとすること。

(ｱ) (1)においては，日本の政治・経済の現状について触れること。

(ｲ) (1)のアの(ｱ)については，日本国憲法における基本的人権の尊重，国民主権，天皇の地位と役割，国会，内閣，裁判所などの政治機構に関する小・中学校社会科及び「公共」の学習との関連性に留意して指導すること。

(ｳ) (1)のアの(ｱ)の「政治と法の意義と機能，基本的人権の保障と法の支配，権利と義務との関係」については関連させて取り扱うこと。その際，裁判員制度を扱うこと。また，私法に関する基本的な考え方についても理解を深めることができるよう指導すること。

(ｴ) (1)のアの(ｲ)については，分業と交換，希少性などに関する小・中学校社会科及び「公共」の学習との関連性に留意して指導すること。また，事項の全体を通して日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化，現代経済の仕組みや機能について扱うとともに，その特質を捉え，経済についての概念や理論についての理解を深めることができるよう指導すること。

(ｵ) (1)のイの(ｱ)の「民主政治の本質」については，世界の主な政治体制と関連させて取り扱うこと。

(ｶ) (1)のイの(ｲ)の「望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方」については，(1)のイの(ｱ)の「現代政治の在り方」との関連性に留意して，世論の形成などについて具体的な事例を取り上げて扱い，主権者としての政治に対する関心を高め，主体的に社会に参画する意欲をもたせるよう指導すること。

(ｷ) (1)のイの(ｴ)の「市場経済の機能と限界」については，市場経済の効率性とともに，市場の失敗の補完の観点から，公害防止と環境保全，消費者に関する問題も扱うこと。また，「金融を通した経済活動の活性化」については，金融に関する技術変革と企業経営に関する金融の役割にも触れること。

この中項目は，現代日本の政治・経済に関して，個人の尊厳と基本的人権の尊重，対立，協調，効率，公正などに着目して，また，中学校社会科公民的分野及び「公共」における学習の成果の上に立って，現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して，現代日本の政治・経済に関わる概念や理論などを身に付け，課題を意欲的に追究する態度を育成することを主なねらいとしている。（略）

イの(ｲ)の政党政治や選挙などの観点から，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現することについては，以下のように捉えることができる。

政党政治や選挙に関しては，政党が同じ政治上の主義・主張を有する者により組織され，

政策を示し，選挙を通して多くの人々の合意を得て政権を獲得しそれを実現しようとする団体であり，議会制民主主義の運営上欠くことのできないものであることについての理解を基に，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現できるようにすることが求められる。

その際，例えば，現代政治における個人，政党及び圧力団体の行動，住民運動について取り上げ，客観的な資料を基に，国民の政治参加が政策決定に及ぼす影響について多面的・多角的に考察し，表現できるよう指導を工夫することが考えられる。また，これらの学習を通して，議会政治は，対話を通して相反する意見や利害を調整し，共存の可能性を見いだしていく働きをもつものとして重要な価値を有していることや，民主主義は，多数者の意思に基づく政治を基本とするが同時に少数者の権利や意見の尊重が必要であることなどについて理解できるようにすることも大切である。

また，例えば，全世界で民主主義がほとんど唯一の正統な政治原理として承認されるようになったこと，価値観が多様化し利害の対立が複雑化した社会状況の中で，政府による利害調整の働きに対する国民の期待が大きくなっていること，民主主義の下で政治参加が重視されるようになったことなどの理解を基に，行政国家，官僚制，大衆民主主義などの概念を取り上げ，福祉国家の下で国家機能が著しく複雑化・大規模化して，行政府の役割が増大化したこと，**マスメディア**などが国民世論の形成に果たす役割が大きいこと，特定の政治的志向をもたない人々が増加したり，政治的無関心の広がりが見られたりすることなどを踏まえ，望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現できるようにするなど指導を工夫することも考えられる。

さらに，例えば，民主政治を維持するには国民の合理的な意思決定と公正な世論の形成，政治参加と自律的な行動が大切であること，憲法改正手続における国民投票や地方自治における直接請求権など，投票以外にも多様な政治参加の在り方があることについての理解を基に，生徒自らの主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現できるようにするなど指導を工夫することも考えられる。（略）

第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

２　内容の取扱いに当たっての配慮事項

２ 内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(2) 諸資料から，社会的事象等に関する様々な情報を効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに，具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際，現代の諸課題を捉え，多面的・多角的に考察，構想するに当たっては，関連する各種の統計，年鑑，白書，新聞，読み物，地図その他の資料の出典などを確認し，その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり，考察，構想の過程と結果を整理し報告書にまとめ，発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。

「技能」を身に付けることに関しては，各科目の目標において，具体的に次のように記

述している。「公共」では「倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」，「倫理」では「諸資料から，人間としての在り方生き方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」，「政治・経済」では「諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする」との記述である。

社会的事象等に関する様々な情報の活用について「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」の２の(3)の配慮事項として示したのは，こうした各科目の目標を受けて，指導の全般にわたって適切な情報活用を促す学習活動を展開することを重視しているからである。

なお，今回の改訂においては，具体的な体験を伴う学習について，これを重視している。これは，具体的な体験を伴う自らの直接的な活動を通して社会的事象等を捉え，認識を深めていくことを期待しているからである。また，言語活動の充実を一層図る観点から，現代社会の諸課題を捉え，多面的・多角的に考察，構想するに当たっては，関連する各種の統計，年鑑，白書，**新聞**，読み物，地図その他の資料の出典などを確認し，その信頼性を踏まえつつ適切に活用したり，考察，構想の過程と結果を整理し報告書にまとめ，発表したりすると示し，表現力の育成を一層重視している。それは，過程を含めて結果を整理し報告書にまとめたり発表したりする活動は，情報の収集，選択，処理に関する技能を高めるばかりでなく，豊かな表現力を育成する上でも重要だからである。それだけに，今回の改訂の趣旨を踏まえて，技能習得のためのより一層の授業改善に努めることが大切である。

【数学科】

第２章　各科目

第５節　数学Ｂ

３　内容と内容の取扱い

(2) 統計的な推測

(2) 統計的な推測

統計的な推測について，数学的活動を通して，その有用性を認識するとともに次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 標本調査の考え方について理解を深めること。

(ｲ) 確率変数と確率分布について理解すること。

(ｳ) 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解すること。

(ｴ) 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 確率分布や標本分布の特徴を，確率変数の平均，分散，標準偏差などを用いて考察すること。
(ｲ) 目的に応じて標本調査を設計し，収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして，母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに，標本調査の方法や結果を批判的に考察すること。
［用語・記号］信頼区間，有意水準

（略）ここでは，「数学Ⅰ」で，具体的な事象において，実験などを通して仮説検定の考え方を取り扱っていることを踏まえながら，確率の理論を統計に応用し，正規分布を用いた区間推定と仮説検定の方法を理解できるようにする。さらにそれらを通して，母集団の特徴や傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。（略）

目的に応じて標本調査を設計し，収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして，母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに，標本調査の方法や結果を批判的に考察すること（イ（ｲ））

目的に応じて必要となる標本の大きさを，正規分布を用いた区間推定の方法をもとに計算して標本調査を設計したり，正規分布をなす母集団の平均値を検定したり，**新聞**やインターネットなどから得られた標本調査の方法や結果について，仮説検定の考え方に基づいて批判的に考察したりできるようにすることが大切である。また，生徒の特性等に応じて，情報科と連携していろいろな場面で検定を取り扱い，検定の有用性の理解を深めることも考えられる。

このような学習を通して，統計的な推測の意味やよさを理解できるようにし，日常の事象や社会の事象の考察に数学を活用しようとする態度を養うようにする。

【保健体育科】

第２章　保健体育科の目標及び内容
第２節　各科目の目標及び内容
「体育」
３　内容
Ｇ　ダンス
［入学年次の次の年次以降］

(1) 知識及び技能

ダンスについて，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について，感じを込めて踊ったり仲間と自由に踊ったり，自己や仲間の課題

を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい，ダンスの名称や用語，文化的背景と表現の仕方，交流や発表の仕方，課題解決の方法，体力の高め方などを理解するとともに，それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすること。

ア　創作ダンスでは，表したいテーマにふさわしいイメージを捉え，個や群で，対極の動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり，イメージを強調した作品にまとめたりして踊ること。

○　技能

ア　創作ダンス

その次の年次以降では，表したいテーマにふさわしいイメージを捉え，個や群で，対極の動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり，イメージを強調した作品にまとめたりして踊ることを学習のねらいとする。（略）

表したいテーマから中心となるイメージを捉えて動きにする際には，多様な題材の選択や表現の仕方，動きの展開が求められる。そうした多様さを導きだす参考として，いくつかのテーマと題材や動きの例を以下に示すものである。

＜表したいテーマと題材や動きの例示＞

下記のＡからＦまでは表したいテーマの例示であり，括弧の中はそのテーマから浮かび上がる題材や関連する動き，並びに展開例である。（略）

Ｅ　もの（小道具）を使った動き（大きな布，机，ティッシュペーパー，**新聞紙**のボールなど質感や大きさの異なる「もの」を取り上げる）

・大きな布では，布の中に隠れる・出る，布をまるめる・広げる・揺らすなど，「もの」を使って，形状に変化を付けた動きで表現すること。

【芸術科】

第２章　各科目

第７節　工芸Ⅰ

３　内容

Ａ　表現

(2) 社会と工芸

社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　社会的な視点に立った発想や構想

(ｱ) 使う人の願いや心情，生活環境などから心豊かな発想をすること。

アは，社会的な視点に立った発想や構想に関する指導内容を示している。

ここでは，生徒が使う人の側から生活や社会を見つめ，使う人の願いや心情，生活環境

などを考え，心豊かな発想をし，それらを基に使用する人や場などに求められる機能と美しさを考え，制作の構想を練ることができるよう指導することが大切である。

(ｱ)は，社会や生活環境を広く観察し，工芸が現代の生活の中で果たす役割や必要性などに関心を深め,生活をより楽しく心豊かにしていくために,使う人の気持ちや求めるもの，生活環境などを考え，心豊かな発想をすることに関する指導事項である。

使う人の願いや心情，生活環境などとは，使う人の状況や願い，私たちを取り巻く生活環境などのことである。

ここでは，家庭や学校，地域など生徒が生活している日常的な社会や私たちを取り巻く生活環境，公共の場などで，使う人の状況，願いや心情などを想定して，工芸が果たす役割や必要性，工芸作品などの使い勝手や使い心地などについて社会的な視点に立って調べたり検討したりすることが大切である。なお，生活環境などについては，自らの体験だけではなく，情報通信ネットワークなど様々な**メディア**から得た情報を基に想定した環境なども考えられる。

心豊かな発想をすることとは，使う人の願いや心情，求められる条件，つくるものへの思い，想像力などを基に，生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描くことであり，発想や構想の学習を進める上で基盤となるものである。ここでは，他者の視点に立って考えることが大切であり，実際に使う人や場面，作品に求められる条件などを，様々な情報や自己の体験などから想像し，発想をすることが重要である。

指導に当たっては，生徒の課題意識や制作の必要性の意識を高めることが重要である。そのためには，使う人の気持ちや状況などについて，資料などを用いて具体的に理解したり，制作のための様々な条件を解決しながら発想をすることの楽しさを味わわせたりすることが大切である。例えば，生徒の課題意識などを高めるために，身近にいる幼児や高齢者などの生活の様子を思い起こすことや，環境や福祉の視点から課題を見いだすなど，実感をもって考えるための具体的な手立てが求められる。その際,〔共通事項〕との関連を図り，形や色彩，素材や光などの造形の要素の働きやイメージを捉えることができるように造形的な視点を豊かにすることも重要である。加えて，社会的な視点に立って題材を設定するためには，様々な**報道**などにも目を向け，社会における必要性を考慮して発想をすることが大切である。

第８節　工芸Ⅱ

３　内容

Ａ　表現

(2) 社会と工芸 社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　社会的な視点に立った発想や構想

(ｱ) 社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をすること。

アは，社会的な視点に立った発想や構想に関する指導内容を示している。

ここでは，生徒が社会や生活環境などから工芸の役割を深く捉え，多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をし，それらを基に社会における有用性，機能と美しさとの調和を考え，素材の特質や表現の多様性などを生かした制作の構想を練ることができるよう指導することが大切である。

(ｱ)は，社会的な視点に立って，社会や生活環境などを多様な視点から観察し，使用する人や場を考慮して発見した課題を検討し，個性豊かで創造的な発想をすることに関する指導事項である。

社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどとは，社会や生活環境を様々な角度から捉える多様な視点や使う人の状況や心情のことである。ここでは，地域や学校などの日常的な生活環境，空間や公共的な場で使われているものなど，多様な視点から社会や生活環境を捉えたり，多くの人が共通に感じる使い心地や使いやすさなどから，工芸の果たす役割を考え，制作の条件などをより深く観察・検討し，課題意識をもって考えたりすることが大切である。

個性豊かで創造的な発想をすることとは，発想をする上での制約や様々な条件，改善すべき課題を踏まえて，社会をより楽しく心豊かにするために，社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから，独自性や自分らしさを発揮しながら価値のあるものを目指して，生徒自身が強く表したいことを心の中に思い描くことであり，発想や構想の学習を進める上で基盤となるものである。

指導に当たっては，身近なところにある問題や**メディア**等を通じて知り得た情報などの社会の様々な状況に目を向け，課題を発見する力を高めるとともに，多様な視点から使用する人や場を考えて発想できるようにすることが大切である。その際，創造的な発想をするためにアイデアスケッチや言葉などにより思いや考えを整理したり，〔共通事項〕を視点として批評し合ったりするなどの言語活動の充実など具体的な手立てを講じることも必要である。

【外国語科】

第２章　外国語科の各科目

第２節　英語コミュニケーションⅠ

２　内容

〔思考力，判断力，表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，これらを論理的に適切な英語で表現することを通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ここでは，本科目において身に付けるべき資質・能力の柱の一つとして，「思考力，判断力，表現力等」の内容を示している。（略）

高等学校では，外国語で，情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養うことが求められている。そのために，「具体的な課題等」の解決に向けた，英語を用いた言語活動の中で，「論理的に適切な英語で表現すること」を通して，以下のアからウの３点を身に付けることができるよう整理した。

ア　日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり，自分自身の考えをまとめたりすること。

この事項では，英語使用の受容面と発信面の両方に焦点を当てている。中学校では，「日常的な話題や社会的な話題について，英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること」としており，身の回りのことや各種**メディア**から得られる社会情報などについて，英語で聞いたり読んだりした際に，その内容を的確に理解できる能力の育成を図っている。

高等学校では，中学校で「英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える」能力を育成することを踏まえ，聞いたり読んだりした情報の中から概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを判断しながら的確に捉えたり，聞いたり読んだりして得た情報や考えなどについての自分自身の考えをまとめたりする能力を育成することについて述べている。

情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり，自分の考えをまとめたりすることとは，目的や場面，状況などに応じ，何を聞き取ったり読み取ったりしなければならないかを判断し，それに基づいて概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり，聞いたり読んだりして得た情報を整理したり，吟味したり，既にもっている知識と照らし合わせて関連付けたりしながら，自分の考えをまとめたりすることを意味している。ここでは，単に内容を理解するために聞いたり読んだりすることにとどまることなく，受信と発信とを統合させた言語活動が求められていることに留意する必要がある。（略）

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

ウ　読むこと

(ｱ) 日常的な話題について，基本的な語句や文での言い換えや，書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら，電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り，書き手の意図を把握する活動。また，読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

（略）この活動で読み取るのは，電子メールやパンフレットなどにおける情報である。電子メールでは，差出人，受取人，日付，件名，本文などの電子メールの基本的な構成については中学校の外国語科で既に学習しているが，送る相手や目的などに応じて英文の表現形式が異なることなどに留意させる。また，パンフレットには，紹介や宣伝などを意図した英文が掲載されているが，写真や図表などを伴うものが多いため，例えば，旅行案内や商品の**広告**などを扱うことが考えられる。また，ここでは必ずしも電子メールやパンフレットの形ではなくても，必要な情報を伝えるために書かれた英文を扱うことも考えられる。

実際の活動においては，読む前，読んでいる間，読んだ後に前述のような支援を適宜行いながら，適切な活動を展開するようにする。例えば，読む前に，写真や実物などを活用して，これから読む内容と関連のある話題について話すことにより，これから読む内容を推測させたり，読む目的に応じて，どのようなことに気を付けて読むのかを示し，生徒の理解を助けたりすることが考えられる。（略）

② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり，例えば，次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から，五つの領域別の目標を達成するためにふさわしいものを取り上げ，有機的に組み合わせて活用するようにする。

ここでは，言語活動を行う際の参考として，言語の使用場面や言語の働きの具体例を示している。これは，言語活動を行うに当たり，言語の使用場面の設定や，言語の働きを意識した指導において手掛かりとなるよう考慮したものである。

言語の使用場面については，小学校及び中学校では，使用場面の主となる「児童生徒の身近な暮らしに関わる場面」を示した後に「特有の表現がよく使われる場面」を取り上げている。高等学校では，中学校の「生徒の身近な暮らしに関わる場面」を広げた「生徒の暮らしに関わる場面」，「多様な手段を通して情報などを得る場面」及び「特有の表現がよく使われる場面」の三つに分けて示した。

言語の働きについては，小学校及び中学校における分類との対応関係を分かりやすくするために整理をして，一部に高度化を図り，「コミュニケーションを円滑にする」，「気持ちを伝える」，「事実・情報を伝える」，「考えや意図を伝える」及び「相手の行動を促す」の五つに整理し，それぞれ代表的な例を示した。

有機的に組み合わせて活用するとは，取り上げた言語の使用場面において果たされる言

語の働きや，取り上げた言語の働きが生じる言語の使用場面を選択して組み合わせることを意味している。コミュニケーションにおいて言語は，具体的な場面で，具体的な働きを果たすために使用されるのであり，コミュニケーション能力の育成を図るためには，言語の使用場面と働きを明らかにし，具体的な文脈を想定した上で指導に当たることが重要である。

学習する語や表現，文法事項の中には，特定の場面や言語の働きと密接に結び付いていたり，特定の題材やテーマについてコミュニケーションを進める上で重要であったりするものが多い。文法項目や文構造の取扱いについては，それらが具体的な言語の使用場面でどのような働きをするのかを併せて例示し，実際の場面で活用できるよう指導する必要がある。

なお，本科目の学習の初期の段階において言語活動を行う際には，中学校で学習した身近な言語の使用場面や言語の働きを取り上げることで，高等学校における外国語学習の円滑な導入を図ることが重要である。

ア　言語の使用場面の例

(ｲ) 多様な手段を通して情報などを得る場面 ・ 本，新聞，雑誌などを読むこと ・ テレビや映画，動画，ラジオなどを観たり，聞いたりすること ・ 情報通信ネットワークを活用すること など

ここでは，様々な**メディア**を通して英語で情報などを得る場面を想定している。

特に今後のグローバルな情報網の広がりにより，情報収集の方法は一層多様になることが考えられる。本，**新聞**，雑誌などを読むことはもちろんだが，動画やＳＮＳ，インターネットによるラジオなどの情報通信ネットワークを活用した情報のやり取りや情報検索の機会は今後も一層増えることが予想されることから，指導に当たりそれらの場面を取り扱っていく必要がある。

第３節　英語コミュニケーションⅡ

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

ウ　読むこと

(ｱ) 日常的な話題について，必要に応じて，別の語句や文での言い換えや，書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら，新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また，読み取った内容を基に考えをまとめ，話したり書いたりして伝え合う活動。

（略）この活動で読み取るのは，**新聞記事**や**広告**などである。ここでの**新聞記事**では，

実際に起こったことなどの事実の説明や，問題に関する意見などが扱われていることや，**広告**では，商品や店舗の宣伝や，行事の開催の告知などが扱われていることが想定される。

実際の活動においては，読む前，読んでいる間，読んだ後に，前述のような支援を適宜行いながら，適切な活動を展開する。例えば，**新聞記事**や**広告**の内容を読み取らせる前に，見出しや，それぞれの媒体で用いられる特有の表現に注目させ，書かれた目的を踏まえた読み取り方を指導することが考えられる。実際に読む際には，網羅的に読み取るのではなく，必要な情報や考えを who，what，when，where などに答える形で探し出すといった読み方を指導することも考えられる。

読み取った内容を基に考えをまとめるとは，読み取った情報を整理し，その内容を踏まえて，自分の考えなどをまとめることである。これは，「英語コミュニケーションⅠ」における読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動を発展させたものであり，ここでは読み取った情報そのものを伝え合うのではないことに注意する必要がある。（略）

②言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②**に準ずる。

第４節　英語コミュニケーションⅢ

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

イ　聞くこと

(ｱ) 日常的な話題について，インタビューやニュースなどから必要な情報を聞き取り，話の展開や話し手の意図を把握する活動。また，聞き取った内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）この活動で聞き取るのは，インタビューや**ニュース**などである。インタビューは２人以上の話者による会話で，情報を得るために一方が様々な質問をして，他方がそれに答える形式で行われる。教師とＡＬＴによるインタビューを実際にその場で聞いたり，音声や映像によってインタビューを聞いたりすることが考えられる。

ニュースとは，日常的な様々な話題について，ラジオ番組やテレビ番組，インターネットなどを想定して聞くことが考えられる。題材の選択に当たっては，生徒の実態に応じて番組の内容や話される速さや用いられる表現などの英語のレベルに配慮する必要がある。

ここでは，聞いて終わりにするのではなく，聞き取った内容について，ここでの質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動につなげるよう指導する。質疑応答は，実際の話し手との間で行われるものだけではなく，聞き取った内容について理解を確認するために，聞き手である生徒同士で行うことも考えられる。聞き取る内容の理解だけにと

どめるのではなく，理解した上で，それらについてどう考えるのか，自分の意見や感想を話したり書いたりして伝え合うことが大切である。（略）

(ｲ) 社会的な話題について，複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り，概要や要点，詳細を把握する活動。また，聞き取った内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）この活動で聞き取るのは，**ニュース**や講演などである。**ニュース**については**２の(3)のイの(ｱ)**に準ずるが，ここでは社会的な話題に関する**ニュース**を聞くので，時事的な話題が取り上げられることが多いと考えられる。（略）

また，ここでは複数の**ニュース**や講演などとしているが，これは，以下に述べる２の(3)のエ～カの(ｲ)における「聞いたり読んだり」するための資料として扱われることを想定し，それらの資料を多角的な視点から分析する観点から，複数の題材を聞き取る場合があることを示している。ある事柄に対して複数の視点から話された**ニュース**や講演などを，それぞれの論点の違いを整理しながら内容を把握する活動などが考えられる。

実際の展開については，**２の(3)のイの(ｱ)**を参考にする。

ウ　読むこと

(ｱ) 日常的な話題について，新聞記事や物語などから必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また，読み取った内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）この活動で読み取る英語は，**新聞記事**や物語などである。**新聞記事**については，**「英語コミュニケーションⅡ」の２の(3)のウの(ｱ)**に準ずる。（略）

ここでは，読んで終わりにするのではなく，読み取った内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動につなげるよう指導する。ここでの質疑応答は，読み取った内容について理解を確認するために，読み手である生徒同士で行う形態も含まれる。読み取る内容の理解だけにとどめるのではなく，それらを理解した上で，それらについての自分の意見や感想を話したり書いたりして伝え合うことが大切である。（略）

エ　話すこと［やり取り］

(ｲ) 社会的な話題について，ニュースや講演などを聞いたり読んだりして，情報や考え，課題の解決策などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また，やり取りした内容を踏まえて，自分自身の考えなどを整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

（略）この活動で聞いたり読んだりする**ニュース**や講演などについては，**２の(3)のイの(ｲ)**に準ずる。

情報や考え，課題の解決策などを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動については，課題を解決するために，ペアやグループなどで一定の結論を導くために話し合う活動などが考えられる。その際，それぞれの意見の共通点や相違点を確認し，それら

の理由や根拠について比較，検討しながらグループの意見をまとめるなど，複雑な過程を伴うことが多い。そのため，生徒の実態に応じて，役割や形式を決めた話合いから始めるなどの段階的な指導が必要である。（略）

オ　話すこと［発表］

(ｲ) 社会的な話題について，ニュースや講演などを聞いたり読んだりして，情報や考え，気持ちなどを明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）この活動で聞いたり読んだりする**ニュース**や講演などについては，**２の(3)のイの(ｲ)**に準ずる。

ここでの社会的な話題についての発表では，課題研究で取り組んだ内容などを公的な場面で行うことなども想定し，適切な発表の形態や内容の構成の仕方，使用する語彙や表現等の言語材料などについて，モデルとなる発表例を提示しながら指導することが考えられる。（略）

カ　書くこと

(ｲ) 社会的な話題について，ニュースや講演などを聞いたり読んだりして，情報や考え，気持ちなどを自分自身の立場を明らかにしながら，明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）この活動で聞いたり読んだりする**ニュース**や講演などについては，**２の(3)のイの(ｲ)**に準ずる。

ここでは，「英語コミュニケーションⅡ」における活動に加え，自分自身の立場を明らかにしながら伝える活動を例示している。例えば，ある主張に対する賛否などの立場を明示した上で，その理由や根拠について明確に述べる活動である。そのためには，**ニュース**や講演などを聞いたり読んだりして考えを整理するために，要点をまとめたり，内容についてペアで話したりする活動をさせた上で，自分はどちらの立場を取るかについて判断するなどの活動が考えられる。（略）

②　言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②**に準ずる。

第５節　論理・表現Ⅰ

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

②　言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②**に準ずる。

第６節　論理・表現Ⅱ

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

②　言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②**に準ずる。

第７節　論理・表現Ⅲ

１　目標

(1) 話すこと［やり取り］

ア　日常的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，複数の資料を活用しながら，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて適切に用いて，課題を解決することができるよう，情報や考え，気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようにする。

（略）ここでは，課題の解決に向けて多様な視点から情報や考え，気持ちなどを話して伝え合う必要があることから，海外の**ニュース**，**新聞**や雑誌などの**記事**などの多様な**メディア**から収集した複数の資料を活用して自分の考えなどをまとめることを示している。

課題を解決することができるよう，情報や考え，気持ちなどを整理して話して伝え合うとは，「論理・表現Ⅱ」における，自分が身近に入手できる情報を基に相手とやり取りをする交渉から，より複雑な問題の解決のために，複数の資料から得られる情報を活用しながら，やり取りをすることができるようになることを意味している。

ここでは，ある日常的な話題について，まず何が問題になっているのかを説明し，関連する詳細な情報などを提供した上で，問題の解決に向けたやり取りを行うことが考えられる。ここでの課題の解決とは，実際に身の回りで起こっているトラブルなどから，学校や地域における問題解決までのやり取りを含み，それらにおいて一定の合意に至ることができるようになることを示している。

例えば，海外から高校生が来校する際の歓迎行事を決めるために，その国についての情報や，海外で人気のある日本文化などについて，インターネットで調べるなどして行事の計画を立てる活動などが考えられる。

イ　日常的な話題や社会的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，ディベートやディスカッションなどの活動を通して，複数の資料を活用しながら，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて

適切に用いて，意見や主張，課題の解決策などを，聞き手を説得できるよう，論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。

（略）複数の資料を活用することについては，**１の(1)のア**に準ずる。（略）

(2) 話すこと［発表］

イ　日常的な話題や社会的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して，複数の資料を活用しながら，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて適切に用いて，意見や主張などを，聞き手を説得できるよう，論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。

（略）複数の資料を活用することについては，**１の(1)のア**に準ずる。（略）

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

イ　話すこと［やり取り］

(ｱ) 日常的な話題について，ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して，情報や考え，気持ちなどを整理して話して伝え合ったり，課題を解決するために話し合ったりする活動。また，やり取りした内容を整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

（略）情報や考え，気持ちなどを整理して話して伝え合ったり，課題を解決するために話し合ったりする活動については，「論理・表現Ⅱ」の２の(3)のイの(ｱ)を発展させて行う。

必要な情報を探し出すための資料として，**ニュース**や**新聞記事**のほか，インターネットの情報や学術的な文献なども考えられる。

(ｲ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について，質疑応答をしたり，聞き手を説得することができるよう，ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して，意見や主張，課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また，やり取りした内容を踏まえて，自分自身の考えなどを，整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

（略）**ニュース**や**新聞記事**などの複数の資料を活用する際には，**ニュース**や**新聞記事**のほか，インターネットの情報や学術的な文献なども考えられる。得た情報に関しては，その情報が信頼できるものかどうか，その情報を根拠として挙げることが目的に合致しているかなどについて考慮し，必要に応じて出典や発信元を示すことも必要である。（略）

ウ　話すこと［発表］

(ｲ) 日常的な話題や社会的な話題について，ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して，段階的な手順を踏みながら，聞き手を説得することができるよう，意見や主

張などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションをする活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）**ニュース**や**新聞記事**などの複数の資料を活用することについては，**２の(3)のイの(ｲ)**に準ずる。（略）

エ　書くこと

(ｲ) 日常的な話題や社会的な話題について，ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して，発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら，読み手を説得することができるよう，意見や主張などを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）読み手を説得することできるようとは，読み手が納得したり，共感したり，同意したり，更に深く考えたりするように，自分の意見や主張を文章にまとめることができることを意味する。そのために，聞いたり読んだりしたことから得た事実や情報とともに，調査や観察などで得られた資料などを活用しながら，それらを主張や意見を支える根拠として効果的に使用する。その際，必要な情報を収集する方法や，得た情報から主張や意見などの根拠として適当なものを選択する力を身に付けさせることが大事である。また，自分の意見を，得られた情報や事実と区別して書くことを指導することも大切である。

ニュースや**新聞記事**などの複数の資料を活用することについては**２の(3)のイの(ｲ)**を準ずるが，主張を述べる論証文のような文章では，より説得力のある文章にするために，主張を支える根拠として情報を効果的に引用することが大切である。情報の引用に関しては，直接的に情報の原文から引用したり，パラフレーズのように原文の言い換えをしたりするなど，自分の文章の文脈や内容に応じて行う。情報の引用や言い換えに関しては，直接的に引用する場合は出典を明示すること，言い換えを行う場合には，原文の趣旨から逸脱しないように気を付けることなどを指導することが必要である。

②　言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②**に準ずる。

【英語科】

第２章　英語科の各科目

第２節　総合英語Ⅰ

２　内容

〔思考力，判断力，表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(2)に示す事項について，五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(2)**に準ずる。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②**に準ずる。

第３節　総合英語Ⅱ

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

ウ　読むこと

(ｱ) 日常的な話題について，新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また，読み取った内容を基に考えをまとめ，話したり書いたりして伝え合う活動。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅡ」の２の(3)のウの(ｱ)**を参照した上で，専門科目としてふさわしい内容を取り扱う。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②**に準ずる。

第４節　総合英語Ⅲ

１　目標

(1) 聞くこと

イ　社会的な話題について，話される速さや，使用される語句や文，情報量などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り，幅広い視点から，概要や要点，詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

この目標は，「総合英語Ⅱ」の１の(1)のイ「(略)」を発展させたものである。

話の展開に注意しながらとは，ここで聞き取る英語が，量も多く，内容も複雑になっていることが考えられることから，話がどのように展開するのかについて一層注意しながら

聞き取る必要があることを示している。

幅広い視点を捉えるとは，話の概要を把握し，話し手の意図が何であるかを判断した上で，多様な観点から，取り上げられた話題について捉えることである。したがって本科目では，一つの話題について，複数の**ニュース**や講演などから，複数の視点を整理，比較するなどして全体の概要や要点，詳細を捉え，話し手が伝えたい最も重要な情報を把握することができるようになることが求められる。（略）

２　内容

〔思考力，判断力，表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(2)に示す事項について，五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(2)**に準ずる。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

イ　聞くこと

(ｱ) 日常的な話題について，インタビューやニュースなどから必要な情報を正確に聞き取り，話の展開や話し手の意図を把握する活動。また，聞き取った内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）実際の活動については，**「英語コミュニケーションⅢ」の２の(3)のイの(ｱ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

(ｲ) 社会的な話題について，複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り，複数の視点を整理，比較して，概要や要点，詳細を把握する活動。また，聞き取った内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）実際の活動については，**「英語コミュニケーションⅢ」の２の(3)のイの(ｲ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

ウ　読むこと

(ｱ) 日常的な話題について，新聞記事や物語などから必要な情報を正確に読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また，読み取った内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）実際の活動については，**「英語コミュニケーションⅢ」の２の(3)のウの(ｱ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

エ　話すこと［やり取り］

(ｲ) 社会的な話題について，ニュースや講演などを聞いたり読んだりして，情報や考え，課題の解決策などを複数の情報を整理，比較しながら，明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合う活動。また，やり取りした内容を踏まえて，自分自身の考えなどを整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

（略）実際の活動については，**「英語コミュニケーションⅢ」の２の(3)のエの(ｲ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

オ　話すこと［発表］

(ｲ) 社会的な話題について，ニュースや講演などを聞いたり読んだりして，情報や考え，気持ちなどを複数の情報を整理，比較した上で自分自身の立場を明らかにしながら，明確な理由や根拠とともに詳しく話して伝える活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）実際の活動については，**「英語コミュニケーションⅢ」の２の(3)のオの(ｲ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

カ　書くこと

(ｲ) 社会的な話題について，ニュースや講演などを聞いたり読んだりして，情報や考え，気持ちなどを複数の情報を整理，比較した上で自分自身の立場を明らかにしながら，明確な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）実際の活動については，**「英語コミュニケーションⅢ」の２の(3)のカの(ｲ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

②　言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

この事項については，**「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)の②**に準ずる。

第５節　ディベート・ディスカッションⅠ

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

ア　話すこと［やり取り］

(ｱ) 日常的な話題や社会的な話題に関する論題について，必要に応じて，使用する語句や文，やり取りの具体的な進め方が示される状況で，論証文や英文資料などを読んで，論点を整理するとともに，それらを活用して自説の優位性を示す情報や考えを詳しく話して伝え合ったり，相手の意見に質問や反論したりするディベートをする活動。ま

た，やり取りした内容を踏まえて，自分自身の考えなどを整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

（略）本活動においては，論証文や英文資料などを読むことになるが，論証文については，「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)のウの(ｲ)に準ずる。英文資料とは，海外の**ニュース**や**記事**，英語で書かれた書籍や論文などのことである。これらの資料を活用して，扱う話題についての論点を整理することが大切である。（略）

(ｲ) 日常的な話題や社会的な話題について，必要に応じて，使用する語句や文，やり取りの具体的な進め方が示される状況で，スピーチや講義，英文資料などを聞いたり読んだりして，論点を整理するとともに，それらを活用して情報や自分自身の考えを適切な理由や根拠とともに詳しく話して伝えたり，他者の意見に適切に応じたりするディスカッションをする活動。また，議論した内容を踏まえて，自分自身の考えなどを整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

（略）本活動においては，スピーチや講義，英文資料などを聞いたり読んだりするが，スピーチや講義とは，ＡＬＴなどが自分の意見を述べるスピーチを行ったり，関連する話題について生徒の理解を深めるための講義を行ったりすることや，実際のスピーチや講義の映像を視聴したりすることなどが考えられる。英文資料については，**２の(3)のアの(ｱ)**に準ずる。（略）

第６節　ディベート・ディスカッションⅡ

１　目標

(1) 話すこと［やり取り］

ア　社会的な話題に関する論題について，使用する語句や文，議論の展開などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，複数の資料を的確に活用し，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，賛成又は反対の立場をとった上で，聞き手を説得することができるよう，論理的に一貫性のある議論をすることができるようにする。

（略）複数の資料を的確に活用するとは，課題の解決などに向けて多様な視点から情報や考え，気持ちなどを伝え合う必要があることから，海外の**ニュース**や**新聞**や雑誌，ウェブサイトの**記事**などの多様な**メディア**から収集した複数の資料を比較，分析したり，参考文献や参考資料の引用や参照を的確に行ったりしながら，考えなどをまとめることを示している。

聞き手を説得することができるとは，自らの主張の正当性を証明するために，その裏付けとなる数値や具体例,引用等の複数の資料を,議論の文脈に合わせて的確に活用したり，立論，質問，反論，総括等の場面に応じて，自らの主張の優位性を効果的に表現したりすることで，自説に客観的な説得力をもたせることである。（略）

イ　社会的な話題について，使用する語句や文，議論の展開などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，複数の資料を的確に活用し，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，課題の解決策などについて合意形成することができるよう，他者の意見などに配慮しながら自分自身の意見や主張などを詳しく話して伝え合うことができるようにする。

（略）複数の資料を的確に活用することについては，**１の(1)のア**に準ずる。

課題の解決策などについて合意形成するとは，議論している課題の解決策について，多様な価値観を持つ構成員が,話し合いにより意見を一致させたり妥協点を見出だしたりするなど,集団として意思決定を行うことをいう。

他者の意見などに配慮するとは，自分の意見や主張などを一方的に述べるのではなく，他者の意見を傾聴し，賛同できる点を自分の意見に柔軟に取り入れていくなどの態度を指している。ここでは，自分の視点をもちながらも建設的な意見によって，生産的な議論に寄与できる高い論理性と協働性が求められる。

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

ア　話すこと［やり取り］

(ｱ) 社会的な話題に関する論題についての複数の論証文や英文資料などを読んで，論点を整理するとともに，それらを活用して自説の優位性を効果的に示したり，相手の議論に応じて，適切な質問や反論をしたりして聞き手を説得するディベートをする活動。また，やり取りした内容を踏まえて，自分自身の考えなどを整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

（略）本活動においては，複数の論証文や英文資料などを読むが，論証文については，「英語コミュニケーションⅠ」の２の(3)のウの(ｲ)に準ずる。英文資料については，**「ディベート・ディスカッションⅠ」の２の(3)のアの(ｱ)**に準ずる。ここでは，それらの複数の資料を収集し，比較，分析，整理する力などが求められる。（略）

実際の活動については，「論理・表現Ⅱ」及び**「論理・表現Ⅲ」の２の(3)のイの(ｱ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

(ｲ) 社会的な話題について，複数のスピーチや講義，英文資料などを聞いたり読んだりして，論点の共通点や相違点を整理，比較するとともに，課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく話して伝え合い，他者の意見に適切に応じて最善の解決策をまとめるためのディスカッションをする活動。また，議論した内容を踏まえて，自分自身の考えなどを整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

（略）本活動においては，複数のスピーチや講義，英文資料などを聞いたり読んだりす

るが，スピーチや講義については，「ディベート・ディスカッションⅠ」の２の(3)のアの(ｲ)に，英文資料については，**「ディベート・ディスカッションⅠ」の２の(3)のアの(ｱ)**にそれぞれ準ずる。（略）

本活動を行うに際しては，生徒に与える複数の資料の中から何を課題として認識し設定するかについて，各グループの主体性に任せて判断させたりすることで，より自律的な活動へと発展させる配慮も大切である。ここでは，課題に関する現状分析，問題提起，解決策の提案・発表に至るまで，最終的にはディスカッションの一連の過程の全てを生徒に任せることも考えられる。

実際の活動については，「論理・表現Ⅱ」及び**「論理・表現Ⅲ」の２の(3)のイの(ｲ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

第７節　エッセイライティングⅠ

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

ア　書くこと

(ｱ) 日常的な話題について，必要に応じて，使用する語句や文，文章例が示されたり，準備のための一定の時間が確保されたりする状況で，ニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして，論点を整理した上で，それらを活用して情報や考え，気持ちなどを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）本活動においては，英語の**ニュース**や**新聞記事**などを聞いたり読んだりするが，**ニュース**については，**「英語コミュニケーションⅢ」の２の(3)のイの(ｱ)**に，**新聞記事**については，**「英語コミュニケーションⅡ」の２の(3)のウの(ｱ)**にそれぞれ準ずる。このほか，書籍やインターネットを通して得られる情報なども考えられる。（略）

(ｲ) 社会的な話題について，必要に応じて，使用する語句や文，文章例が示されたり，準備のための一定の時間が確保されたりする状況で，スピーチや講義，英文資料などを聞いたり読んだりして，論点を整理した上で，それらを活用して意見や主張などを適切な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）本活動においては，スピーチや講義，英文資料などを聞いたり読んだりするが，スピーチや講義については，「ディベート・ディスカッションⅠ」の２の(3)のアの(ｲ)に，英文資料については，**「ディベート・ディスカッションⅠ」の２の(3)のアの(ｱ)**にそれぞれ準ずる。（略）

第８節　エッセイライティングⅡ

１　目標

(1) 書くこと

ア　日常的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，複数の資料を的確に活用し，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，情報や考え，気持ちなどを読み手を引きつけたり説得したりできるよう，論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

この目標は，「エッセイライティングⅠ」の１の(1)のア「(略)」を発展させたものである。

複数の資料を的確に活用するとは，多様な観点から情報や考え，気持ちなどを伝え合うために，教科書のほか，海外の**ニュース**や発行されている**新聞**や雑誌ウェブサイトの**記事**などの多様な**メディア**から収集した複数の資料を比較，分析したり，参考文献や参考資料の引用や参照を的確に行ったりしながら，考えなどをまとめることを示している。また，複数の資料の中で使用されている語句や表現のモデルとして正しく使うことも意味している。

読み手を引きつけたり説得したりできるようにするとは，読み手が納得，共感，同意したり深く考えたりするように，論理の構成や展開を様々に工夫することである。

また，情報や考え,気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることについては，「論理・表現Ⅱ」の１の(3)のアに準ずる。

イ　社会的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，複数の資料を的確に活用し，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，意見や主張などを読み手を引きつけたり説得したりできるよう，幅広い視点から論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

この目標は，「エッセイライティングⅠ」の１の(1)のイ「(略)」を発展させたものである。

複数の資料を的確に活用することや読み手を引きつけたり説得したりできるようにすることについては，**１の(1)のア**に準ずるが，その際，必要な情報を収集する方法や，得た情報から主張や意見を支えるためのものとして適切なものを選択する力を身に付けさせることが大切である。また，資料から得られた情報や事実を，自分の意見として書くことがないよう，適切な引用や参照の仕方を指導することが重要である。

幅広い視点から論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えるとは，複数の資料から得られた知見や様々な情報を整理し，多様な論点を多元的・多角的に分析しながら，エッセイなどの複数の段落構成をもつ文章を書くことを示してい

る。

また，ここでは，課題研究などに関するレポートなどを扱うことも考えられる。そのほか，概要を述べたり，比較，分析したり，自分の主張を述べたりする様々な型のエッセイを書かせることが大切である。

２　内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

①　言語活動に関する事項

イ　書くこと

(ｱ) 日常的な話題について，複数のニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして，読み手を引きつけたり説得したりできるよう，論点を整理した上で，それらを活用して情報や考え，気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）また，ここでは，多様な視点から情報や考え，気持ちなどを伝える必要があることから，海外の**ニュース**や**新聞**や雑誌，ウェブサイトの**記事**などの多様な**メディア**から収集した複数の資料を活用して考えなどをまとめることを示している。こうした複数の資料を収集し，分析，整理するだけではなく，それらを文章を書く上でのモデルとして活用することも意味している。（略）

(ｲ) 社会的な話題について，複数のスピーチや講義，英文資料などを聞いたり読んだりして，読み手を引きつけたり説得したりできるよう，論点を整理した上で，それらを活用して意見や主張などを複数の情報を整理，比較しながら，効果的な理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

（略）ここでは，複数の情報を整理，比較した上で多様な視点から，意見や主張を伝える必要があることから，公の場で発表されたスピーチや，プレゼンテーションなどを含む講義，インターネットで入手できる英語の情報など，多様な**メディア**から複数の資料を手に入れることを想定している。

明確な論点が示された論理的なエッセイを書くためには，取り扱う話題に関する資料などを参考に，主張したい内容と，それを支える効果的な理由や根拠を考えることが大切である。効果的な理由や根拠として，資料の文章を要約したり，図表などを引用したりして書くことなどが効果的である。その際，適切な引用をするために，学校や地域の図書館などを活用することや，インターネットによる情報の活用の仕方などに触れ，情報を自分で収集して整理することについて指導することが大事である。また，実際に収集した情報の信憑性や，その情報が自分の意見の適切な論拠となっているかどうかを判断する力を育成

することも重要である。また，直接引用したり引用符を用いて引用したりする際に，引用する部分が多すぎないか，要約して引用する際には原典と相違がないかなどについても注意する。

実際の活動については，「論理・表現Ⅱ」及び**「論理・表現Ⅲ」の２の(3)のエの(ｲ)**を参考に，目標に合わせて発展させていくことが必要である。

【家庭科（各学科に共通する教科）】

第２章　家庭科の各科目

第１節　家庭基礎

２　内容とその取扱い

Ｃ　持続可能な消費生活・環境

(2) 消費行動と意思決定

ア　消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や契約の重要性，消費者保護の仕組みについて理解するとともに，生活情報を適切に収集・整理できること。 イ　自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し，工夫すること。 内容の範囲や程度 ウ　内容のＣの（中略）(2)のアについては，多様な契約やその義務と権利について取り上げるとともに，消費者信用及びそれらをめぐる問題などを扱うこと。

ここでは，近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解し，自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにすることをねらいとしている。

ア　（前掲）

消費者の権利と責任については，消費者基本法などを取り上げ，その概要や趣旨を理解し，消費行動を通して生産者や事業者，行政などに消費者としての意見を表明するなど適切な意思決定に基づいて行動するとともに，環境や社会への影響などを考えて行動する責任があること，消費者の権利と責任は表裏一体であり，権利の行使には責任の遂行が伴うことなどについて理解できるようにする。

その上で，一人一人が権利の主体としての意識をもち，自ら進んでその消費生活に必要な情報を収集し，適切な意思決定による消費行動によって意見を表明することなどが消費者の責任であり，権利を行使することにつながることを理解できるようにする。

消費生活の現状と課題については，グローバル化，情報化などの社会変化や，それに伴う販売や流通の多様化，消費者と事業者の情報量の格差など，消費者問題発生の社会的背景について理解できるようにする。その際，消費者被害の未然防止につながるよう，悪質

商法や多重債務，インターネットを通じた消費者被害など近年の消費者被害の状況にも触れる。

消費行動における意思決定については，消費者が財・サービスを購入する際の意思決定を行う過程として，例えば，問題の自覚，情報収集，解決策の比較検討，決定，評価などを取り上げ，消費行動における意思決定の重要性について具体的事例を通して理解できるようにする。（略）

生活情報を適切に収集・整理できることについては，財･サービスに関する正確な情報を入手するために，生活情報として行政からの情報，企業からの**広告**，商品やサービスの表示，インターネット情報などを取り上げ，適切に収集・整理ができるようにする。

イ　（前掲）

自立した消費者としての適切な意思決定に基づく消費行動や，消費生活が環境や社会に及ぼす影響について考察し，持続可能な社会の構築に向けて，身近な消費生活をよりよくしようと工夫することができるようにする。

責任ある消費については，消費生活が環境や社会に及ぼす影響について考えることができるようにするとともに，持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活をよりよくするために，安易に個人的利益や利便性だけを追い求めるだけでなく，環境や社会への影響を意識した責任ある消費について考察し，実際に自己の生活に工夫できるようにする。

指導に当たっては，例えば，売買契約の他にも雇用契約，消費者貸借契約，賃貸契約等について扱いながら，義務と権利について考えることができるようにすることや，インターネットを介した通信販売，マルチ商法・デート商法などの具体的な事例を取り上げ，多様な販売方法・商法について理解できるようにするとともに，消費者信用による多重債務問題などの代表的な消費者問題を取り上げ，その背景や問題点について扱う。また，契約や消費者信用，多重債務問題など現代社会における課題を中心に取り上げ，生徒の生活体験などを踏まえて問題を見いだすことができるよう工夫する。その際，情報機器を活用したり，**広告**やパンフレットなどで関連する情報を集めたりする活動や，それらを多面的・多角的に比較検討した意見交換などを通して，事業者側からの情報を過信することなく批判的思考に裏付けられた意思決定ができるようにする。問題解決的な学習を通して消費者問題が生じる背景や守られるべき消費者の権利について理解できるようにする。消費行動は，家族・保育・福祉や衣食住全てに関わるものであることを意識して，題材を工夫することが望ましい。

第２節　家庭総合

２　内容とその取扱い

Ｃ　持続可能な消費生活・環境

(2) 消費行動と意思決定

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。
(ｱ) 消費生活の現状と課題，消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解を深めるとともに，生活情報の収集・整理が適切にできること。
(ｲ) 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう，消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解するとともに，契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めること。
イ　自立した消費者として，生活情報を活用し，適切な意思決定に基づいて行動できるよう考察し，責任ある消費について工夫すること。
内容を取扱うに当たっての配慮事項
オ　内容のＣの指導に当たっては，（中略）(2)については，消費生活に関する演習を取り入れるなど，理解を深めることができるよう努めること。
内容の範囲や程度
ウ　内容のＣの（中略）(2)のアの(ｲ)については，多様な契約やその義務と権利を取り上げるとともに消費者信用及びそれらをめぐる問題などを扱うこと。

ここでは，近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解し，自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにすることをねらいとしている。

ア(ｱ)　（略）

消費生活の現状と課題については，グローバル化，情報化などの社会変化や，それに伴う販売や流通の多様化，消費者と事業者の情報量の格差など，消費者問題発生の社会的背景について理解できるようにする。その際，消費者被害の未然防止につながるよう，悪質商法や多重債務，インターネットを通じた消費者被害など近年の消費者被害の状況にも触れる。

消費行動における意思決定については，消費者が財・サービスを購入する際の意思決定を行う過程について具体的な事例を通して考え，その重要性について理解できるようにする。意思決定は，問題の自覚，情報収集，解決策の比較検討，決定，評価などの過程があることを理解し，金銭，時間，エネルギーなどの資源の適切な活用とともに，社会的影響力をも意識したよりよい社会の構築を目指した意思決定の重要性についても理解できるようにする。（略）

生活情報を適切に収集・整理できることについては，財･サービスに関する正確な情報を入手するために，生活情報として行政からの情報，企業からの**広告**，商品やサービスの表示，インターネット情報などを取り上げ，適切に収集・整理できるようにする。特に，財・サービスを購入するに際に，質，価格などとともに，安全性，機能性，耐久性，操作性や環境，社会的公平性などに関する項目などを比較検討し，批判的思考に基づいて主体的に意思決定できるようにする。（略）

イ　（略）

自立した消費者としての適切な意思決定に基づく行動や責任ある消費行動とはどうい

うことかについて考察した上で，生活情報を適切に活用して実生活において工夫することができるようにする。

責任ある消費については，消費生活が環境や社会に及ぼす影響について考えることができるようにするとともに，持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活をよりよくするために，安易に個人的利益や利便性だけを追い求めるだけでなく，環境や社会への影響を意識した責任ある消費について考察し，実際に自己の生活に工夫できるようにする。その際，身近な事例を取り上げながら，権利と責任がどのように関わり，権利を行使しなかった場合や責任を果たさなかった場合にどのような影響があるのかについて，ロールプレイやケーススタディなどの演習を通して考察できるようにする。

指導に当たっては，例えば，売買契約の他にも雇用契約，消費者貸借契約，賃貸契約等について扱いながら，義務と権利について考えることができるようにすることや，インターネットを介した通信販売，マルチ商法・デート商法などの具体的な事例を取り上げ，多様な販売方法・商法について理解できるようにするとともに，消費者信用による多重債務問題などの代表的な消費者問題を取り上げ，その背景や問題点について扱う。

個人又はグループで適切な課題を設定し，実際に生じている消費者被害などについて，例えば消費者，生産者，販売者それぞれの立場から具体的な演習を行うなどして，よりよい消費生活について具体的な方策を検討することができるようにする。また，契約や消費者信用，多重債務問題など現代社会における課題を中心に取り上げ，生徒の生活体験などを踏まえて問題を見いだし，課題を設定するようにする。その際，情報機器を活用して調べたり，**広告**や表示（マーク），パンフレットなどで関連する情報を集めたりする活動や，それらを多面的・多角的に比較検討した意見交換などを通して，事業者側からの情報を過信することなく批判的思考に裏付けられた意思決定ができるようにする。問題解決的な学習を通して消費者問題が生じる背景や守られるべき消費者の権利について理解できるようにする。消費行動は，家族・保育・福祉や衣食住全てに関わるものであることを意識して，題材を工夫することが望ましい。

【家庭科（主として専門学科において開設される教科）】

第２章　家庭科の各科目

第１節　生活産業基礎

第２　内容とその取扱い

２　内容

〔指導項目〕

(3) ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供
イ　商品・サービスの開発及び販売・提供
内容の範囲や程度
ウ　〔指導項目〕の(3)の（略）イについては，身近で具体的な事例を取り上げ，商品・サービスの企画，開発から生産，販売・提供に結び付けていく仕組みを扱うこと。（略）

(3) ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供

イ　（略）

新しい商品やサービスは，市場調査の結果などを基に製品開発の方針を決め，様々な企画を検討して試作を繰り返しながら製品化されていくことを，例えば，メニュー開発，幼児向けの玩具や高齢者向けの商品・サービスなど，身近な事例と関連付けて理解できるよう指導する。（略）

さらに，消費者の購買意欲を高めるような店舗設計，ディスプレイ，**広告**などの販売促進について理解を深めることができるよう具体的な事例を通して指導する。（略）

第４節　消費生活

第２　内容とその取扱い

２　内容

〔指導項目〕

(3) 消費者と行政，企業
ア　消費者の自立支援と行政
イ　消費者と企業
内容の範囲や程度
ウ　〔指導項目〕の(3)のアについては，地方自治体の消費者政策も取り上げ，具体的な事例を通して各地域における独自の制度や実情を扱うこと。また，イについては，企業の消費者志向経営や社会的責任などについても扱うこと。

(3) 消費者と行政，企業

ここでは，消費生活センターなど行政や企業の消費生活相談について具体的な事例を通して，消費者の視点に立った商品やサービスの情報の重要性を理解し，消費者として主体的に判断する上で必要な消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて理解できるようにする。また，商品・サービスに関する情報として，行政からの情報，各種商品テスト，**広告**，表示，インターネット情報などを取り上げ，それぞれの情報の特徴や問題点などについて考え，適切に判断し，活用できるようにすることをねらいとしている。

このねらいを実現するため，次の①から③までの事項を身に付けることができるよう，〔指導項目〕を指導する。

① 消費者と行政や企業について，その関わり方や連携の在り方を理解し，関連する情報を収集・整理すること。
② 消費者と行政，企業との関わりや連携の在り方について課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫すること。
③ 消費者と行政，企業について自ら学び，消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組むこと。
（略）

イ 消費者と企業

商品・サービスに関する情報や企業の情報が，様々な方法で提供されていることを理解し，消費者問題の未然防止や解決が図られることについて扱う。また，最近の企業の不祥事の例なども取り上げ，そうした問題の発生の原因や防止について考え，企業の社会的責任や消費者志向経営の重要性を認識できるようにする。

〔指導項目〕

(5) 消費生活演習 イ　消費者支援研究

(5) 消費生活演習

ここでは，〔指導項目〕の(1)から(4)までの学習と関連させた身近な商品・サービスを取り上げて，個人またはグループで適切な課題を設定させ，商品・サービス研究または消費者支援研究のいずれかを取り上げて演習を行い，よりよい消費生活について具体的な方策を検討することができるようにすることをねらいとしている。

このねらいを実現するため，次の①から③までの事項を身に付けることができるよう，〔指導項目〕を指導する。

① 適切な商品やサービスの実相について理解し，関連する情報を収集・整理すること。
② 消費者が商品・サービスを適切に消費する課題を発見し，その解決に向けて考察し，工夫すること。
③ 消費生活演習について自ら学び，消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組むこと。
（略）

イ　消費者支援研究

実際に生じている消費者問題や買物相談，苦情処理などを取り上げて，ロールプレイングやディスカッションを行ったり，**広告**や商品パッケージ，包装の検討や制作などに取り組んだりすることができるよう指導する。また，消費者，生産者，販売者それぞれの立場から具体的な演習を行い，企業，行政，消費者が連携して持続可能な社会の形成や生活の質を向上させる消費者支援について考え，主体的に活動し表現する能力と態度を身に付けることができるよう指導する。

【情報科（各学科に共通する教科）】

第１章　総説

第３節　情報教育の中での共通教科情報科の位置付け

５　高等学校の他教科等との関係

高等学校段階における情報教育を，共通教科情報科だけが担うように極めて限定的に捉えてはならない。高等学校学習指導要領第１章総則第３款の１の(3)に「第２款の２の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため，各学校において，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え，これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また，各種の統計資料や**新聞**，視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。」とあるように，義務教育段階と同様，高等学校段階においても，教科等の特質に応じて教科等横断的に情報活用能力を身に付けさせる教育のより一層の充実が求められている。

また，高等学校学習指導要領第２章第 10 節情報第３款の１の(2)に「他の各教科・科目等の学習において情報活用能力を生かし高めることができるよう，他の各教科・科目等との連携を図ること。」とあるように，共通教科情報科の学びによって身に付けた能力や態度を他の教科・科目等の学習において積極的に活用していくことが重要である。更に第３款の１の(4)に「公民科及び数学科などの内容との関連を図るとともに，教科の目標に即した調和のとれた指導が行われるよう留意すること。」とあるように，(2)の内容をより明確に示す規定を設け，他教科等との関連が重要なことを示している。このことを踏まえ，学校全体での情報教育を考えるときには，共通教科情報科と他教科等の学習内容や学習活動との関連をよく検討してカリキュラム・マネジメントを行い，効果的な指導計画を立てることが大切である。

その際，高等学校学習指導要領第１章総則第３款の１の(6)にあるように，学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図ることも大切である。書籍やデジタルメディアなどの情報と情報手段を合わせて利用できるようにした学校図書館を，学習情報センターとして生徒の主体的な学習活動に役立てていけるように整備を図り活用していくことが必要である。

第２章　共通教科情報科の各科目

第１節　情報Ⅰ

２　内容とその取扱い

(2) コミュニケーションと情報デザイン

メディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し，目的や状況に応じて

受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について，その変遷も踏まえて科学的に理解すること。

(ｲ) 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解すること。

(ｳ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え，それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。

(ｲ) コミュニケーションの目的を明確にして，適切かつ効果的な情報デザインを考えること。

(ｳ) 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し，評価し改善すること。

内容の取扱い

(3) 内容の(2)のアの(ｲ)については，身近で具体的な情報デザインの例を基に，コンピュータなどを簡単に操作できるようにする工夫，年齢や障害の有無，言語などに関係なく全ての人にとって利用しやすくする工夫などを取り上げるものとする。

ここでは，目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて，情報の科学的な見方・考え方を働かせて，メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するようにし，効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身に付けるようにするとともに，コンテンツを表現し，評価し改善する力を養うことをねらいとしている。

また，こうした学習活動を通して，情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとする態度,情報社会に主体的に参画する態度を養うことが考えられる。(略)

ア(ｱ)メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について，その変遷も踏まえて科学的に理解することでは，コミュニケーションを行うために，表現，伝達，記録などに使われるメディアの特性，同期や非同期，１対１や１対多数などのコミュニケーション手段の特徴について理解するようにする。また，情報技術の発達によりコミュニケーション手段が変化したこと,情報の流通量や範囲が広がったこと,即時性や利便性が高まったこと，効果や影響が拡大したこと，コミュニケーションの役割が変化したことなどについて理解するようにする。(略)

イ(ｱ)メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え，それらを目的や状況に応じて適切に選択することでは，よりよくコミュニケーションを行うために，複数のメディアと複数のコミュニケーション手段の組合せについて考える力，コミュニケーションの

目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組合せを選択する力，自らの取組を振り返り評価し改善する力を養う。

例えば，（略）が考えられる。

また，**マスメディア**の情報伝達手段の変遷を取り上げ，紙，電波，情報通信ネットワークなどを扱い，個人と個人のコミュニケーション手段の変遷を取り上げ，手紙，電子メール，SNS などを扱うことが考えられる。また，実際にメディアの扱いやコミュニケーション手段を体験し，それぞれのメリットやデメリットについて扱うことが考えられる。更に，選択したメディアやコミュニケーション手段の組合せを振り返り，評価し改善する学習活動などが考えられる。（略）

(4) 情報通信ネットワークとデータの活用

情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目し，情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し，問題を発見・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素，プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解すること。

(ｲ) データを蓄積，管理，提供する方法，情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解すること。

(ｳ) データを表現，蓄積するための表し方と，データを収集，整理，分析する方法について理解し技能を身に付けること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 目的や状況に応じて，情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに，情報セキュリティを確保する方法について考えること。

(ｲ) 情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えること。

(ｳ) データの収集，整理，分析及び結果の表現の方法を適切に選択し，実行し，評価し改善すること。

内容の取扱い

(5) 内容の(4)のアの(ｱ)及びイの(ｱ)については，小規模なネットワークを設計する活動を取り入れるものとする。アの(ｲ)及びイの(ｲ)については，自らの情報活用の評価・改善について発表し討議するなどの活動を取り入れるものとする。アの(ｳ)及びイの(ｳ)については，比較，関連，変化，分類などの目的に応じた分析方法があることも扱うものとする。

ここでは，情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用する活動を通して情報の科学的な見方・考え方を働かせて，情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解するとともに，データを蓄積，管理，提供する方法，データを収集，

整理，分析する方法，情報セキュリティを確保する方法を身に付けるようにし，目的に応じて情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用する力やデータを問題の発見・解決に活用する力を養うことをねらいとしている。

また，こうした学習活動を通して，情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度，データを多面的に精査しようとする態度，情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする態度を養うことが考えられる。（略）

例えば，（略）学習活動などが考えられる。

更に，テキストマイニングの学習として，**新聞記事**や小説などをテキストデータとして読み込み，適当な整形等を行った上で，単語の出現頻度について調べさせ，出現頻度に応じた文字の大きさで単語を一覧表示したタグクラウドを作らせ，単語の重要度や他の単語との関係性を捉える学習活動などが考えられる。英語と日本語では，テキストマイニングをする際にどのような部分に違いがあるのかについて討論したり，実際にテキストマイニングを行って比較したりする活動なども考えられる。

第２節　情報Ⅱ

２　内容とその取扱い

(2) コミュニケーションとコンテンツ

多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性に着目し，目的や状況に応じて情報デザインに配慮し，文字，音声，静止画，動画などを組み合わせたコンテンツを協働して制作し，様々な手段で発信する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ｱ) 多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解すること。

(ｲ) 文字，音声，静止画，動画などを組み合わせたコンテンツを制作する技能を身に付けること。

(ｳ) コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 目的や状況に応じて，コミュニケーションの形態を考え，文字，音声，静止画，動画などを選択し，組合せを考えること。

(ｲ) 情報デザインに配慮してコンテンツを制作し，評価し改善すること。

(ｳ) コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え，発信の手段やコンテンツを評価し改善すること。

内容の取扱い
(2) 内容の(2)のアの(ｱ)及びイの(ｱ)では，コンテンツに対する要求を整理する活動も取り入れるものとする。アの(ｳ)及びイの(ｳ)では，発信者，受信者双方の視点からコンテンツを評価する活動を取り入れるものとする。

ここでは，コミュニケーションを適切に行うために，目的や状況に応じてコンテンツを制作し，発信する学習活動を通じて，情報の科学的な見方・考え方を働かせ，多様なメディアを組み合わせてコンテンツを制作する方法やコンテンツを発信する方法を理解し，必要な技能を身に付けるようにするとともに，情報デザインに配慮してコンテンツを制作し評価し改善する力を養うことをねらいとしている。

また，こうした学習活動を通して，制作したコンテンツを適切かつ効果的に発信しようとする態度，コンテンツを社会に発信した時の効果や影響を考えようとする態度，コンテンツを評価し改善しようとする態度を養うことが考えられる。（略）

ア(ｱ)多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性との関係について理解することでは，適切にコミュニケーションを行うために，コミュニケーションには送り手と受け手の組合せによって１対１，１対多数，特定少数対不特定多数などの多様な形態があること，情報を表現するメディアには文字，音声，静止画，動画などによる特性の違いがあること，情報を伝えるメディアには電話，テレビ・ラジオなどのような同期型のものと，手紙，電子メール，**新聞**のような非同期型のものがあることを理解するようにする。その際，コミュニケーションの形態とメディアの特性の組合せが重要であることも理解するようにする。（略）

【情報科（主として専門学科において開設される教科）】

第２章　専門教科情報科の各科目

第 11 節　メディアとサービス

第２　内容とその取扱い

２　内容

〔指導項目〕

(1) メディアと情報社会
ア　メディアの機能
イ　メディアの活用

内容の範囲や程度
ア　〔指導項目〕の(1)のアについては，多様なメディアの定義と特徴について扱うこと。イについては，メディアを活用している身近な事例を取り上げ，利用者の目的や状況に合わせたメディアの適切な選択について扱うこと。

(1) メディアと情報社会

ア　メディアの機能

ここでは，社会で利用されている**新聞**，テレビ，電話，インターネットなどのメディアの機能，仕組み，処理の概要などの特性を取り上げ，メディアに関わる基礎的な知識と技術を扱う。また，コンテンツを伝えるためのメディアの具体例を取り上げ，メディアの必要性や重要性について考えること，情報産業や社会におけるメディアの活用状況や果たしている役割などについて扱う。

イ　メディアの活用

ここでは，具体的な事例や実習を取り上げ，利用者の目的や状況に合わせたメディアの適切な選択，組合せ，既存のメディアの分析，新たな活用に関する企画・提案，情報セキュリティに配慮した運用・管理について扱う。その際，メディアに関連する外部組織の見学やヒアリングによる情報収集活動を行うことが考えられる。また，複数のメディアを統合したコンテンツ，多様なセンサからの入力と多様なデバイスへの出力を伴うインタラクティブなメディアの創造についても扱う。その際，メディアの分析や活用については，専用のツールを用いたり，プログラミングなどの手法を用いたりすることが考えられる。

〔指導項目〕

(2) メディアを利用したサービス
ア　メディアを利用したサービスの機能
イ　メディアを利用したサービスの活用

内容の範囲や程度

イ　〔指導項目〕の(2)のアについては，社会で用いられているメディアを利用したサービスの種類と特徴について扱うこと。イについては，メディアを利用したサービスを分析する実習や新たなサービスを企画し提案する実習を行うこと。また，センサなどと組み合わせたサービスについても触れること。

(2) メディアを利用したサービス

ア　メディアを利用したサービスの機能

ここでは，メディアを利用して社会的な価値と意義を有するコンテンツを提供するサービスについて具体的な例を複数取り上げ，サービスの機能，仕組み，処理の概要や企画・設計及び運用・管理などの基礎的な知識と技術を扱う。ここで取り上げる分野には，出版，放送，**広告**，娯楽，文化，公共などが考えられる。また，メディアを利用したサービスの必要性や重要性について考えること，情報産業や社会におけるメディアを利用したサービスの活用や果たしている役割などについて扱う。例えば，メディアを利用したサービスによって収益を得る仕組みや，サービスを無料で提供することを実現する仕組みなどを扱うことが考えられる。

イ　メディアを利用したサービスの活用

ここでは，具体的な事例を取り上げ，メディアを利用者の目的や状況に合わせて適切に

選択したり，組み合わせたりする実習や，利用者の目的や状況に合わせたサービスの企画・提案，設計や運用・管理などについて扱う。ここで扱う対象は，アで扱ったサービスの事例，アプリケーションや Web 上のツールやサービスなどが考えられる。実習に際しては，他者との協働活動を積極的に取り入れた学習，情報端末や各種センサなどを組み合わせたサービス形態について扱う。また，情報産業及び情報産業に関わりのある外部組織との連携による講義，実習，演習等を取り入れることも考えられる。

【商業科】

第１章　総説

第３節　商業科の目標

教科の目標は，次のとおりである。

商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，ビジネスを通じ，地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み，よりよい社会の構築を目指して自ら学び，ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

商業科においては，関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み，社会や産業を支える人材を育成してきた。今回の改訂では，こうしたことを踏まえ，商業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなど通して，ビジネスを通じ，地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力の育成を目指すことを教科の目標に示した。

また，経済のグローバル化，情報技術の進歩など経済社会を取り巻く環境が大きく変化する中にあって，必要とされる専門的な知識，技術などが変化するとともに，高度化してきていることから，育成を目指す資質・能力について，改めてビジネスで求められる資質・能力を見据えて三つの柱に沿って整理し，(1)には「知識及び技術」を，(2)には「思考力，判断力，表現力等」を，(3)には「学びに向かう力，人間性等」を示した。（略）

２　「(1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。」について

商業の各分野とは，高等学校における商業に関する学習内容を体系的に分類した学習分野であるマーケティング分野，マネジメント分野，会計分野，ビジネス情報分野を意味し

ている。

体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにするとは，ビジネスに関する個別の事実的な知識，一定の手順や段階を追って身に付く個別の技術のみならず，それらが相互に関連付けられるとともに，具体的なビジネスと結び付くなどした，ビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術，将来の職業を見通して更に専門的な学習を続けることにつながる知識と技術などを身に付けるようにすることを意味している。

このような知識と技術を身に付けるためには，ビジネスに関する理論について実験などにより確認する学習活動，ビジネスに関する**新聞記事**や**ニュース**などについて知識と技術を総合的に活用して生徒自らが解説する学習活動，ビジネスに関する知識をビジネスの具体的な事例と関連付けて考察する学習活動，商業の学習と職業との関連について理解を深める学習活動などが大切である。（略）

第２章　商業科の各科目

第１節　ビジネス基礎

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

イ　各種メディアの情報を活用するなどして経済社会の動向を捉える学習活動を通して，ビジネスについて理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，ビジネスについて理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，単に知識と技術を身に付けることにとどまらず，**新聞**，放送など各種**メディア**の情報を活用するなどして，経済活動の具体的な事例を取り上げ，ケーススタディやグループでの分析や考察などにより経済社会の動向を捉える学習活動を取り入れることが大切である。

第５節　マーケティング

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

イ　マーケティングの動向・課題を捉える学習活動及びマーケティングに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，企業で行われているマーケティングについて理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，企業で行われているマーケティングについて理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，マーケティングの動向・課題についてマーケティングを担う当事者の視点をもって捉える学習活動及びマーケティングに関する具体的な事例を取り上げ,ケーススタディやディベートなどにより，ビジネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から，市場の動向やマーケティングに関する理論などと関連付けて分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第６節　商品開発と流通

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

イ　商品開発と流通の動向・課題を捉える学習活動及び商品開発と流通に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，企業で行われている商品開発と流通について理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，企業で行われている商品開発と流通について理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，商品開発と流通の動向・課題について商品開発と流通を担う当事者の視点をもって捉える学習活動及び商品開発と流通に関する具体的な事例を取り上げ,ケーススタディやディベートなどにより，ビジネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から，市場の動向や商品開発と流通に関する理論などと関連付けて分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第７節　観光ビジネス

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ア　観光ビジネスの動向・課題を捉える学習活動及び観光ビジネスに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，企業で行われている観光ビジネスについて理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，企業で行われている観光ビジネスについて理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，観光ビジネスの動向・課題について観光ビジネスを担う当事者の視点をもって捉える学習活動及び観光ビジネスに関する具体的な事例を取り上げ，ケーススタディやディベートなどにより，ビジ

ネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から，市場の動向や観光ビジネスに関する理論などと関連付けて分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第８節　ビジネス・マネジメント

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ア　適切なマネジメントの重要性について企業の社会的責任や企業倫理との関連から捉える学習活動及びマネジメントに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，ビジネスにおけるマネジメントについて理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，ビジネスにおけるマネジメントについて理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，適切なマネジメントの重要性について企業の社会的責任や企業倫理との関連から捉える学習活動及びマネジメントに関する具体的な事例を取り上げ，ケーススタディやディベートなどにより，ビジネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から，経済社会の動向やマネジメントに関する理論などと関連付けて分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第９節　グローバル経済

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ア　地球規模で経済を俯瞰して経済社会の動向・課題を捉える学習活動及び経済のグローバル化に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，経済のグローバル化について理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，経済のグローバル化について理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，ビジネスを担う当事者の視点をもって地球規模で経済を俯瞰して経済社会の動向・課題を捉える学習活動及び経済のグローバル化に関する**新聞記事**や**ニュース**などについて，経済のグローバル化をはじめとした様々な知識，技術などを総合的に活用して生徒自らが解説する学習活動を

取り入れることが大切である。また，経済のグローバル化に関する具体的な事例を取り上げ，ケーススタディやディベートなどにより，ビジネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から,経済社会の動向や経済に関する理論などと関連付けて分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第 10 節　ビジネス法規

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ア　ビジネスに関する法規の改正などの動向・課題を捉える学習活動及びビジネスに関する具体的な事例について法的側面から分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，ビジネスに関する法規について理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，ビジネスに関する法規について理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，法規の解釈と適用についての学習にとどまらず，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，ビジネスに関する法規の改正などの動向・課題についてビジネスを担う当事者の視点をもって捉える学習活動及びビジネスに関する具体的な事例を取り上げ，ケーススタディ，ディベート，模擬裁判などにより，妥当性と課題などについて法的側面から分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第 13 節　財務会計Ⅱ

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ウ　企業の経営判断に関する具体的な事例について企業に及ぼす影響を会計的側面から分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，企業活動と財務会計との関連について理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，企業活動と財務会計との関連について理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，企業の経営判断に関する具体的な事例を取り上げ，ケーススタディやディベートなどにより，財務諸表などを基に企業に及ぼす影響を分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第 16 節　情報処理

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ア　企業における情報の管理と活用に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，情報を扱う者としての役割と責任について理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，情報を扱う者としての役割と責任について理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，企業における個人情報や知的財産の保護，情報の管理，発信する情報に対する責任などに関する具体的な事例を取り上げ，ケーススタディやディベートなどにより，ビジネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から，情報が漏洩した場合の企業経営や社会に及ぼす影響などと関連付けて分析し,考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第 19 節　ネットワーク活用

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ア　ビジネスにおけるインターネットの活用の動向・課題を捉える学習活動及びビジネスにおけるインターネットの活用に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，ビジネスにおけるインターネットの活用について理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，ビジネスにおけるインターネットの活用について理解を深めることができるようにすることとしている。

そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，インターネットを活用した企業情報の発信や商取引などのビジネスの動向・課題についてビジネスを担う当事者の視点をもって捉える学習活動を取り入れることが大切である。また，情報技術の進歩や顧客のニーズの変化などに伴って新たに生み出されるビジネスなどに関する具体的な事例を取り上げ，ケーススタディやディベートなどにより，ビジネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から，経済社会の発展などと関連付けて分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

第 20 節　ネットワーク管理

第２　内容とその取扱い

１　内容の構成及び取扱い

（内容を取り扱う際の配慮事項）

ア　情報セキュリティ管理及び情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し，考察や討論を行う学習活動を通して，情報資産を共有し保護する環境の提供を担う者としての役割と責任について理解を深めることができるようにすること。

内容を取り扱う際には，情報資産を共有し保護する環境の提供を担う者としての役割と責任について理解を深めることができるようにすることとしている。
そのため，**新聞**，放送，インターネットなどを活用して情報を入手し，情報セキュリティ管理及び情報通信ネットワークの設計･構築と運用管理に関する具体的な事例を取り上げ，ケーススタディやディベートなどにより，ビジネスに関わる様々な立場に立って，妥当性と課題などの視点から，適切な情報通信ネットワークの管理が社会や企業経営に及ぼす影響などと関連付けて分析し，考察や討論を行う学習活動を取り入れることが大切である。

【福祉科】

第１章　総説

第３節　福祉科の目標

教科の目標は，次のとおりである。

福祉の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習を行うことなどを通して，福祉を通じ，人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。（略）

２「(1) 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。」について

福祉の各分野とは，社会福祉分野，介護福祉分野，児童家庭福祉分野，高齢者福祉分野，障害者福祉分野を意味している。

体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにするとは，福祉の各分野の学習活動を通して,福祉の各事象に関する知識や関係する個別の技術について，それらを相互に関連付けるとともに，日常生活と福祉との結び付きや変化する状況や課題に応じて主体的に活用することができる知識と技術，将来の職業を見通して専門的な学習を続けることにつながる知識と技術などを身に付けるようにすることを意味している。

このような知識と技術を身に付けるためには，福祉に関する理論について調査・研究・実験・実習などにより確認する学習活動，福祉に関する**新聞記事**や**ニュース**などについて

知識と技術を総合的に活用して生徒自らが解説する学習活動，福祉に関する知識を福祉の具体的な事例と関連付けて分析し，考察する学習活動などが大切である。（略）

【総合的な探求の時間】

第５章　指導計画の作成と内容の取扱い
第２節　内容の取扱いについての配慮事項

第３　指導計画の作成と内容の取扱い
２　内容の取扱いに当たっては，次の事項に配慮するものとする。
(5) 探究の過程においては，コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して，情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるよう工夫すること。その際，情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。

（略）総合的な探究の時間では，生徒の探究の過程において，コンピュータなどの情報機器や情報通信ネットワークを適切かつ効果的に活用することによって，より深い学びにつなげるという視点が重要である。

総合的な探究の時間においては，「課題を設定する」，「情報を収集する」，「情報を整理・分析する」，「まとめ・表現する」という探究のプロセスを繰り返しながら課題の解決や探究活動を発展させていく。これらのプロセスにおいて情報機器や情報通信ネットワークを有効に活用することによって，探究がより充実するとともに，生徒にとって必然性のある課題の解決や探究活動の文脈でそれらを活用することにより，情報活用能力が獲得され，将来にわたり全ての学習の基盤となる力として定着していくことが期待される。（略）

情報を収集・整理・発信するとは，探究活動の目的に応じて，本やインターネットを活用したり，適切な相手を見付けて問合せをしたりして，学習課題に関する情報を幅広く収集し，それらを整理・分析して自分なりの考えや意見をもち，それを課題の解決や探究活動の目的に応じて身近な人にプレゼンテーションしたり，インターネットを使って広く発信したりするような，コンピュータや情報通信ネットワークなどを含めた多様な情報手段を，目的に応じて効果的に選択し活用する学習活動のことを指している。

情報の収集に当たっては，図書やインターネット及び**マスメディア**などの情報源から必要な情報を得るにはどのようにすればよいのか，ワークシートなど手書きの記録と併せてデジタルカメラやＩＣレコーダーなど情報を記録する機器を用いて情報収集するにはどのようにすればよいのか，それぞれの長所や短所は何であり，目的や場面に応じてどのように使い分けるのかというような，活用する情報機器の適切な選択・判断についても，実際の探究を通して習得するようにしたい。（略）

(9) 学校図書館の活用，他の学校との連携，公民館，図書館，博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携，地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

総合的な探究の時間における探究の過程では，様々な事象について調べたり探したりする学習活動が行われるため，豊富な資料や情報が必要となる。そこで，学校図書館やコンピュータ室の図書や資料を充実させ，タブレット型端末を含むコンピュータ等の情報機器や校内ネットワークシステムを整備・活用することが望まれる。

学校図書館の「学習センター」，「情報センター」としての機能を充実させ，図書の適切な廃棄・更新に努めること等により，最新の図書や資料，**新聞**やパンフレットなどを各学年の学習内容に合わせて使いやすいように整理，展示したり，関連する映像教材やデジタルコンテンツを揃えていつでも利用できるようにしたりしておくことによって，調査活動が効果的に行えるようになり，学習を充実させることができる。さらに，司書教諭，学校図書館司書等による図書館利用の指導により，生徒が情報を収集，選択，活用する能力を育成することができる。また，インターネットで必要なものが効率的に調べられるように，学習活動と関連するサイトをあらかじめ登録したページを作って，図書館やコンピュータ室などで利用できるようにしておくことも望まれる。（略）

第８章　総合的な探究の時間の年間指導計画及び単元計画の作成

第２節　年間指導計画の作成

２　作成及び実施上の配慮事項

以下，年間指導計画の作成及び実施に当たって配慮すべき四つの点について述べる。

(2) 実社会や実生活との接点を生み出すこと，季節や地域の行事など適切な活動時期を生かすこと

年間指導計画の作成においては，生徒の発達の特性から，実社会や実生活と自らの行為とのつながりを自覚するとともに，実社会や実生活との接点が生み出せるように総合的な探究の時間を行うよう配慮することが大切である。（略）

また，年間指導計画の作成においては，１年間の季節や行事の流れを生かすことが重要である。季節の変化，地域や校内の行事等について，時期と内容の両面から，総合的な探究の時間の展開に関連付けることかできるかを，あらかじめ検討することが大切である。（略）

歴史的な記念日や国際的な記念日をきっかけに，課題の解決や探究活動を展開する際にも，同様の事が考えられる。例えば，世界環境デーや国際平和デーなどの国際デーは，国際連合などの国際機関によって定められた記念日であり，毎年決められた日や週などに特定の問題に関して関心を高めたり，問題の解決を呼びかけたりしている。国際デーが近づくと**報道**などでその内容が紹介されることも多い。このような機会をとらえて，**新聞**やテレビなどから得られた資料を紹介するなどして関心を呼び起こし，地域で行われる活

動に生徒が参画したり，専門家を教室に招いて話を聞いたりする，さらには，校内や地域で，独自にその記念日の趣旨に基づく活動を企画して実行することへと発展することもできる。社会的な関心の高まりを生かした学習活動を行うことによって，生徒の学習は一層深まるものと考えることができる。

第３節　単元計画の作成

１　単元計画の基本的な考え方

(2) 意図した学習を効果的に生み出す単元の構成

生徒の興味・関心等に基づく生徒主体の学習活動の中で，意図する学習を効果的に生み出し，資質・能力を育成するためには，教師による意図的な単元構成が欠かせない。単元を構成するに当たっては，次の２点に留意することが大切である。（略）

これらの留意点は，具体的には次のような指導や生徒の姿に結び付く。

ここでは，「自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題」を探究課題とする単元計画を作成することを考える。

まず，その関心や疑問から，生徒はどのような活動を求め，展開していくだろうか，と考える。生徒は，地域や地球上で起きている環境問題について他教科等や**メディア**，書籍等から情報を得たり，小・中学校などで学習した経験があったりすることから，環境問題への関心や知識をもっているであろう。そうした生徒は，自然環境がどのように変化し，それがどのような環境問題となっているかを調べたり，自分がもっている知識や認識が正しいのか確かめたりしようとする。この場面では，地域の自然環境の変化，国内や世界の環境問題，環境が人間に与える影響などの課題を設定し，調査したり，情報を集めたりする。地域の自然環境の変化であれば，市史や昔の写真との比較，住民へのインタビュー調査，地域の状況に詳しい専門家へのインタビューなどを行うであろう。国内や世界の環境問題が人間に与える影響であれば，書籍や調査研究のデータを収集したり，専門家へのインタビューをしたりするであろう。ここで，集めた情報を整理・分析し，互いに交流する場を設ける。そうすると，地球温暖化は世界規模の問題でもあり自分たちの地域の問題でもあることや，大気汚染や水環境，食糧の安全性など，人間への影響が大きいことを再認識すると同時に，このような問題に対して人間がどのように関わっていけばいいのかという疑問をもつようになる。そこで，今も続く環境問題として被害者の話を聞く場を設定する。被害者の話を聞いた生徒は，被害者の苦しみに心を寄せ，現状に憤りを感じるであろう。そうした生徒は，さらに，環境問題の被害者や加害者はどんな人で，今現在その関係はどのような状況にあるのかを知りたいと思うであろう。また，被害者はどのような思いで暮らし，問題の改善のためにどのようなことに取り組んでいるのか，被害者ではない周りの大勢の人はその問題や被害者，加害者に対してどのような思いをもっているのか，日本の政府はどのような取組をしているのか，世界的にはどのような取組をしているのか等の問いをもつであろう。それぞれの問いや疑問から「環境問題が社会に与える影響

は何か」，「世界の環境問題と私が住む地域の環境との関連」などの新たな課題を設定し，課題解決の情報を得ようと動き出すであろう。例えば，水俣病を手がかりに探究していく生徒であれば，原因物質であるメチル水銀や神経病理学についての論文や発展途上国と水銀汚染の関係に関する論文を読むであろう。また，国連環境計画（ＵＮＥＰ）の報告書や「水銀に関する水俣条約」外交会議の取組を調べたりもするであろう。

さらに，調査結果やまとめたことを交流することにより，自分を含めた人間が加害者にも被害者にもなり得るという視点や，持続可能な社会を実現するという視点をもちながら議論をし，考えを深めていく。

このように，環境問題を人権，経済，エネルギー，生物多様性などの側面から深く，あるいは多様に探究していくことで，持続可能な社会づくりの概念的知識が形成され，探究の見方・考え方を働かせながら，資質・能力を獲得していくような深い学びを実現させていくことができる。

例を挙げて述べてきたように，生徒の視点で丁寧に単元を構想する中で，各学校が設定した目標及び内容が，確かに実現するかどうかを判断していかなければならない。特に，教師はどこでどのような意図的な働きかけをする必要があるのか，またその際に留意すべき事柄は何かなども，具体的に明らかにすべきである。

【特別活動】

第３章　各活動・学校行事の目標と内容

第１節　ホームルーム活動

２　ホームルーム活動の内容

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ　男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに，共に協力し尊重し合い，充実した生活づくりに参画すること。

この内容は，学校教育全体を通じて，人間の尊重や平等について考え，男女が共同して社会に参画することや協力して充実した生活を築くことのできるようにするものである。男女相互について理解するということは，互いに相手のよさを認め合うことである。独立した一個の人格としてその尊厳を重んじ，人間としての成長と幸せを願うという点において，異性間における相互の在り方は，基本的に同性間におけるものと変わることころがない。（略）

ここで育成を目指す資質・能力としては，例えば，男女相互に独立した一個の人格として互いを尊重し合い,共に協力して充実した社会づくりに参画することの大切さを理解し，人間関係を築くに当たってのルールやマナーを大切にし，共に充実した学校生活をつくる

ことができるようになること等が考えられる。また，そうした過程を通して，家庭や地域社会における男女相互の理解と協力の在り方などについて幅広く考え，共に生きる人間として豊かに成長しようとする態度を育てることも考えられる。

具体的には，男女相互の理解と協力，人間の尊重と男女の平等，男女共同参画社会と自分の生き方などの題材を設定し，アンケートやインタビューを基にしたり，**新聞**やテレビ等の資料を参考にしたりして，話し合うなど活動の工夫を行うことが考えられる。（略）

ウ　国際理解と国際交流の推進

我が国と他国の文化や生活習慣などについて理解し，よりよい交流の在り方を考えるなど，共に尊重し合い，主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を探究しようとすること。

この内容は，国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち，外国の生活や文化を理解し，諸外国の人々と隔てない心で接し，互いに尊重し，積極的かつ豊かに交流し，国際社会の平和と発展に貢献することのできるようにするものである。（略）

この内容において育成を目指す資質・能力としては，例えば，我が国や他国の歴史や伝統・文化について理解し，共に交流，尊重し合って，国際社会に生きる主体的な日本人としての在り方生き方を探究し，国際社会の平和と発展に貢献しようとする態度を養うことが考えられる。また，そうした過程を通して，国際社会において尊敬され，信頼される日本人として成長していくことが大切である。

例えば，**マスコミ**等の国際理解や国際交流をテーマにした**記事**や番組を取り上げディスカッションしたり，外国での生活経験をもつ地域の人や国際貢献を担う人々の体験談などを聞いて話し合ったり，留学生など外国の人々との意見交換や交流会などを実施したりして，国際理解や国際交流の在り方についての考えを深めていくことなどが考えられる。（略）

第２節　生徒会活動

３　生徒会活動の指導計画

(2) 内容相互及び各教科・科目及び総合的な探究の時間などの指導との関連を図る

各教科・科目，総合的な探究の時間，特別活動の学習活動は，それぞれ独自の教育的意義をもちながらも，相互に関連し合って，全体として学校の教育目標の達成を目指すものである。特別活動と各教科・科目，総合的な探究の時間等との関連については，本解説第２章第２節の４において述べているが，生徒会活動の指導計画の作成に当たっては，例えば，風紀委員会やボランティア委員会，**新聞委員会**など各種の委員会の活動方針や計画の作成等において，各教科・科目や総合的な探究の時間との関連を図り，活動のねらいを明確にしたり，活動する内容に広がりをもたせたりすることが大切である。（略）

以　　上